

第2章 統計

第1節 実績の概要

第1項 産科部門診療実績

本年の対象医療機関は、県内全分娩取扱医療機関の10病院、11診療所、7助産所である。県内の分娩総数は7,419件で、前年の7,771件から約4.5%減少した（表12）。施設別にみると、病院は2,893件で前年（3,132件）から9.2%減少、診療所は4,370件で前年（4,454件）から1.9%減少、助産所は156件で前年（185件）から15.7%減少した。施設別の構成比は前年とほぼ同様であるが、病院および助産所での分娩数減少が顕著であった。分娩様式、合併症妊娠、周産期合併症等については別項で述べる。

表12 2024年産科部門診療実績

（例）

2024年		県総合	天理よろづ	医大	病院 (左3病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数	666	253	814	1,160	4,370	156	7,419
	経膈分娩	405	208	469	875	3,524	156	5,637
	帝王切開	261	45	345	285	846	-	1,782
	うち予定	151	32	150	177	471	-	981
	うち緊急	110	13	195	108	375	-	801
	帝王切開率（%）	39.2%	17.8%	42.4%	24.6%	19.4%	-	24.0%
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	35	1	67	0	2	0	105
	35週	25	6	37	4	7	0	79
	36週	58	6	38	33	79	0	214
	37週	118	18	125	146	337	7	751
	38週	150	69	215	269	1,149	22	1,874
	39週	138	63	204	349	1,339	55	2,148
	40週	135	71	111	290	1,140	65	1,812
	41週	43	21	23	71	295	7	460
	42週以上	0	0	0	0	4	0	4
出生体重 (死産児は除く)	不明	0	0	0	2	1	0	3
	1,500g未満	9	0	31	2	2	0	44
	1,500-1,999g	37	3	39	5	6	0	90
	2,000-2,499g	108	28	130	85	195	3	549
	2,500g以上	548	224	620	1,072	4,150	153	6,767
出産時年齢	不明	0	0	0	0	0	0	0
	35歳未満	379	186	473	845	3,274	113	5,270
	35-39歳	209	55	243	246	941	35	1,729
	40-44歳	69	11	92	67	148	8	395
	45歳以上	9	1	6	2	7	0	25

合併症妊娠	子宮筋腫	44	10	56	31	58	1	200
	子宮筋腫（核出術後）	9	2	7	5	11	0	34
	付属器異常	7	2	16	11	22	0	58
	子宮頸がん（既往含む）	18	0	3	9	3	0	33
	子宮形態異常（子宮奇形）	4	1	6	4	3	0	18
	甲状腺機能亢進症	8	3	15	7	21	0	54
	甲状腺機能低下症	50	3	41	15	63	0	172
	糖尿病（含GDM）	20	16	67	39	43	1	186
	呼吸器 肺炎・気管支炎	17	15	17	22	78	0	149
	慢性腎炎	1	1	7	1	0	0	10
	本態性高血圧	10	3	13	0	0	0	26
	血液疾患	6	1	12	92	1	0	112
	自己免疫疾患	9	3	8	3	3	0	26
	循環器疾患 心血管疾患	4	2	21	4	2	0	33
	精神科疾患（含てんかん）	27	3	48	26	27	0	131
	ウイルス性肝炎（※1）	0	0	1	3	3	0	7
	消化器疾患（※2）	4	1	2	2	12	0	21
	その他	25	0	0	3	4	0	32
産科合併症 （重複あり）	切迫早産（※3）・前期破水（※4）	111	19	143	112	179	0	564
	妊娠高血圧症候群	51	9	84	31	87	0	262
	胎児発育不全	55	2	31	6	10	0	104
	前置胎盤	12	1	22	0	1	0	36
	子癇	0	1	0	2	0	0	3
	弛緩出血（※5）	76	60	8	95	249	2	490
	常位胎盤早期剥離	4	1	9	2	8	0	24
	HELLP症候群	1	0	0	0	1	0	2
	低置胎盤	9	2	9	3	0	0	23
	血液型不適合	3	2	2	7	10	0	24
	羊水過少	14	0	9	6	41	0	70
	羊水塞栓	0	0	0	0	0	0	0
	その他	97	0	0	14	4	1	116
産科手術他	子宮頸管縫縮術 ※予防的	11	0	10	7	11	0	39
	子宮頸管縫縮術 ※治療的	3	0	21	0	0	0	24
	産道血腫除去術	2	0	3	4	8	0	17
	子宮動脈塞栓術	9	0	3	0	0	0	12
	子宮摘出術	0	0	1	1	0	0	2
	胎児胸腹水穿刺	1	0	0	0	0	0	1
	羊水除去	1	0	0	0	0	0	1
	胎児胸腔シャント	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	10	0	10
輸血治療症例		24	4	11	3	1	0	43

※1 HA,HB,HCなど／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など／※3 入院のみ／※4 早産期／※5 羊水を含む出血量800ml以上、帝王切開1500ml以上

※ 参考

1 医療機関別特定妊婦数および未受診妊婦数

各医療機関において分娩を取り扱った患者のうち、市町村が認定した特定妊婦の数について集計を行った。また未受診妊婦についても集計した。

医療機関等において特定妊婦と思われる者を把握したときには、支援につなげるため、市町村に情報提供することが児童福祉法において努力義務として求められている。県内医療機関においても関係機関との連携に努めているところである。

特定妊婦は128名、未受診妊婦は17名であった。なお、未受診妊婦は、①全妊娠期間を通じての妊婦健診受診回数が3回以下あるいは②最終受診日から3か月以上の受診がない、のいずれかに該当する場合としている（表13）。

表13 医療機関別特定妊婦および未受診妊婦数報告内訳

		(例)												
		奈良 医大	県総合	近大 奈良	天理 よろづ	市立 奈良	大和 郡山	大和 高田	高井	桜井	生駒 市立	診療所	助産所	計
2024年	特定妊婦数	33	33	0	17	7	3	0	0	3	0	32	0	128
	未受診妊婦数	5	8	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	17
	計	38	41	0	18	8	4	0	0	3	0	33	0	145
2023年	特定妊婦数	34	37	0	2	4	5	17	1	5	0	42	0	147
	未受診妊婦数	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	13
	計	34	49	0	2	4	5	17	1	5	0	43	0	160
2022年	特定妊婦数	22	25	0	5	9	4	0	0	1	0	39	0	105
	未受診妊婦数	2	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	12
	計	24	34	0	5	10	4	0	0	1	0	39	0	117
2021年	特定妊婦数	36	21	0	1	7	2	17	0	1	8	38	0	131
	未受診妊婦数	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	計	39	24	0	2	7	2	17	0	1	8	38	0	138
2020年	特定妊婦数	37	22	0	7	8	0	18	2	1	6	29	0	130
	未受診妊婦数	1	3	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	7
	計	38	25	0	8	8	0	18	2	1	7	30	0	137

※各医療機関において分娩を取り扱った患者が対象

<妊娠の届出（母子健康手帳の交付）等の状況>

市町村への妊娠届出数のうち保健師が面談、アセスメント等を行い支援が必要となった妊婦の数および特定妊婦数について県内市町村分をとりまとめて集計している。妊娠届出数は減少しているが支援が必要となった妊婦数は横ばいか僅かに増加傾向である（表 14）。同様に、特定妊婦数も増加傾向にある。

表 14 妊娠の届出状況

		(件)				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総数	妊娠届出数	8,160	7,748	7,339	6,969	6,811
	支援が必要となった妊婦の数	1,808	1,768	1,854	1,974	1,964
	特定妊婦数	177	174	184	187	198
満11週以内 （3ヶ月以内）	妊娠届出数	7,891	7,521	7,075	6,699	6,544
	支援が必要となった妊婦の数	1,673	1,638	1,710	1,812	1,812
	特定妊婦数	138	137	146	139	153
満12週～19週以内 （第4月～第5月以内）	妊娠届出数	188	173	181	208	201
	支援が必要となった妊婦の数	81	90	76	113	97
	特定妊婦数	19	25	11	25	22
満20週～27週以内 （第6月～第7月以内）	妊娠届出数	32	32	41	35	31
	支援が必要となった妊婦の数	27	25	36	29	25
	特定妊婦数	8	6	14	11	7
満28週～分娩まで （第8月～分娩まで）	妊娠届出数	18	10	22	12	16
	支援が必要となった妊婦の数	16	9	19	9	16
	特定妊婦数	9	4	11	6	11
分娩後	妊娠届出数	1	5	8	7	11
	支援が必要となった妊婦の数	1	4	7	6	11
	特定妊婦数	0	2	2	4	5
不詳	妊娠届出数	30	7	12	8	8
	支援が必要となった妊婦の数	10	2	6	5	3
	特定妊婦数	3	0	0	2	0

※支援が必要な妊婦：各市町村がアセスメントにより支援が必要と認められる妊婦

(県健康推進課調べ)

※特定妊婦：出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

第2項 新生児部門診療実績

新生児部門については、奈良県立医科大学附属病院、県総合医療センター、近畿大学奈良病院、および天理よろづ相談所病院からのデータ集計を実施した。本年の新生児入院数は1,020例（2023年979例）で、うち院内出生が889例、院外出生が131例であった。尚、2024年の新生児入院数は、奈良医大の再入院10例を含む。

入院時主診断は、呼吸器疾患が最も多く、268例（2023年253例）、次いで感染症54例、心・循環器疾患53例であった。人工呼吸器管理症例数は244例（2023年228例）であり、入院児全体の23.9%を占めていた。

早期新生児死亡は5例（2023年1例）、後期新生児死亡は1例（2023年1例）、乳児死亡例は3例（2023年5例）であり、前年と比較して早期新生児死亡が増加していた。これらの症例の背景には重症疾患や出生時状態の重篤さが関与していると考えられ、今後も原因分析と対策が必要である。

搬送収容数は125例（2023年128例）で、搬送疾患は呼吸器疾患が50例と最も多く、次いで消化管疾患が14例であった（表15）。

表15 2024年新生児部門診療実績

		(例)			
施設名		県総合	天理よろづ	奈良医大	合計
入院数	院内出生	481	97	311	889
	院外出生	70	1	60	131
主病名	呼吸器疾患	139	60	69	268
	心・循環器疾患	18	3	32	53
	消化管疾患	13	4	21	38
	脳・神経疾患	23	7	10	40
	染色体異常 形態異常症候群	6	0	24	30
	感染症	13	26	15	54
	代謝内分泌	10	25	8	43
	その他	355	23	272	650
人工呼吸器管理症例	入院数	551	98	371	1,020
	人工呼吸器管理症例数	69	23	152	244
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）		0	0	5	5
後期新生児死亡数（日齢7日以上28日未満の死亡）		0	0	1	1
乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）		0	0	3	3
新生児搬送収容数		67	1	57	125
新生児搬送疾患名 （重複あり）	呼吸器疾患	33	1	16	50
	心・循環器疾患	0	0	10	10
	消化管疾患	7	0	7	14
	脳・神経疾患	10	0	0	10
	染色体異常 形態異常症候群	2	0	8	10
	感染症	3	1	1	5
	その他	25	0	15	40

第2節

第1項 産科部門診療実績（病院・診療所・助産所）

1 入院数

本年の産科入院数（病院・診療所・助産所合計）は8,563件で、前年（8,882件）からやや減少した（図16）。これは、分娩取扱施設における分娩件数の減少に加え、産科入院として計上される妊娠合併症・管理入院の症例減少が重なった結果と考えられる。

施設別にみると、奈良県立医科大学附属病院820件、県総合医療センター878件が依然として県内の中核的役割を担っており、両施設で全体の約20%を占めていた。地域的には、奈良地域を除く中和・東和・西和地域での入院数減少が顕著であり（図17）、一部地域では分娩取り扱い縮小や人員体制の変化が影響している可能性がある。

また、図1に示すように、診療所の入院数は全期間を通じて比較的安定している一方、病院全体の入院数は2019年以降減少が続いており、県内の産科入院全体の減少に大きく寄与していると考えられる。2018年以降の入院数推移をみると、全国的な出生数の減少傾向と概ね並行しており、本県における出生動向の縮小を反映していると考えられる。一方で、県立2施設（奈良医大・県総合）での入院数は比較的維持されており、高リスク妊娠・合併症症例の集約化が進んでいる傾向がうかがえる。

今後は、地域別の分娩数減少に伴う周産期医療資源の偏在化が生じないように、一次医療機関との連携強化と入院調整機能の維持が重要である。

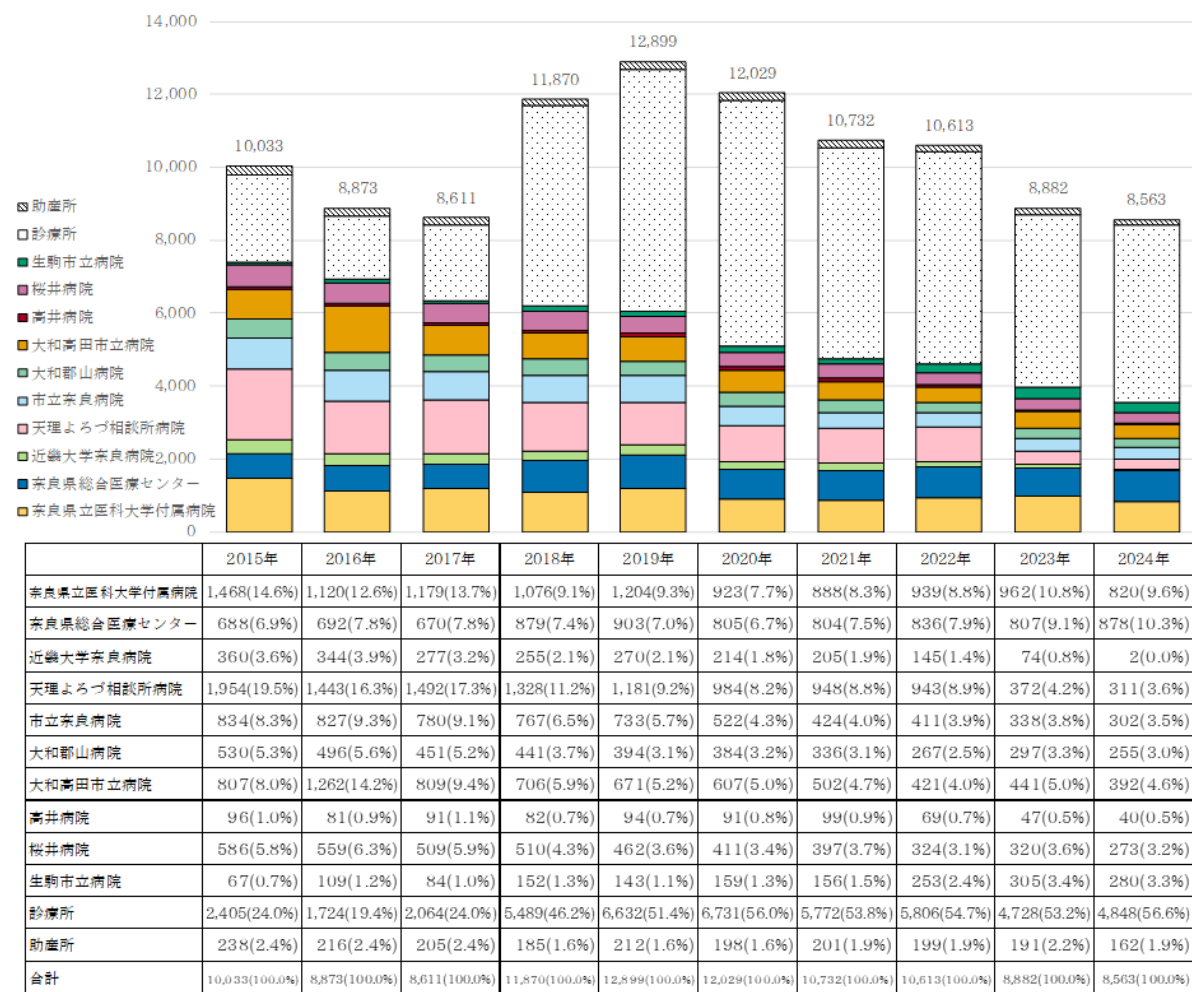
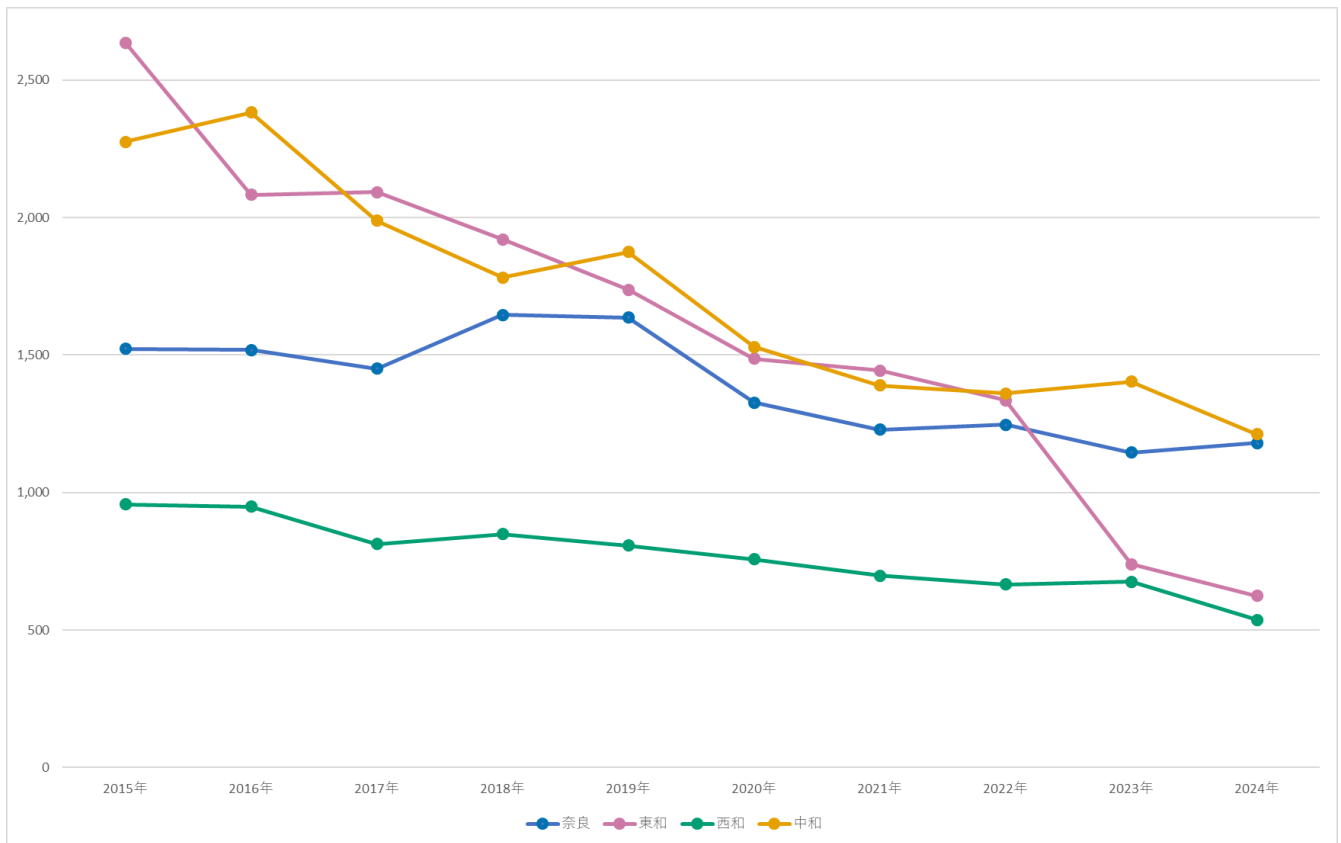


図 16 入院数の推移



※診療所・助産所を除く

図 17 入院数の推移（医療圏別）

2 分娩数

本年の県内における分娩総数は7,419件で、前年(7,771件)から4.5%の減少を示した(図18)。2015年からの推移をみると、年次ごとに緩やかな減少が続いており、2018年の9,466件に一時的な増加を認めたのち、2020年以降は8,000件を下回る水準で推移している。全国的な出生数減少傾向と同様の傾向を呈しており、本県における少子化の進行を反映した結果と考えられる。

施設別にみると、奈良県立医科大学附属病院814件、県総合医療センター666件であり、両施設で全体の約20%を占めた。分娩取扱い件数の上位施設は例年とほぼ同様であるが、これら周産期センターでの分娩数は2023年と比較して横ばいからやや増加傾向にあった。一方で、各地域の基幹病院では分娩数の減少傾向が目立ち、特に中和・東和医療圏の減少が顕著であった。

診療所全体の分娩数は依然として全体の約60%を占め、大きな変動はみられなかった。診療所での分娩が本県の出産体制の基盤を支えていることがうかがえる(図19)。

また、2019年以降、病院での分娩件数が顕著に減少している一方、診療所では比較的安定して推移しており、出産の地域分散が維持されつつも、ハイリスク症例の適切な管理が進行している結果と考えられる。今後は、地域における分娩機能の縮小を補うため、地域連携型のリスクトリアージ体制と、分娩・入院機能を有する拠点施設の安定的な運営が求められる。

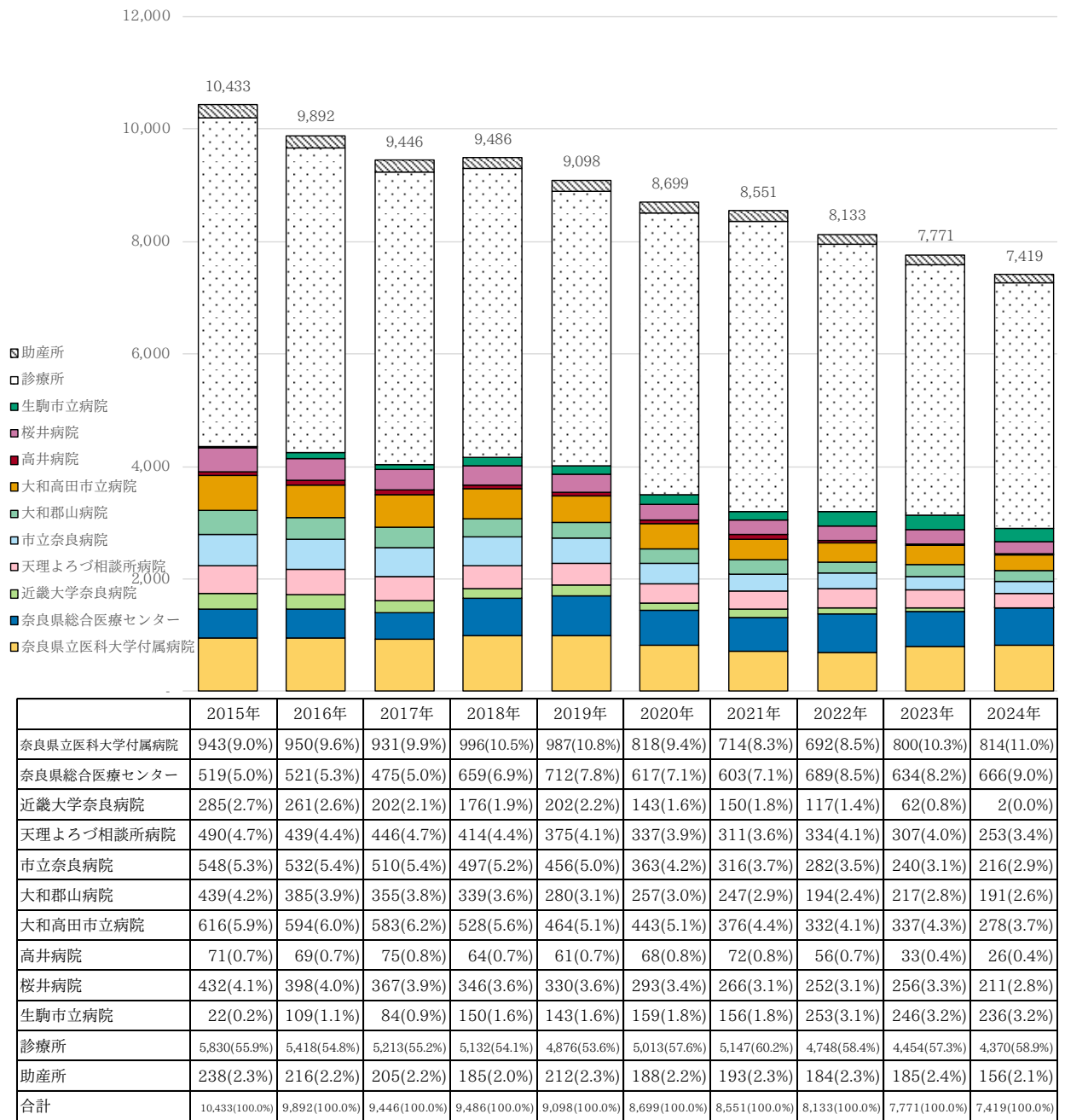
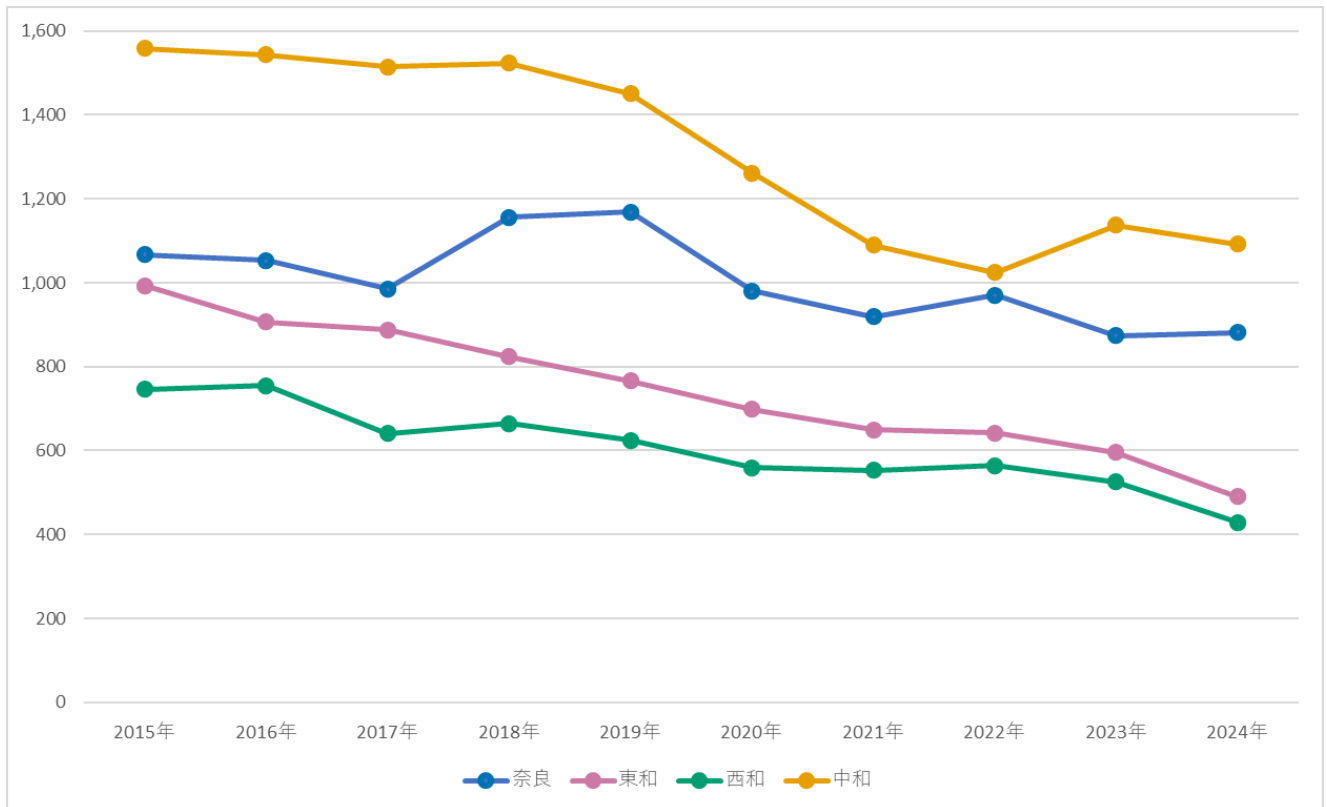


図 18 分娩数の推移



※診療所・助産所を除く

図 19 分娩数の推移（医療圏別）

3 分娩様式

本年における県内の分娩様式の内訳は、経膣分娩 5,637 件（75.5%）、帝王切開 1,818 件（24.5%）であり、前年（24.9%）と比較して同等の水準であった（図 20）。

2015 年以降の推移をみると、経膣分娩の割合はおおむね 75～78%で安定している一方、帝王切開率は年次的に緩やかに上昇しており、2015 年の 20.3%から 2024 年には 24.5%に達した。帝王切開件数は、分娩総数の減少にもかかわらずほぼ横ばいで推移しており、結果として率の上昇をもたらしている。特に、緊急帝王切開件数は 2015 年以降横ばいで推移しているが、分娩総数の減少によりその比率は 2015 年の 885/10,433（8.5%）から 2024 年の 812/7,419（10.9%）へ上昇している。帝王切開率上昇の背景としては、高年妊娠の増加（35 歳以上：全体の 31.3%）、既往帝王切開後の分娩増加、および胎児発育遅延や妊娠高血圧症候群などの合併症妊娠の増加が考えられる。また、リスク症例の集約化や安全志向の高まりに伴い、予定帝王切開の比率上昇も影響しているとみられる。

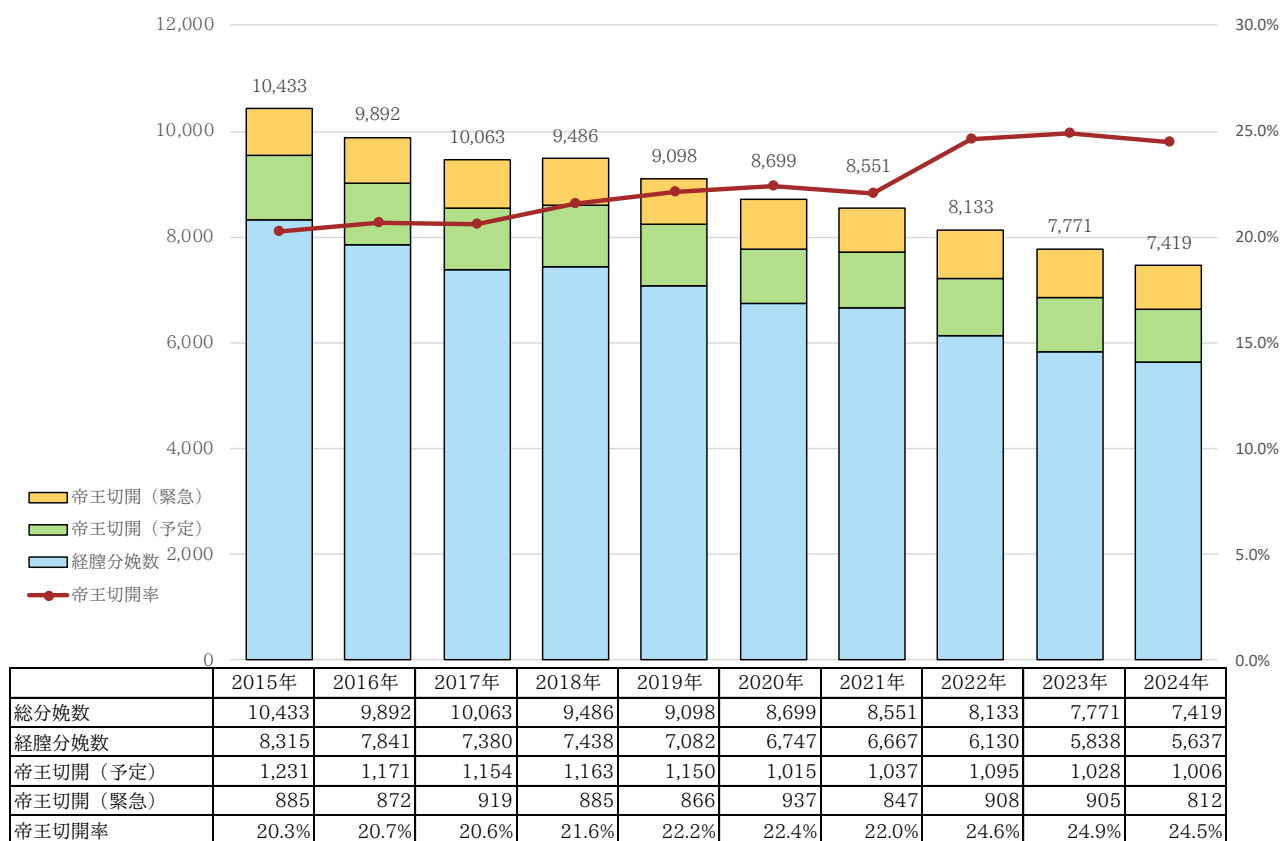


図 20 分娩様式

4 分娩週数（死産児は除く）

本年の分娩週数別分布をみると、正期産（37-41 週未満）が全体の 94.6%を占め、前年（94.9%）とほぼ同等であった（表 16, 17）。早産（37 週未満）は 398 件（5.3%）で、2015 年以降ほぼ 5～6%の範囲で推移しており、年次的な大きな変動は認められなかった。

早産の内訳では、35-36 週が 293 例で全早産の約 74%を占めており、過去 10 年間で大きな変化はみられていない。その他の週数についても、22-27 週は 0.2～0.3%、28-34 週は 1.2～1.4%前後と、大きく変わりにくく推移している。

一方で、42 週以降の延長妊娠は 4 件（0.1%）で、2015 年の 0.4%からは減少傾向を示しており、過期妊娠に対する分娩誘発の実施および管理の適正化が進んでいることが示唆される。

総じて、分娩週数の中心分布は変化しておらず、早産率も概ね一定で推移しており、妊娠管理体制の安定とともに、早産予防および分娩時期管理の標準化が定着していることを反映していると考えられる。

表 16 分娩週数その 1

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
22週未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(0.0%)
22週	3(0.0%)	1(0.0%)	2(0.0%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0	0	1(0.0%)	0	1(0.0%)
23週	2(0.0%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0	0	2(0.0%)	3(0.0%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0
24週	5(0.0%)	2(0.0%)	4(0.0%)	2(0.0%)	2(0.0%)	0	1(0.0%)	5(0.1%)	1(0.0%)	7(0.1%)
25週	1(0.0%)	2(0.0%)	3(0.0%)	2(0.0%)	1(0.0%)	3(0.0%)	4(0.0%)	5(0.1%)	7(0.1%)	0
26週	2(0.0%)	3(0.0%)	4(0.0%)	4(0.0%)	1(0.0%)	2(0.0%)	1(0.0%)	2(0.0%)	6(0.1%)	5(0.1%)
27週	3(0.0%)	3(0.0%)	7(0.1%)	7(0.1%)	5(0.1%)	3(0.0%)	2(0.0%)	7(0.1%)	5(0.1%)	5(0.1%)
28週	12(0.1%)	6(0.1%)	4(0.0%)	4(0.0%)	3(0.0%)	7(0.1%)	5(0.1%)	6(0.1%)	4(0.1%)	4(0.1%)
29週	3(0.0%)	7(0.1%)	0	8(0.1%)	7(0.1%)	5(0.1%)	4(0.0%)	3(0.0%)	5(0.1%)	1(0.0%)
30週	8(0.1%)	8(0.1%)	7(0.1%)	19(0.2%)	9(0.1%)	12(0.1%)	9(0.1%)	6(0.1%)	7(0.1%)	8(0.1%)
31週	14(0.1%)	14(0.1%)	16(0.2%)	17(0.2%)	11(0.1%)	6(0.1%)	7(0.1%)	8(0.1%)	14(0.2%)	5(0.1%)
32週	22(0.2%)	20(0.2%)	18(0.2%)	13(0.1%)	15(0.2%)	20(0.2%)	20(0.2%)	13(0.2%)	21(0.3%)	14(0.2%)
33週	25(0.2%)	29(0.3%)	26(0.3%)	30(0.3%)	26(0.3%)	24(0.3%)	23(0.3%)	16(0.2%)	21(0.3%)	16(0.2%)
34週	37(0.4%)	56(0.6%)	46(0.5%)	50(0.5%)	62(0.7%)	53(0.6%)	38(0.4%)	44(0.5%)	29(0.4%)	38(0.5%)
35週未満(※1)	3(0.0%)	3(0.0%)	0	-	-	-	-	-	-	-
35週	98(0.9%)	77(0.8%)	82(0.9%)	99(1.0%)	81(0.9%)	89(1.0%)	115(1.3%)	74(0.9%)	77(1.0%)	79(1.1%)
36週	287(2.8%)	271(2.7%)	232(2.5%)	263(2.7%)	249(2.7%)	207(2.4%)	240(2.8%)	212(2.6%)	202(2.6%)	214(2.9%)
37週	1,056(10.2%)	1,058(10.6%)	978(10.4%)	999(10.4%)	877(9.6%)	906(10.4%)	856(9.9%)	858(10.4%)	784(10.0%)	751(10.1%)
38週	2,206(21.3%)	2,110(21.2%)	2,197(23.3%)	2,011(21.0%)	2,143(23.4%)	1,986(22.7%)	1,986(23.1%)	1,887(23.0%)	1,909(24.3%)	1,874(25.2%)
39週	2,967(28.6%)	2,868(28.8%)	2,698(28.6%)	2,774(29.0%)	2,546(27.8%)	2,550(29.1%)	2,489(28.9%)	2,347(28.6%)	2,210(28.1%)	2,148(28.8%)
40週	2,747(26.5%)	2,538(25.5%)	2,356(25.0%)	2,437(25.4%)	2,410(26.3%)	2,215(25.3%)	2,155(25.0%)	2,088(25.4%)	2,021(25.7%)	1,812(24.3%)
41週	822(7.9%)	843(8.5%)	715(7.6%)	811(8.5%)	688(7.5%)	650(7.4%)	635(7.4%)	621(7.6%)	538(6.8%)	460(6.2%)
42週以上	37(0.4%)	25(0.3%)	29(0.3%)	26(0.3%)	16(0.2%)	8(0.1%)	20(0.2%)	7(0.1%)	4(0.1%)	4(0.1%)
不明	5(0.0%)	2(0.0%)	2(0.0%)	1(0.0%)	2(0.0%)	0	0	0	1(0.0%)	3(0.0%)
合計	10,365(100.0%)	9,947(100.0%)	9,427(100.0%)	9,578(100.0%)	9,155(100.0%)	8,748(100.0%)	8,613(100.0%)	8,211(100.0%)	7,867(100.0%)	7,450(100.0%)

※1 診療所では、2017年までは妊娠35週未満の症例をまとめて計上

表 17 分娩週数その 2

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
28週未満	16(0.2%)	12(0.1%)	21(0.2%)	16(0.2%)	10(0.1%)	10(0.1%)	11(0.1%)	21(0.3%)	20(0.3%)	19(0.3%)
28週以上～34週未満	84(0.8%)	84(0.8%)	71(0.8%)	91(1.0%)	71(0.8%)	74(0.8%)	68(0.8%)	52(0.6%)	72(0.9%)	48(0.6%)
34週以上～37週未満	425(4.1%)	407(4.1%)	360(3.8%)	412(4.3%)	392(4.3%)	349(4.0%)	393(4.6%)	330(4.0%)	308(3.9%)	331(4.4%)
37週以上～42週未満	9,798(94.5%)	9,417(94.7%)	8,944(94.9%)	9,032(94.3%)	8,664(94.6%)	8,307(95.0%)	8,121(94.3%)	7,801(95.0%)	7,462(94.9%)	7,045(94.6%)
42週以上	37(0.4%)	25(0.3%)	29(0.3%)	26(0.3%)	16(0.2%)	8(0.1%)	20(0.2%)	7(0.1%)	4(0.1%)	4(0.1%)
不明	5(0.0%)	2(0.0%)	2(0.0%)	1(0.0%)	2(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.0%)	3(0.0%)
合計	10,365(100.0%)	9,947(100.0%)	9,427(100.0%)	9,578(100.0%)	9,155(100.0%)	8,748(100.0%)	8,613(100.0%)	8,211(100.0%)	7,867(100.0%)	7,450(100.0%)

5 出生体重（例、死産児は除く）

本年の出生体重別分布をみると、2,500g以上の出生が全体の90.8%を占め、前年（84.9%）から大きく増加した（表18）。この割合は2015年以降の推移（84.9～87.7%）と比較しても高く、近年で最も高い水準となった。

一方、低出生体重児（2,500g未満）は683例（9.2%）で、前年（1,184例、15.1%）から大幅に減少した。切迫早産数は前年と同程度であったことから、同一週数における出生体重の増加、すなわち胎児発育の改善または体重測定基準の変化が影響した可能性が考えられる。

最も減少した区分は2,000-2,499gで、前年の942例（12.0%）から549例（7.4%）へ約400例減少した。さらに、1,500-1,999gで159例から90例（1.2%）、1,000-1,499gで52例から25例（0.3%）、500-999gで30例から14例（0.2%）と、低出生体重児全体で広範な減少傾向を示した。

これらの変化は、一時的な年次変動である可能性もあり、継続的な減少傾向を確認するためには今後の推移を注視する必要がある。ただし、現時点では母体管理や栄養管理等の周産期管理が体重分布値の改善となったことが示唆される。

表18 出生体重

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500g未満	9(0.1%)	6(0.1%)	9(0.1%)	4(0.0%)	3(0.0%)	1(0.0%)	2(0.0%)	1(0.0%)	1(0.0%)	5(0.1%)
500-999g	34(0.3%)	26(0.3%)	24(0.3%)	35(0.4%)	28(0.3%)	28(0.3%)	23(0.3%)	34(0.4%)	30(0.4%)	14(0.2%)
1,000-1,499g	59(0.6%)	78(0.8%)	55(0.6%)	58(0.6%)	51(0.6%)	58(0.7%)	56(0.6%)	43(0.5%)	52(0.7%)	25(0.3%)
1,500-1,999g	179(1.8%)	172(1.7%)	153(1.6%)	196(2.0%)	166(1.8%)	158(1.8%)	165(1.9%)	145(1.8%)	159(2.0%)	90(1.2%)
2,000-2,499g	1,001(9.9%)	940(9.5%)	923(9.7%)	1,094(11.4%)	1,091(11.9%)	1,014(11.6%)	984(11.4%)	991(12.1%)	942(12.0%)	549(7.4%)
2,500g以上	8,824(87.3%)	8,718(87.7%)	8,330(87.7%)	8,181(85.5%)	7,807(85.4%)	7,496(85.6%)	7,388(85.7%)	6,981(85.2%)	6,659(84.9%)	6,767(90.8%)
不明	0	0	0	0	0	1(0.0%)	0	0	0	0
合計	10,106(100.0%)	9,940(100.0%)	9,494(100.0%)	9,568(100.0%)	9,146(100.0%)	8,756(100.0%)	8,618(100.0%)	8,195(100.0%)	7,843(100.0%)	7,450(100.0%)

6 出産時年齢（例）

本年の出産時年齢分布をみると、35歳以上が2,149件（全体の29.0%）を占め、前年（29.9%）と同程度であった（表19）。長期的にみると、2015年の27.2%から緩やかに上昇しており、本県においても高年妊娠の増加傾向が続いている。また、40歳以上は420件（5.6%）であり、2015年（4.7%）以降2017年に上昇（5.8%）してからは、横ばいで推移している。

このような年齢構成の変化は、妊娠合併症（妊娠高血圧症候群、糖尿病、甲状腺疾患など）の増加や帝王切開率上昇に影響を及ぼすと考えられる。今後も高年妊娠に対する母体管理の強化と周産期リスク予防の徹底が重要である。

表19 出産時年齢

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	7,310(72.8%)	7,165(72.5%)	6,763(71.4%)	6,840(71.9%)	6,529(71.8%)	6,369(73.2%)	6,086(71.2%)	5,842(71.8%)	5,450(70.1%)	5,270(71.0%)
35-39歳	2,263(22.5%)	2,231(22.6%)	2,163(22.8%)	2,158(22.7%)	2,050(22.5%)	1,882(21.6%)	1,993(23.3%)	1,787(22.0%)	1,816(23.4%)	1,729(23.3%)
40-44歳	467(4.6%)	481(4.9%)	528(5.6%)	503(5.3%)	504(5.5%)	429(4.9%)	463(5.4%)	486(6.0%)	482(6.2%)	395(5.3%)
45歳以上	8(0.1%)	11(0.1%)	16(0.2%)	11(0.1%)	15(0.2%)	25(0.3%)	9(0.1%)	18(0.2%)	23(0.3%)	25(0.3%)
合計	10,048(100.0%)	9,888(100.0%)	9,470(100.0%)	9,512(100.0%)	9,098(100.0%)	8,705(100.0%)	8,551(100.0%)	8,133(100.0%)	7,771(100.0%)	7,419(100.0%)

7 合併症妊娠（例）

本年における合併症妊娠のうち、糖尿病（含 GDM）が 186 例、甲状腺機能異常が 226 例であり、いずれも前年と同様に上位を占めた（表 20）。糖尿病（GDM 含む）は過去数年にわたり増減を繰り返しているが、全体として依然高い水準にあり、妊娠糖代謝異常に対するスクリーニングおよび栄養指導体制の重要性が改めて示唆された。

甲状腺機能異常（226 例）は前年から増加しており、特に甲状腺機能低下症が 172 例（約 76%）を占めた。近年、妊娠初期における甲状腺ホルモン測定検査の実施が増加しつつあることから、潜在性甲状腺機能低下症の拾い上げによる報告数増加が影響している可能性がある。

子宮筋腫合併妊娠は 200 例で、依然として高い割合を占めていた。年齢分布との関連をみると、35 歳以上の妊娠における合併率が高く、妊娠年齢上昇が主要因と考えられる。今後もリスクに応じた搬送連携の継続が求められる。

また、血液疾患は 112 例と増加しており、本年調査において貧血症例を含めて計上された影響が推察される。次年度以降は、調査対象となる血液疾患の定義を明確化し、施設間で統一した集計方法を検討する必要がある。

精神疾患合併妊娠は例年と比較して緩やかな増加傾向を示しており、周産期メンタルヘルス支援体制の充実が引き続きの課題といえる。

総じて本年は代謝性疾患（糖尿病・甲状腺疾患）を中心とした合併症妊娠が依然として上位を占め、妊娠前からの生活習慣・基礎疾患管理を含む包括的な周産期予防医療の重要性が再確認された。

表 20 合併症妊娠

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	203	251	217	249	249	182	264	230	237	200
子宮筋腫（核出術後）	52	42	30	40	51	37	43	66	55	34
付属器異常	98	103	94	79	112	72	65	92	67	58
子宮頸がん（既往含む）	42	31	39	34	50	54	32	55	38	33
子宮形態異常（子宮奇形）	15	17	12	17	26	14	10	13	12	18
甲状腺機能亢進症	60	56	50	53	59	57	54	40	48	54
甲状腺機能低下症	65	89	138	122	142	134	133	150	151	172
糖尿病（含GDM）	140	214	237	205	257	228	223	232	271	186
呼吸器 肺炎・気管支炎	104	115	110	113	134	144	122	158	196	149
慢性腎炎	17	11	9	6	11	9	9	10	8	10
本態性高血圧	23	19	19	18	48	15	19	28	25	26
血液疾患	2	5	4	11	15	6	1	4	1	112
自己免疫疾患	23	25	31	27	29	23	17	33	18	26
循環器疾患 心血管疾患	34	14	25	39	33	30	35	27	32	33
精神科疾患（含てんかん）	98	96	88	109	119	92	114	128	100	132
ウイルス性肝炎（※1）	38	24	14	9	17	14	10	12	8	7
消化器疾患（※2）	42	55	43	104	73	28	32	31	24	21
その他	1	16	14	109	113	109	102	172	157	32

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

本年の産科合併症では、切迫早産が564例と最も多く、前年と同程度であった（表21）。切迫早産は近年横ばいで推移しており、早産率が約5%台で安定していることから、本県の良質な周産期管理体制を反映していると考えられる。

妊娠高血圧症候群（262例）は例年と比較して大きな変化はみられなかった。県内の35歳以上の高年妊娠は増加傾向にあるものの、その上昇は緩やかであり、本疾患の顕著な増加には至っていないと考えられる。一方で、重症例の早期診断・管理が母児転帰の改善に直結することから、今後も地域医療機関との連携による搬送体制の維持が重要である。

出血性合併症は490例（前年680例）と減少傾向を示した。分娩総数の減少を考慮してもこの低下は顕著であり、予防的子宮収縮薬の適正使用、止血管理技術の向上、異常出血への迅速な対応体制整備など、各施設の取り組み成果が反映されていると考えられる。ただし、依然として出血性合併症は周産期死亡や母体搬送の主因の一つであり、リスク予測スコアの活用や輸血連携体制の強化など、さらなる質的向上が求められる。

羊水過少（70例）や前置胎盤（36例）はいずれも例年と同等水準で推移しており、診断精度の向上により早期発見・管理が標準化していることを示している。また、前置胎盤は生殖補助医療（ART）妊娠との関連が指摘されており、今後もその発生動向を注意深く観察する必要がある。

総じて本年の産科合併症構成は大きな変化を認めないが、出血性合併症の減少と高血圧性疾患・代謝性疾患の安定した管理が特徴的であった。今後もハイリスク妊娠の早期識別と、医療連携を基盤とした母体安全管理体制の継続的な強化が求められる。

表 21 産科合併症

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	959	1,321	1,070	1,064	942	776	619	519	522	564
妊娠高血圧症候群	275	247	231	294	310	283	296	282	277	262
胎児発育不全	159	153	224	196	215	143	102	112	117	104
前置胎盤	40	36	37	28	35	31	27	28	29	36
子癇	1	0	1	7	4	5	13	5	1	3
弛緩出血	56	290	257	394	525	578	624	558	680	490
常位胎盤早期剥離	41	44	42	48	35	37	23	25	18	24
HELLP症候群	10	4	13	10	13	15	14	14	4	2
低置胎盤	28	43	41	18	30	23	36	36	39	23
血液型不適合	50	71	55	34	42	38	24	35	44	24
羊水過少	53	82	59	69	85	70	74	70	72	70
羊水塞栓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	8	19	3	269	94	124	119	50	63	116

※1 入院のみ / ※2 早産期

※羊水塞栓は、2024年より集計開始

9 産科手術 他 (例)

本年の産科手術では、子宮頸管縫縮術が 63 例で、前年 (43 例) より大幅に増加した。(表 22) これは、妊娠中期以降の頸管長短縮例に対する積極的介入の増加、および治療的縫縮術の実施施設の増加が影響していると考えられる。

本年からは、予防的および治療的子宮頸管縫縮術を区別した新たな調査を開始した。その結果、治療的子宮頸管縫縮術は 24 例、予防的縫縮術は 39 例であった。特に奈良県立医科大学附属病院での治療的縫縮術が 21 例と最も多かった。

治療的縫縮術が予防的術式を上回る結果は、子宮頸管無力症例や頸管長短縮例の早期診断例が増加している可能性を示唆する。一方で、症例数の増加が実際の発症率上昇によるものか、診断技術の向上・超音波検査頻度増加による発見率上昇なのかは、今後の継続的データ収集による検証が必要である。

その他の産科手術としては例年と同等であった。胎児胸腔・羊水腔シャント術は本年から新規に調査を開始したが、本年の実施例は確認されなかった。

本年は子宮頸管縫縮術の実施数増加が特徴的であった。今後は、頸管長評価の標準化および手術適応基準の標準化を通じ、搬送適応を標準化していく取り組みが望ましいと考える。

表 22 産科手術

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	66	47	35	59	69	47	36	29	43	39
子宮頸管縫縮術 ※治療的										24
産道血腫除去術	16	12	9	19	15	18	12	16	9	17
子宮動脈塞栓術	9	1	13	5	5	12	12	24	11	12
子宮摘出術	12	6	15	9	7	5	7	2	2	2
胎児胸腹水穿刺	1	0	0	0	1	3	0	0	0	1
羊水除去	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1
胎児胸腔シャント	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	5	1	31	34	15	6	5	23	21	0

※子宮頸管縫縮術は、2024年より、予防的と治療的に分けて集計

※胎児胸腔シャントは、2024年より集計開始

10 輸血治療症例（例）

本年の輸血治療症例は43例で、前年（47例）からわずかに減少したが、大きな変動はみられなかった（表23）。2015年以降の推移をみても、年間40～60例の範囲で推移しており、安定した水準で経過している。

本年は出血性合併症が前年より大幅に減少した一方で、輸血症例数はほぼ維持されていた。これは、各施設での初期止血対応が適切に行われたうえで、輸血が真に必要な症例を的確に選択して実施していることを反映していると考えられる。すなわち、各施設での周産期出血に対する早期予防的介入（子宮収縮薬・トランサミン投与、止血手技の標準化）が定着しつつあり、輸血量の適正化と不要輸血の抑制が進んでいると考えられ、周産期輸血体制の成熟が進んでいることを示唆している。

総じて、輸血症例数は安定して推移しており、出血性合併症対策と輸血適正化の両面で成果がみられる。今後も、輸血適応の明確化と院内血液製剤供給体制の強化を通じて、母体安全管理体制のさらなる質的向上が期待される。

表23 輸血治療症例

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	64	57	75	39	55	47	39	41	47	43

11 多胎妊娠（例）

本年の多胎妊娠は93例で、前年（99例）とほぼ同程度であった（表24）。分娩総数が減少する中で横ばいであるため、分娩全体に占める割合はやや上昇傾向にある。内訳は一絨毛膜二羊膜（MD）双胎23例（24.7%）、二絨毛膜二羊膜（DD）双胎69例（74.2%）であった。構成比は例年と比較してDD双胎が増加傾向にある。自然発生による双胎妊娠率は一定であることから、多胎妊娠、特にDD双胎の増加傾向は主として生殖補助医療（ART）による影響も考えられる。しかし、JSOG ART登録では保険適用後の2022年に多胎率が約3.0%と2021年（約2.9%）から微増したが、全体としては3%前後で推移しており、明確な上昇傾向とまでは言えない。多胎妊娠の増加は周産期医療体制の維持にも影響を与えるため、引き続き動向を把握していく必要がる。

表24 多胎妊娠症例

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
合計	86	111	83	126	97	99	98	89	99	93
双胎	85	110	81	125	95	99	96	89	99	93
うちMD（※1）	47	38	31	67	56	34	35	34	34	23
うちDD（※2）	36	71	50	58	39	63	60	55	65	69
うちMM（※3）	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
うち不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1
三胎	1	1	2	1	2	0	2	0	0	0

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎／※3 一絨毛膜一羊膜双胎

※奈良県立医科大学附属病院・奈良県総合医療センター以外は2018年より新規集計

1 2 無痛分娩数（例）

本年の無痛分娩実施件数は655件で、前年（538件）から約22%増加した（表25）。本県全体の分娩数に占める無痛分娩の割合は2021年4.8%、2022年5.9%、2023年6.9%、2024年8.8%と年次的に上昇しており、近年の無痛分娩導入の拡大傾向を明確に示している。

内訳をみると、無痛分娩における吸引分娩の実施数が増加しており、分娩進行の遅延や児回旋異常など、麻酔下分娩に特有の分娩経過が反映されている可能性がある。したがって、無痛分娩の生理的特徴を理解した分娩管理と、適切な補助手技の習熟が今後一層重要となる。

本年は有害事象の報告はなく、安全管理体制の維持と麻酔科・産科の連携が良好に機能していることが示唆される。各施設では、事前説明・同意取得の標準化や緊急時対応マニュアルの整備が進み、質・安全の両面で成熟した体制に移行しつつある。

今後は地域格差の是正とともに、安全で均てん化された無痛分娩提供体制の確立が期待される。

表 25 無痛分娩数

	2021年	2022年	2023年	2024年
合計	411	484	535	655
うち経膈分娩（補助なし）	357	366	485	479
うち吸引分娩	42	64	70	113
うち鉗子分娩	1	1	4	2
うち帝王切開	54	53	50	66
うち麻酔科医が関与した分娩数	67	154	119	216
有害事象	0	0	0	0

1 3 高度生殖補助医療（ART）による妊娠数（例）

本年の分娩例におけるART（生殖補助医療）による妊娠数は741例で、前年（662例）から約12%増加し、総妊娠数に占める割合も約10%に達した（表26）。2022年4月のART保険適用以降、県内におけるART施行件数は着実に増加しており、ART妊娠の割合も初めて全国平均水準に到達した。

一方で、ART妊娠の増加は多胎妊娠や前置胎盤、妊娠高血圧症候群などの合併症増加と関連する可能性があり、これらを早期に検出・管理できる周産期医療連携体制のさらなる強化が求められる。

本年は、本県においてもART妊娠が一般的な出産経路の一つとして定着しつつあることが示されており、今後はART関連合併症の予防・管理を含めた母体医療体制の充実が重要な課題として挙げられる。

表 26 ART による妊娠数

	2021年	2022年	2023年	2024年
ARTによる妊娠数	559	591	662	741

1 4 母体搬送収容数（例）

本年の母体搬送収容数は246例で、前年（268例）から減少した（表27）。しかし、2015年以降の推移をみると、母体搬送数は概ね250から300例前後で推移しており、年次的な大きな変動はない。本年は、奈良県立医科大学附属病院と県総合医療センターの両周産期センターがその役割を担い、全県の高リスク妊娠の週数等を考慮して適切に配分して受け入れている。今後も、地域偏在の抑止と搬送受入体制の安定的運用が求められる。

表 27 母体搬送収容数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	272	254	278	293	260	257	258	292	268	246

※奈良県立医科大学附属病院・奈良県総合医療センター以外の病院は2018年より新規集計

※診療所は2024年より集計

※助産所は除く

15 母体搬送疾患名（例、重複あり）

本年の母体搬送の主な疾患別内訳をみると（表 28）、切迫早産・前期破水が最も多く 123 例（約 50%）を占め、次いで産後出血 36 例（約 15%）、妊娠高血圧症候群 24 例（約 10%）、常位胎盤早期剥離など 9 例（約 4%）が続いた。これらの疾患構成は例年とほぼ同様であり、搬送症例の傾向に大きな変化はみられなかった。

特筆すべき点として、本年は HELLP 症候群による搬送が 4 例報告された。HELLP 症候群は、初期対応の遅れが母児転帰に直結する重篤疾患であり、一次医療機関における早期発見体制の整備と診断手順の標準化が今後の課題である。特に、血液検査等による異常の早期把握、異常を疑った際の迅速な搬送判断の徹底が重要である。

本年は母体搬送症例全体がやや減少した一方で、疾患構成には大きな変化はみられず、重症例の集約化と搬送体制の安定運用が進んでいることが示唆された。今後は、搬送後の転帰データを含めた解析により、より精緻なリスク管理体制の構築が期待される。

表 28 母体搬送疾患名

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	153	138	149	165	156	142	139	148	140	123
妊娠高血圧症候群	29	21	20	32	28	32	35	47	28	24
胎児発育不全	4	7	1	0	0	1	1	2	5	3
産後出血	20	23	37	22	24	26	29	39	40	36
胎児機能不全	3	7	12	7	4	9	10	13	6	5
常位胎盤早期剥離	11	10	5	8	11	15	10	6	3	9
前置胎盤	7	3	9	7	7	2	2	2	1	1
多胎	4	1	0	0	1	2	5	2	3	3
HELLP症候群	3	2	4	3	7	4	3	2	1	4
胎児形態異常	1	1	3	4	0	3	2	0	0	0
帝王切開合併症	0	0	2	0	0	5	6	7	8	6
未受診	0	0	2	2	4	2	2	1	7	7
その他	37	44	32	43	39	30	22	40	34	45

※1 入院のみ / ※2 早産期

※奈良県立医科大学附属病院・奈良県総合医療センター以外の病院は2018年より新規集計

※診療所は2024年より集計

※助産所は除く

16 染色体異常

本年に確認された染色体異常症例は計 17 例であり、前年（20 例）とほぼ同数であった（表 29）。一方で、2023 年からの症例数増加は顕著であり、特に 21 トリソミーの報告例増加が目立った。

この増加傾向は、胎児異常を契機とした染色体検査の実施が増加した結果を反映している。

表 29 染色体異常

疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
18トリソミー	2	2	3	3	3	1	3	3	2	2	8	4
13トリソミー	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
21トリソミー	12	8	2	1	11	3	6	5	6	3	8	1
遺伝子異常	1	1	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0
その他の染色体・遺伝子異常	4	1	1	0	0	0	1	0	2	0	2	1

17 先天異常（重複あり）

本年に確認された先天異常は計 137 例であった（表 30）。主要な疾患群としては、心血管系異常が 56 例（40.9%）と最も多く、次いで外表奇形 23 例（16.8%）、泌尿生殖器系異常 22 例（16.1%）が続いた。例年を通じて心血管系異常が最多であるが、本年は特にその報告数が多かった。

心血管系異常の増加は、胎児期スクリーニング超音波検査の精度向上や、出生後の先天性心疾患診断・治療体制の整備が進展したことの反映と考えられる。また、消化器系・泌尿生殖器系の異常についても出生前診断による発見例が増加しており、胎児診断と新生児期医療との連携が定着しつつあることを示している。一方、中枢神経系異常や筋骨格系異常は例年通り少数で推移しており、大きな変化はみられなかった。これらは重症例が多く、高次医療機関における集約管理体制が維持されている。

総じて本年の先天異常の発生頻度および疾患構成に大きな変化はみられず、診断技術の進歩と出生前スクリーニングの普及による早期発見の定着が特徴的であった。今後は、出生前から出生後に至るまでの一貫した管理体制の維持と情報共有の強化が重要である。

表 30 先天異常

疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
骨系統性疾患	4	4	0	0	1	1	3	2	3	3	1	0
外表奇形	27	11	25	7	31	12	22	7	21	5	18	12
心血管疾患	21	12	48	31	24	9	36	18	47	29	39	22
消化器疾患	15	11	8	4	11	8	10	7	9	7	11	9
泌尿器・生殖器疾患	13	10	15	10	18	17	22	21	17	14	21	16
神経系疾患	5	4	6	5	3	2	9	9	12	11	5	5
リンパ系疾患	3	3	2	2	2	1	0	0	1	1	0	0
胸腔疾患	0	0	1	1	2	2	4	2	3	2	6	4
その他の先天異常	2	2	3	3	0	0	9	8	6	5	9	7

※先天異常分類について

1. 外表奇形の扱い

「外表奇形」には四肢変形（先天性膝亜脱臼、内反足、外反足など）を含めたが、骨系統疾患に伴う変形は「骨系統性疾患」に分類した。

2. 血管腫の扱い

「血管腫」は主として皮膚・体表に発生するため、「外表奇形」に含めた。

3. cystic hygroma・胎児水腫・胸腹水の関係

これらはリンパ系形成異常や心不全、染色体異常などの結果として連続的に発生する場合が多く、原因が特定できない症例は「その他の先天異常」に分類した。

4. 尿道閉鎖および尿道下裂の扱い

いずれも下部尿路の形成異常として扱い、「泌尿器・生殖器疾患」に分類した。

5. 脳出血の扱い

出生外傷性や後天性の例もあるが、周産期統計上は器質的脳障害として「神経系疾患」に分類した。

6. 遺伝子異常群の扱い

Beckwith-Wiedemann 症候群、Treacher-Collins 症候群など、単一遺伝子変異による症候群は「遺伝子異常（特定遺伝子変異による症候群）」に分類した。

7. 骨系統性疾患の範囲

骨形成異常、骨端異形成、四肢短縮を伴う疾患群を指し、単独の四肢変形のみを呈する外表奇形とは区別した。

8. 心血管疾患の範囲

構造的心奇形（VSD、TGA、CoA など）に加え、機能的異常（不整脈、心不全）も循環系異常として分類した。

9. その他の先天異常の扱い

明確に器官別分類に該当しない異常（胎児水腫、内臓錯位、右側大動脈弓、性分化疾患など）は、「その他の先天異常」に分類した。

18 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

本年の母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数は517例であった（表31）。2015年以降、MFICU入室数は概ね400～500例前後で安定しており、重症妊産婦に対する受け入れ体制が県内で継続的に維持されていることを示している。

本年は特に奈良県立医科大学附属病院での院内症例の増加がみられた。これは、高リスク妊娠の集約化が進む一方で、MFICU病床を適切に稼働させつつ、院内外からの受け入れ体制を柔軟に運用していることを反映していると考えられる。

総じて、県内のMFICUは限られた病床数の中で、重症例への優先的対応と早期退室・転棟を組み合わせた効率的な運用が確立しており、周産期センターとしての機能を安定的に発揮している。

表31 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
院内症例（小計）	37(24.8%)	37(30.8%)	67(36.2%)	34(21.5%)	325(56.2%)	294(54.7%)	252(53.3%)	266(52.3%)	222(51.2%)	360(69.6%)
院内症例（医大）	37(24.8%)	37(30.8%)	67(36.2%)	34(21.5%)	81(14.0%)	75(14.0%)	66(14.0%)	75(14.7%)	71(16.4%)	175(33.8%)
院内症例（県総）	-	-	-	-	244(42.2%)	219(40.8%)	186(39.3%)	191(37.5%)	151(34.8%)	185(35.8%)
搬送症例（小計）	112(75.2%)	83(69.2%)	118(63.8%)	124(78.5%)	253(43.8%)	243(45.3%)	221(46.7%)	243(47.7%)	212(48.8%)	157(30.4%)
搬送症例（医大）	112(75.2%)	83(69.2%)	118(63.8%)	124(78.5%)	134(23.2%)	138(25.7%)	133(28.1%)	151(29.7%)	140(32.3%)	106(20.5%)
搬送症例（県総）	-	-	-	-	119(20.6%)	105(19.6%)	88(18.6%)	92(18.1%)	72(16.6%)	51(9.9%)
合計	149(100.0%)	120(100.0%)	185(100.0%)	158(100.0%)	578(100.0%)	537(100.0%)	473(100.0%)	509(100.0%)	434(100.0%)	517(100.0%)

※奈良県総合医療センターは2019年より新規集計

19 MFICU 入院適応（例）

本年における MFICU 入院適応総数は 517 例で、疾患は切迫早産が 148 例（28.6%）で最も多く、次いで妊娠高血圧症候群 75 例（14.5%）、産科出血 43 例（8.3%）、前置胎盤 23 例（4.4%）の順であった（表 32）。これら上位 4 疾患で全体の約 56%を占め、例年と同様の傾向を示している。内訳に大きな変動はないものの、本年は前置胎盤および出血性疾患を適応とした入院例の増加が目立った。母体搬送例における子癇出血の減少を踏まえると、これは自施設内での出血性症例の増加を反映している可能性が高い。

総じて、本年の MFICU 入室適応構成は近年と大きな変化はなく、切迫早産・妊娠高血圧症候群・出血性疾患が引き続き中心を占めていた。今後も、これら主要疾患に対する早期対応と入院後の集約的管理による母体転帰の改善が重要である。

表 32 MFICU 入院適応

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産(入院のみ)	63	56	78	69	198	140	117	130	134	148
妊娠高血圧症候群	14	21	26	22	51	56	80	84	72	75
産後出血	11	18	28	18	24	29	24	37	34	43
常位胎盤早期剥離	11	9	6	12	9	12	11	8	5	12
胎内胎児発育不全（※1）	8	10	5	9	6	8	2	5	9	9
前置胎盤	10	8	16	2	22	19	11	16	7	23
双胎	6	8	6	10	15	30	17	11	7	7
HELLP症候群	4	3	4	4	7	3	4	3	1	1
先天異常	2	3	1	8	11	2	1	4	1	4
肺水腫	0	2	1	0	1	1	1	2	1	0
合併症妊娠	6	5	7	20	36	26	13	15	5	19
その他	17	12	14	8	198	211	192	205	158	176
合計	152	155	192	182	578	537	473	520	434	517

※1 胎内診断のみ

※奈良県総合医療センターは2019年より新規集計

※2018年までは重複あり

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

実績の集計は、NICU 病床がある奈良県立医科大学附属病院と県総合医療センター、NICU 病床が無い天理よろづ相談所病院にて実施した。本年の新生児入院数は 1,020 例（奈良医大は再入院 10 例含む）で、前年（979 例）からやや増加した（図 21）。院内出生児が 889 例（87.2%）、院外出生児が 131 例（12.8%）であり、構成比は例年とほぼ同様であった。病院別にみると、奈良県立医科大学附属病院、県総合医療センター、天理よろづ相談所病院の 3 病院の入院数は概ね横ばいで推移していた。

入院数の増加には、奈良医大および県総合の両センターにおける院内出生児の増加が寄与していた。一方で、院外出生児の入院数（131 例）は前年（137 例）とほぼ同水準であり、搬送元施設での初期対応および搬送判断の適正化が維持されているとみられる。

総じて、本年は周産期センターを中心とした新生児医療体制が県内で安定的に維持されている。今後も、NICU 病床の効率的運用と、搬送・受け入れ体制の持続が重要である。

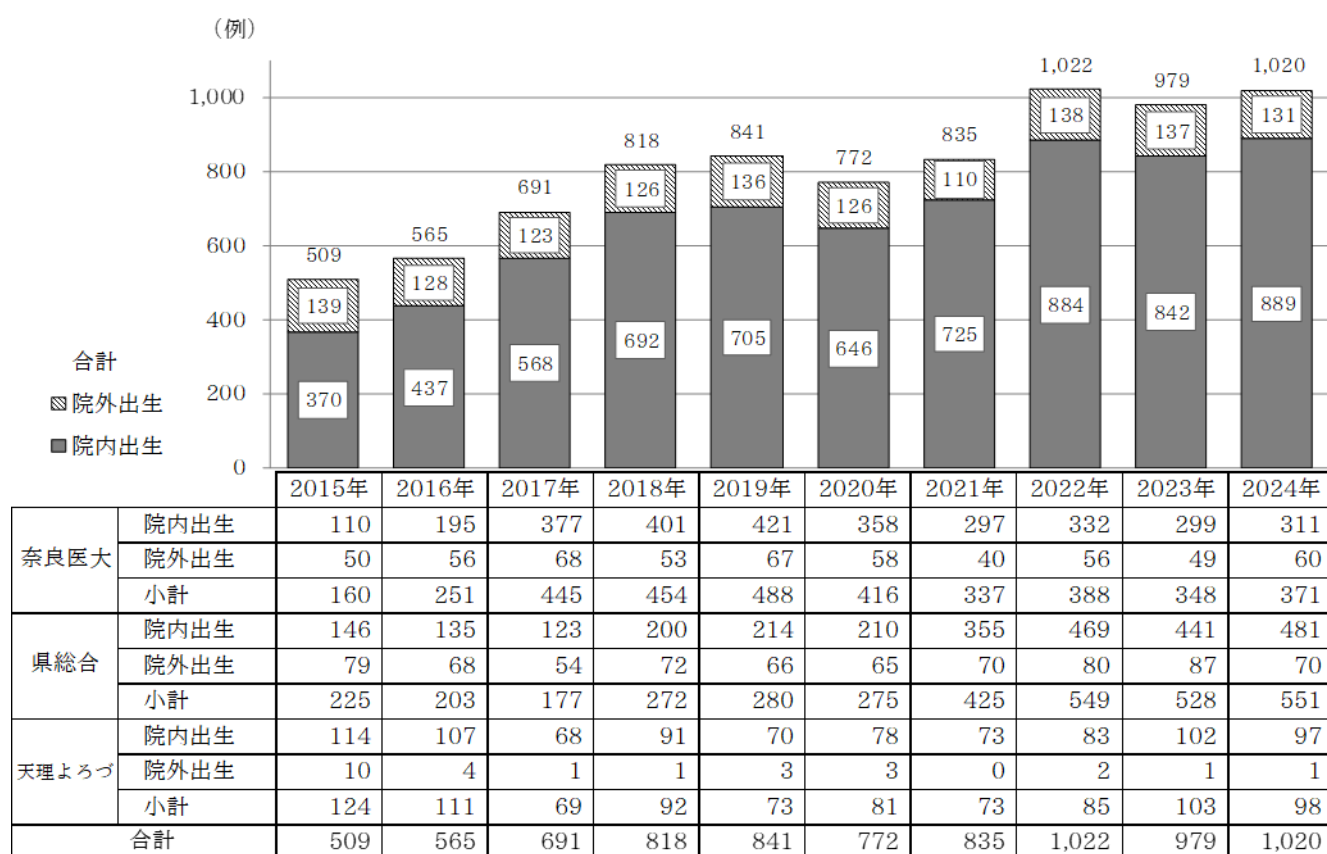


図 21 入院数

2 主病名（例）

本年における新生児入院症例の主病名の内訳をみると、呼吸器疾患が最も多く、3施設合計で約270例と全体の中心を占め、次いで感染症群が約54例、心・循環器疾患が約50例であった（表33）。呼吸器疾患では、新生児一過性多呼吸（TTN）や新生児呼吸窮迫症候群（RDS）が多く、県全体として例年と同程度の発生状況であった。

その他では、低出生体重児（極・超低出生体重児を含む）、新生児黄疸、新生児薬物離脱症候群（新生児不適応症候群）、帝王切開児症候群などが多数を占めていた（第4節参照）。

臓器別疾患の構成比は前年および過去数年と比較して大きな変化は認められず、消化管疾患、代謝性疾患、染色体異常・奇形症候群などの重症疾患についても著変はなかった。呼吸器疾患・感染症・心疾患を中心とする安定した新生児医療体制が維持されており、今後も継続的な充実が求められる。

表33 主病名

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
合計	呼吸器疾患	263	260	223	256	268
	心・循環器疾患	53	48	33	37	50
	消化管疾患	34	13	37	43	39
	脳・神経疾患	16	10	12	25	27
	染色体異常 奇形症候群	40	44	39	34	30
	感染症	35	32	125	63	54
	代謝内分泌	36	30	56	49	43
	その他	485	511	549	591	663
奈良医大	呼吸器疾患	55	52	56	58	69
	心・循環器疾患	37	36	25	25	29
	消化管疾患	24	8	21	19	22
	脳・神経疾患	11	5	9	16	10
	染色体異常 奇形症候群	27	37	28	19	24
	感染症	17	9	52	19	15
	代謝内分泌	18	15	7	14	8
	その他	321	259	213	234	272
県総合	呼吸器疾患	183	181	134	164	139
	心・循環器疾患	16	11	7	12	18
	消化管疾患	9	5	14	20	13
	脳・神経疾患	5	5	3	9	10
	染色体異常 奇形症候群	13	7	10	14	6
	感染症	3	11	60	24	13
	代謝内分泌	2	8	18	12	10
	その他	106	199	323	342	368
天理よろづ	呼吸器疾患	25	27	33	34	60
	心・循環器疾患	0	1	1	0	3
	消化管疾患	1	0	2	4	4
	脳・神経疾患	0	0	0	0	7
	染色体異常 奇形症候群	0	0	1	1	0
	感染症	15	12	13	20	26
	代謝内分泌	16	7	31	23	25
	その他	58	53	13	15	23

3 入院症例の出生週数（例）

本年における3施設の入院症例の出生週数別分布をみると、37週以上の正期産が全体の約73%を占め、2022年以降ほぼ同水準で推移していた（表34）。一方、37週未満の早産についても週数別に大きな変動はなく、2022年以降は安定している。2015年からの長期的推移をみると、2022年にかけて37週以降の正期産割合が徐々に増加しており、同期間にみられた入院数の増加には、正期産例の増加が寄与していると考えられる。

総じて、2022年から2024年における出生週数分布に大きな変化は認められず、県内の妊娠管理および早産予防体制が継続的に機能していることが示唆される。

表 34 入院症例の出生数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
22週	1(0.2%)	3(0.5%)	1(0.1%)	1(0.1%)	1(0.1%)	0	0	1(0.1%)	0	1(0.1%)
23週	1(0.2%)	3(0.5%)	2(0.3%)	0	0	1(0.1%)	5(0.6%)	1(0.1%)	2(0.2%)	0
24週	6(1.2%)	3(0.5%)	3(0.4%)	3(0.4%)	7(0.8%)	1(0.1%)	1(0.1%)	5(0.5%)	1(0.1%)	6(0.6%)
25週	1(0.2%)	2(0.4%)	2(0.3%)	2(0.2%)	1(0.1%)	3(0.4%)	4(0.5%)	5(0.5%)	7(0.7%)	0
26週	1(0.2%)	6(1.1%)	6(0.9%)	4(0.5%)	1(0.1%)	2(0.3%)	1(0.1%)	4(0.4%)	6(0.6%)	5(0.5%)
27週	4(0.8%)	4(0.7%)	5(0.7%)	7(0.9%)	5(0.6%)	5(0.6%)	2(0.2%)	7(0.7%)	4(0.4%)	5(0.5%)
28週	13(2.6%)	7(1.3%)	4(0.6%)	4(0.5%)	2(0.2%)	6(0.8%)	6(0.7%)	12(1.2%)	5(0.5%)	4(0.4%)
29週	3(0.6%)	7(1.3%)	0	8(1.0%)	8(1.0%)	8(1.0%)	5(0.6%)	3(0.3%)	5(0.5%)	1(0.1%)
30週	9(1.8%)	8(1.4%)	7(1.0%)	19(2.3%)	9(1.1%)	15(1.9%)	9(1.1%)	6(0.6%)	8(0.8%)	8(0.8%)
31週	16(3.2%)	16(2.9%)	22(3.2%)	15(1.8%)	10(1.2%)	5(0.6%)	6(0.7%)	8(0.8%)	13(1.3%)	5(0.5%)
32週	22(4.3%)	23(4.1%)	20(2.9%)	15(1.8%)	15(1.8%)	18(2.3%)	17(2.0%)	13(1.3%)	18(1.8%)	14(1.4%)
33週	27(5.3%)	22(3.9%)	26(3.8%)	24(3.0%)	23(2.7%)	22(2.8%)	21(2.5%)	15(1.5%)	20(2.0%)	15(1.5%)
34週	34(6.7%)	48(8.6%)	45(6.6%)	44(5.4%)	60(7.1%)	52(6.7%)	38(4.6%)	44(4.3%)	29(3.0%)	37(3.7%)
35週	56(11.0%)	47(8.4%)	64(9.3%)	79(9.7%)	67(8.0%)	69(8.9%)	73(8.7%)	55(5.4%)	70(7.2%)	71(7.0%)
36週	36(7.1%)	45(8.1%)	60(8.8%)	62(7.6%)	87(10.3%)	60(7.8%)	68(8.1%)	83(8.2%)	75(7.7%)	96(9.5%)
37週以上	277(54.6%)	315(56.4%)	418(61.0%)	522(64.3%)	543(64.6%)	505(65.4%)	577(69.1%)	745(73.6%)	711(72.6%)	734(72.7%)
不明	0	0	0	3(0.4%)	2(0.2%)	0	2(0.2%)	5(0.5%)	5(0.5%)	8(0.8%)
合計	507(100.0%)	559(100.0%)	685(100.0%)	812(100.0%)	841(100.0%)	772(100.0%)	835(100.0%)	1,012(100.0%)	979(100.0%)	1,010(100.0%)

4 出生時体重（例）

本年の3施設における出生時体重別分布をみると、2,500g以上の出生が全体の約63%を占め、2022年以降ほぼ同水準で推移している（表35）。2,500g未満の分布についても、2022年以降は大きな変動は認められない。このうち、1,500～2,499gの中程度低出生体重児が主な構成を占めており（約30%前後）、極・超低出生体重児（1,500g未満）は約5～6%と、近年は同程度で推移している。2015年以降の出生時体重の推移の傾向は出生週数分布の推移と整合していた。

総じて出生時体重分布には年次的な大きな変化はなく、本年も県内の周産期管理体制が引き続き安定して機能している。

表 35 出生時体重

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500g未満	1(0.2%)	4(0.7%)	3(0.4%)	3(0.4%)	2(0.2%)	0	2(0.2%)	0	1(0.1%)	3(0.3%)
500-749g	10(2.0%)	8(1.4%)	9(1.3%)	9(1.1%)	6(0.7%)	7(0.9%)	11(1.3%)	11(1.1%)	9(0.9%)	3(0.3%)
750-999g	11(2.2%)	16(2.9%)	6(0.9%)	12(1.5%)	13(1.5%)	11(1.4%)	6(0.7%)	16(1.6%)	15(1.5%)	11(1.1%)
1,000-1,249g	13(2.6%)	15(2.7%)	13(1.9%)	15(1.8%)	11(1.3%)	23(3.0%)	6(0.7%)	9(0.9%)	8(0.8%)	10(1.0%)
1,250-1,499g	20(3.9%)	22(3.9%)	24(3.5%)	23(2.8%)	17(2.0%)	19(2.5%)	12(1.4%)	15(1.5%)	13(1.3%)	15(1.5%)
1,500-1,749g	37(7.3%)	35(6.3%)	31(4.5%)	31(3.8%)	34(4.0%)	25(3.2%)	33(4.0%)	28(2.8%)	32(3.3%)	25(2.5%)
1,750-1,999g	56(11.0%)	57(10.2%)	63(9.2%)	68(8.4%)	60(7.1%)	58(7.5%)	65(7.8%)	43(4.2%)	57(5.8%)	67(6.6%)
2,000-2,249g	51(10.1%)	60(10.8%)	84(12.3%)	96(11.8%)	93(11.1%)	107(13.9%)	96(11.5%)	72(7.1%)	87(8.9%)	100(9.9%)
2,250-2,499g	58(11.4%)	69(12.4%)	84(12.3%)	106(13.1%)	92(10.9%)	87(11.3%)	100(12.0%)	139(13.7%)	108(11.0%)	138(13.7%)
2,500g以上	250(49.3%)	271(48.7%)	368(53.7%)	449(55.3%)	513(61.0%)	435(56.3%)	504(60.4%)	677(66.9%)	649(66.3%)	638(63.2%)
不明	0	0	0	0	0	0	0	2(0.4%)	0	0
合計	507(100.0%)	557(100.0%)	685(100.0%)	812(100.0%)	841(100.0%)	772(100.0%)	835(100.0%)	1,012(100.0%)	979(100.0%)	1,010(100.0%)

5 人工呼吸器管理（例）

本年の3施設における人工呼吸管理症例数は全体で約240例と前年よりわずかに増加した（表36）。入院数に占める人工呼吸管理症例率をみると、奈良県立医科大学附属病院では症例数・率ともに2022年以降増加傾向にあり、重症新生児の集約化が進んでいることがうかがえる。天理よろづ相談所病院では、症例数・率ともに近年やや増加傾向を示している一方、県総合医療センターでは管理症例数はほぼ横ばいであるが、入院数の増加に伴い率はやや低下傾向にある。

全体として、呼吸管理を要する症例は緩やかに増加しており、重症例対応に必要な機器・人員などのリソース確保が今後の重要な課題と考えられる。

表 36 人工呼吸器管理

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
合計	入院数（例）	574	517	422	636	633	631	842	1,018	979	1,020
	人工呼吸器管理症例数（例）	168	138	128	120	114	129	189	184	228	244
	人工呼吸器管理症例率（％）	29.3%	26.7%	30.3%	18.9%	18.0%	20.4%	22.4%	18.1%	23.3%	23.9%
奈良医大	入院数（例）	225	203	177	272	280	275	344	384	348	371
	人工呼吸器管理症例数（例）	84	67	63	60	54	61	96	99	126	152
	人工呼吸器管理症例率（％）	37.3%	33.0%	35.6%	22.1%	19.3%	22.2%	27.9%	25.8%	36.2%	41.0%
県総合	入院数（例）	225	203	177	272	280	275	425	549	528	551
	人工呼吸器管理症例数（例）	84	67	63	60	54	61	82	73	78	69
	人工呼吸器管理症例率（％）	37.3%	33.0%	35.6%	22.1%	19.3%	22.2%	19.3%	13.3%	14.8%	12.5%
天理よろづ	入院数（例）	124	111	68	92	73	81	73	85	103	98
	人工呼吸器管理症例数（例）	0	4	2	0	6	7	11	12	24	23
	人工呼吸器管理症例率（％）	-	3.6%	2.9%	-	8.2%	8.6%	15.1%	14.1%	23.3%	23.5%

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科などを含む）

本年の外科手術症例の内訳をみると、奈良県立医科大学附属病院と県総合医療センターの2施設で実施されており、天理よろづ相談所病院では外科手術は行われなかった。（表 37）

奈良県立医科大学附属病院では、未熟児網膜症に対する網膜光凝固術が最も多く、さらに横隔膜ヘルニアや心疾患に対する外科的治療が多数を占めた。特に心疾患に対する手術は県内で同院のみが実施可能であり、重症循環器疾患の集約的管理拠点としての機能が確立している。一方、県総合医療センターでは、消化管閉鎖や腸回転異常などを含む消化器系手術が中心であり、出生直後からの外科的対応を要する症例に対応している。

全体として、県内の新生児外科手術は奈良県立医科大学附属病院と県総合医療センターによる役割調整が確立しており安定した外科診療体制が維持されている。

表 37 外科手術

	出生体重	出生週数	疾患名	術式
奈良医大	500g未満	24	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術
		26	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術×2
	500-749g	24	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術×2
		24	超低出生体重児 未熟児動脈管開存症	動脈管開存症手術、急性汎発性腹膜炎手術、人工肛門造設術、網膜光凝固術×4
	750-999g	24	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術
		26	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術
		26	超低出生体重児	網膜光凝固術×2
		27	大動脈弓離断複合 22q11欠失症候群	大動脈離断症手術、気管切開術
		27	超低出生体重児	網膜光凝固術
	1,000-1,249g	27	超低出生体重児 未熟児動脈管開存症 未熟児網膜症	動脈管開存症手術、網膜光凝固術
		28	超低出生体重児 未熟児動脈管開存症	動脈管開存症手術
	1,250-1,499g	35	18トリソミー	気管切開術
	1,500-1,749g	36	腹壁破裂	腹壁破裂修復術、小児創傷処理
	1,750-1,999g	35	早産児、低出生体重児	肺動脈絞扼術
		39	心室中隔欠損症、低出生体重児、トリソミー18	気管切開
	2,000-2,249g	39	大動脈弓離断複合	肺動脈絞扼術
	2,250-2,499g	35	横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア修復術
		36	低出生体重児 心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
		37	心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
		38	ファロー四徴症 ダウン症候群	気管切開術
		38	大動脈縮窄複合 心室中隔欠損症	大動脈縮窄症手術、肺動脈絞扼術
		38	総肺静脈還流異常症	総肺静脈還流異常修復術
	2,500-2,749g	35	新生児水頭症 肺動脈狭窄 小眼球	穿頭脳室ドレナージ術、水頭症手術(シャント手術)、気管切開術
		37	食道閉鎖 右胸心	先天性食道閉鎖根治術
		37	完全大血管転位症 未熟児動脈管開存症	大血管転位症手術(ジャネー手術)、人工心臓
		38	ファロー四徴症 卵円孔開存症 肺高血圧症	肺動脈絞扼術
		39	低値鎖肛	鎖肛手術
		39	ファロー四徴症 鎖肛 ダウン症候群	人工肛門造設術、体動脈肺動脈短絡手術(ブラロック手術)
	2,750-2,999g	37	先天性横隔膜ヘルニア	腹腔鏡下横隔膜ヘルニア手術
		39	上部総肺静脈還流異常症 大動脈離断 心室中隔欠損症 鎖肛 外耳道閉鎖 キットフィ症候群	総肺静脈還流異常症手術、肺動脈絞扼術、大動脈縮窄症手術、試験開胸
		41	完全大血管転位症	バルーン心房中隔裂開術(BAS)
	3,000-3,249g	38	房室中隔欠損症 ダウン症候群	肺動脈絞扼術×2
		40	肺動脈弁狭窄	経皮的肺動脈弁拡張術
	3,250-3,499g	41	極型ファロー四徴症 肺動脈閉鎖症	体動脈肺動脈短絡術
	3,500-3,749g	40	右肺動脈上行大動脈起始症	肺動脈閉鎖症手術
	3,750-3,999g	39	胆道閉鎖症	試験開腹術
県総合	出生体重	出生週数	疾患名	術式
	1,250-1,499g	31週	腸回転異常、癒着性イレウス	空腸バイパス術
	1,750-1,999g	36週	小腸閉鎖	腸管吻合術
	2,500-2,749g	35週	先天性水頭症、食道裂肛ヘルニア	噴門形成術、胃瘻造設術
		36週	重症新生児仮死	気管瘻造設術、嚕門筋切開術
		39週	卵巣嚢腫	腹腔鏡補助下卵巣嚢腫摘出術
	2,750-2,999g	37週	鎖肛	人工肛門造設術
		38週	全前のう胞症	気管瘻造設術
	3,000-3,249g	38週	先天性水頭症	内視鏡下透明中隔開窓術
	3,250-3,499g	40週	喉頭軟化症	全身麻酔下気管支鏡検査
		39週	仙尾部奇形腫	仙尾部奇形腫切除術
県総合	3,500-3,749g	39週	小腸閉鎖	拡張腸管切除・腸管吻合術、中心静脈カテーテル留置
		40週	鎖肛	肛門形成術、尿道管結紮術

7 血液浄化症例

本年の血液浄化症例は4例であり、奈良県立医科大学附属病院および県総合医療センターにおいて全交換輸血または交換輸血が実施された。いずれも重症黄疸や敗血症に対する対応であった。前年の2例（敗血症、重症黄疸）からは増加したが、年次変動の範囲内と考えられる。

表 38 血液浄化症例

	出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
奈良医大	500g未満	22週	敗血症	全血交換輸血
	3,250-3,499g	41週	重症黄疸	全血交換輸血
県総合	2,500-2,749g	39週	新生児黄疸	交換輸血
	2,750-2,999g	40週	新生児黄疸	交換輸血

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

本年における出生週数別の日齢 28 日以後の生存率をみると、全体で 99.7%と前年（99.4%）とほぼ同水準であり、年次的な大きな変動は認められなかった（表 39）。

早産期では、22～23 週の症例はなく、24～25 週は 6 例中 5 例（83.3%），26～27 週は 10 例中 9 例（90.0%），28～29 週は 5 例中 4 例（80.0%）の生存率であった。30 週以降の早産期では、31 週に 1 例の死亡例を認めたが、それ以外はすべて生存しており、高い生存率が維持されていた。

これらの結果は、県内の周産期医療ネットワークの機能維持と新生児集中治療の質の安定が継続していることを示す。今後も出生前から新生児期に至る一貫した管理体制の維持と質の向上が重要である。

表 39 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率

出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

合計	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
22週	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	0.0（0 / 1）
23週	100.0（1 / 1）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	-（0 / 0）
24週	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）	83.3（5 / 6）
25週	66.7（2 / 3）	75.0（3 / 4）	100.0（5 / 5）	85.7（6 / 7）	-（0 / 0）
26週	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	80.0（4 / 5）
27週	100.0（5 / 5）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（5 / 5）
28週	83.3（5 / 6）	100.0（6 / 6）	100.0（12 / 12）	100.0（5 / 5）	75.0（3 / 4）
29週	100.0（8 / 8）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）
30週	93.3（14 / 15）	100.0（9 / 9）	83.3（5 / 6）	100.0（8 / 8）	100.0（8 / 8）
31週	80.0（4 / 5）	100.0（6 / 6）	100.0（8 / 8）	100.0（13 / 13）	80.0（4 / 5）
32週	100.0（18 / 18）	100.0（17 / 17）	92.3（12 / 13）	100.0（18 / 18）	100.0（14 / 14）
33週	100.0（22 / 22）	100.0（21 / 21）	100.0（15 / 15）	95.0（19 / 20）	100.0（15 / 15）
34週	100.0（52 / 52）	100.0（38 / 38）	97.7（43 / 44）	100.0（29 / 29）	100.0（37 / 37）
35週	100.0（69 / 69）	98.6（72 / 73）	100.0（55 / 55）	98.6（69 / 70）	100.0（71 / 71）
36週	100.0（60 / 60）	98.5（67 / 68）	98.8（82 / 83）	100.0（75 / 75）	100.0（96 / 96）
37週以上	99.6（503 / 505）	99.8（576 / 577）	99.9（744 / 745）	99.4（707 / 711）	99.7（732 / 734）
不明	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）

巨大	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
22週	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	0.0（0 / 1）
23週	100.0（1 / 1）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	-（0 / 0）
24週	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）	83.3（5 / 6）
25週	66.7（2 / 3）	75.0（3 / 4）	100.0（5 / 5）	85.7（6 / 7）	-（0 / 0）
26週	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	80.0（4 / 5）
27週	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（5 / 5）
28週	80.0（4 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（8 / 8）	100.0（4 / 4）	75.0（3 / 4）
29週	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	-（0 / 0）
30週	90.0（9 / 10）	100.0（4 / 4）	75.0（3 / 4）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）
31週	75.0（3 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（9 / 9）	80.0（4 / 5）
32週	100.0（13 / 13）	100.0（9 / 9）	66.7（2 / 3）	100.0（6 / 6）	100.0（8 / 8）
33週	100.0（13 / 13）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（9 / 9）	100.0（10 / 10）
34週	100.0（26 / 26）	100.0（13 / 13）	95.0（19 / 20）	100.0（14 / 14）	100.0（19 / 19）
35週	100.0（37 / 37）	97.8（45 / 46）	100.0（22 / 22）	100.0（35 / 35）	100.0（39 / 39）
36週	100.0（34 / 34）	100.0（29 / 29）	95.7（22 / 23）	100.0（30 / 30）	100.0（26 / 26）
37週以上	99.6（258 / 259）	99.5（201 / 202）	99.6（258 / 259）	98.6（206 / 209）	99.6（226 / 227）
不明	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）

県総合	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
27週	100.0（2 / 2）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
28週	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）
29週	100.0（3 / 3）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）
30週	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）
31週	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（4 / 4）	-（0 / 0）
32週	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（10 / 10）	100.0（12 / 12）	100.0（6 / 6）
33週	100.0（9 / 9）	100.0（12 / 12）	100.0（8 / 8）	90.9（10 / 11）	100.0（5 / 5）
34週	100.0（26 / 26）	100.0（25 / 25）	100.0（24 / 24）	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）
35週	100.0（32 / 32）	100.0（24 / 24）	100.0（30 / 30）	96.7（29 / 30）	100.0（26 / 26）
36週	100.0（22 / 22）	100.0（30 / 30）	100.0（55 / 55）	100.0（40 / 40）	100.0（67 / 67）
37週以上	99.4（168 / 169）	100.0（314 / 314）	100.0（409 / 409）	99.8（408 / 409）	99.8（417 / 418）
不明	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）

天理よろづ	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
35週	-（0 / 0）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（6 / 6）
36週	100.0（4 / 4）	88.9（8 / 9）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）
37週以上	100.0（77 / 77）	100.0（61 / 61）	100.0（77 / 77）	100.0（93 / 93）	100.0（89 / 89）
不明	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（％）

本年の出生体重別の日齢 28 日以後の生存率をみると、全体として年次変動の範囲内で推移しており、大きな変化は認められなかった（表 40）。

特に 500～1,499g の極・超低出生体重児においても、おおむね例年と同程度の高い生存率が維持されていた。一方で、750～999g 群で 3 例の死亡を認めたが、いずれも緊張性気胸、敗血症、18 トリソミー＋先天性横隔膜ヘルニアといった重篤かつ予後不良な要因によるものであり、不可避的な症例と考えられる（表 45）。

表 40 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率

出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（％）

合計	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
500g未満	-（0 / 0）	50.0（1 / 2）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	66.7（2 / 3）
500-749g	100.0（7 / 7）	100.0（11 / 11）	100.0（11 / 11）	88.9（8 / 9）	100.0（3 / 3）
750-999g	81.8（9 / 11）	100.0（6 / 6）	100.0（16 / 16）	100.0（15 / 15）	72.7（8 / 11）
1,000-1,249g	100.0（23 / 23）	100.0（6 / 6）	100.0（9 / 9）	100.0（8 / 8）	90.0（9 / 10）
1,250-1,499g	100.0（19 / 19）	100.0（12 / 12）	93.3（14 / 15）	100.0（13 / 13）	100.0（15 / 15）
1,500-1,749g	96.0（24 / 25）	97.0（32 / 33）	92.9（26 / 28）	90.6（29 / 32）	100.0（25 / 25）
1,750-1,999g	100.0（58 / 58）	100.0（65 / 65）	97.7（42 / 43）	100.0（57 / 57）	100.0（67 / 67）
2,000-2,249g	100.0（107 / 107）	100.0（96 / 96）	100.0（72 / 72）	98.9（86 / 87）	100.0（100 / 100）
2,250-2,499g	100.0（87 / 87）	100.0（100 / 100）	100.0（139 / 139）	100.0（108 / 108）	100.0（138 / 138）
2,500g以上	99.3（432 / 435）	99.6（502 / 504）	99.9（676 / 677）	99.7（647 / 649）	99.7（636 / 638）

奈良区大	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
500g未満	-（0 / 0）	50.0（1 / 2）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	66.7（2 / 3）
500-749g	100.0（7 / 7）	100.0（11 / 11）	100.0（11 / 11）	88.9（8 / 9）	100.0（3 / 3）
750-999g	75.0（6 / 8）	100.0（5 / 5）	100.0（16 / 16）	100.0（14 / 14）	70.0（7 / 10）
1,000-1,249g	100.0（13 / 13）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	100.0（6 / 6）	88.9（8 / 9）
1,250-1,499g	100.0（14 / 14）	100.0（5 / 5）	85.7（6 / 7）	100.0（7 / 7）	100.0（6 / 6）
1,500-1,749g	93.8（15 / 16）	94.7（18 / 19）	87.5（14 / 16）	90.0（18 / 20）	100.0（11 / 11）
1,750-1,999g	100.0（31 / 31）	100.0（29 / 29）	93.3（14 / 15）	100.0（24 / 24）	100.0（33 / 33）
2,000-2,249g	100.0（67 / 67）	100.0（50 / 50）	100.0（38 / 38）	100.0（44 / 44）	100.0（49 / 49）
2,250-2,499g	100.0（52 / 52）	100.0（44 / 44）	100.0（48 / 48）	100.0（30 / 30）	100.0（56 / 56）
2,500g以上	99.0（206 / 208）	99.4（167 / 168）	99.5（220 / 221）	99.5（192 / 193）	99.4（180 / 181）

県総合	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
500g未満	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
500-749g	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
750-999g	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）
1,000-1,249g	100.0（10 / 10）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）
1,250-1,499g	100.0（5 / 5）	100.0（6 / 6）	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）	100.0（9 / 9）
1,500-1,749g	100.0（9 / 9）	100.0（14 / 14）	100.0（12 / 12）	91.7（11 / 12）	100.0（13 / 13）
1,750-1,999g	100.0（24 / 24）	100.0（35 / 35）	100.0（26 / 26）	100.0（31 / 31）	100.0（32 / 32）
2,000-2,249g	100.0（35 / 35）	100.0（37 / 37）	100.0（32 / 32）	97.6（40 / 41）	100.0（46 / 46）
2,250-2,499g	100.0（25 / 25）	100.0（52 / 52）	100.0（76 / 76）	100.0（69 / 69）	100.0（73 / 73）
2,500g以上	99.4（163 / 164）	100.0（278 / 278）	100.0（392 / 392）	99.7（365 / 366）	99.7（375 / 376）

天理よろづ	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
1,250-1,499g	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
1,500-1,749g	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）
1,750-1,999g	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）
2,000-2,249g	100.0（5 / 5）	100.0（9 / 9）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（5 / 5）
2,250-2,499g	100.0（10 / 10）	100.0（4 / 4）	100.0（15 / 15）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）
2,500g以上	100.0（63 / 63）	98.3（57 / 58）	100.0（64 / 64）	100.0（90 / 90）	100.0（81 / 81）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

本年の新生児死亡数は早期新生児死亡 5 例、後期新生児死亡 1 例であり、前年に比べ早期新生児死亡が増加したものの、例年と比較すると年次変動の範囲内と考えられる（表 41）。本県の新生児医療体制は安定的に機能しており、重症例への集約管理が適切に行われていることが示唆される。

表 41 新生児死亡数

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
奈良医大	早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	3	4	4	3	1	4	2	3	0	5
	後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	1	1	0	0	0	1	1	2	0	1
	乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）	1	4	6	1	2	2	2	0	4	3
県総合	早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	2	0	1	0	2	1	0	0	1	0
	後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
	乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1

11 新生児搬送収容数（例）

本年の新生児搬送収容数は県内 3 施設合計 125 例で、前年（128 例）とほぼ同水準であった（表 42）。施設別にみると、県総合医療センター 67 例、奈良県立医科大学附属病院 57 例、天理よろづ相談所病院 1 例であった。年次推移をみても、過去数年間を通じて搬送件数はおおむね安定しており、県内の新生児搬送体制が恒常的に機能していることが確認できる。

表 42 新生児搬送収容数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
奈良医大	45	40	51	48	64	53	39	51	46	57
県総合	78	68	56	69	66	60	68	80	82	67
天理よろづ	10	4	1	1	3	3	0	0	0	1

12 医療的ケア児（在宅酸素、経管栄養等）で退院する児（数）

今回から、新規に医療的ケア児の集計を開始した。本年に医療的ケアを要して退院した児は計 39 例であり、そのうち奈良県立医科大学附属病院 33 例、県総合医療センター 5 例、天理よろづ相談所病院 1 例であった（表 43）。

近年、NICU 退院後の医療的ケア児支援が重要性を増しており、本年も引き続き在宅移行支援・訪問医療・地域連携の充実が課題として挙げられる。長期フォローアップ外来の機能が、医療的ケア児とその家族の生活支援において中心的役割を果たしている。次年以降の動向について着目していきたい。

表 43 医療的ケア児で退院する児

	2024年
奈良医大	33
県総合	5
天理よろづ	1

1 3 三角搬送（例） ※県総合のみ該当

本年に実施された三角搬送は4例で、すべて県総合医療センターから奈良県立医科大学附属病院への搬送であった（表44）。搬送理由の内訳は、心疾患対応が必要であった症例が2例、ベッド満床のための搬送が2例であった。県総合医療センターでは先天性心疾患に対する外科的治療機能を有していないため、心疾患症例の一部は奈良県立医科大学附属病院へ搬送されている。県内での適切な役割分担と連携体制が機能していることを示している。

表 44 三角搬送

出生体重	出生週数	日齢	主訴	収容先	三角搬送理由
2,750-2,999g	39週	0-7日	大動脈離断、心室中隔欠損症、鎖肛	奈良医大附属病院	心疾患のため
3,000-3,249g	37週	0-7日	呼吸障害	奈良医大附属病院	満床のため
3,250-3,499g	39週	0-7日	呼吸障害	奈良医大附属病院	満床のため
	41週	0-7日	ファロー四徴症、肺動脈弁閉鎖	奈良医大附属病院	心疾患のため

1 4 新生児死亡例（例）

本年の死亡例は10例であり、その多くが超低出生体重児（1,000g未満）および重度先天異常を伴う症例であった（表45）。染色体異常では18トリソミーを3例認めた。また、重症代謝異常症例が2例含まれており、根治的治療が困難な予後不良例であった。今後も、出生前診断から新生児期集中治療への連携強化と、家族支援を含む包括的ケア体制の維持が重要である。

表 45 新生児死亡例

出生体重	出生週数	死亡日齢	病名
500g未満	22週	17	超低出生体重児 脳室内出血4度 DIC
750-999g	24週	0	超低出生体重児 緊張性気胸
	26週	1	超低出生体重児 敗血症
	27週	67	大動脈弓離断複合 22q11欠失症候群
	28週	1	18トリソミー 先天性横隔膜ヘルニア 重症新生児仮死
1,000-1,249g	31週	1	18トリソミー 左心低形成 食道閉鎖
1,250-1,499g	35週	138	18トリソミー 心室中隔欠損 脳室内出血4度
2,250-2,499g	25週	41	横隔膜ヘルニア
3,000-3,249g	37週	5	ガラクトース血症
3,250-3,499g	41週	154	非ケトン性グルタミン血症

15 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

新生児搬送疾患の内訳をみると、呼吸器疾患が最も多く 50 例で、次いで心・循環器疾患 21 例、消化管疾患 14 例が続いた（表 46）。呼吸器疾患、感染症、消化管疾患、心疾患など、主要疾患の構成は過去数年と概ね同様であり、年次変動の範囲内の変化にとどまっていた。本年も新生児搬送体制は安定的に機能し、重症例の適切な集約管理が継続して行われていると考えられる。

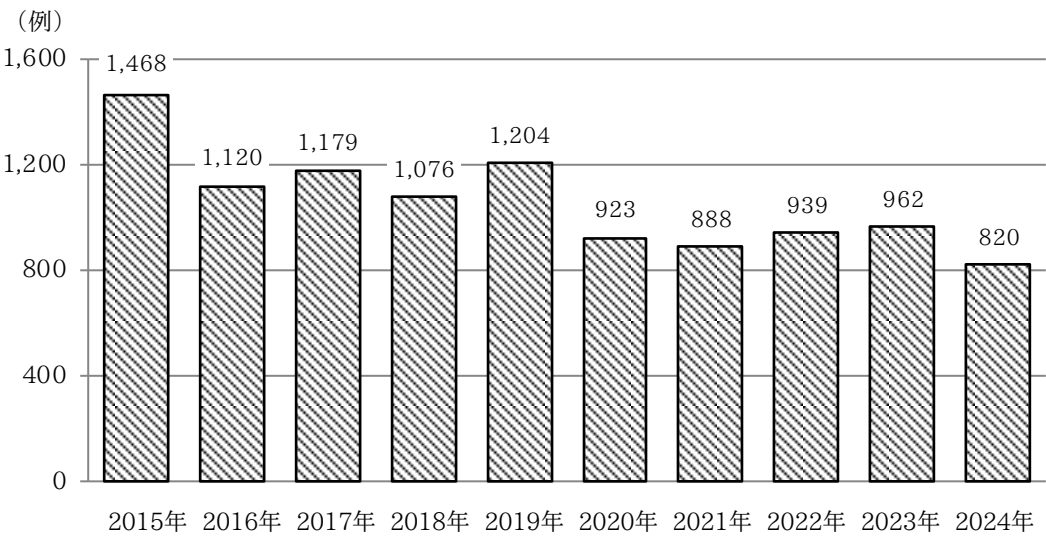
表 46 新生児搬送疾患名

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
合計	呼吸器疾患	63	50	64	61	50
	心・循環器疾患	14	17	10	12	21
	消化管疾患	13	5	16	15	14
	脳・神経疾患	3	4	5	18	10
	染色体異常 奇形症候群	8	11	9	15	10
	感染症	13	6	14	9	5
	その他	47	23	23	15	31
奈良医大	呼吸器疾患	10	10	16	11	16
	心・循環器疾患	8	10	7	7	10
	消化管疾患	8	3	7	5	7
	脳・神経疾患	3	0	0	9	0
	染色体異常 奇形症候群	1	6	4	6	8
	感染症	8	3	3	4	1
	その他	16	7	14	4	15
県総合	呼吸器疾患	53	40	45	50	33
	心・循環器疾患	6	7	3	5	11
	消化管疾患	5	2	8	10	7
	脳・神経疾患	0	4	5	9	10
	染色体異常 奇形症候群	7	5	5	8	2
	感染症	5	3	11	5	3
	その他	28	16	8	9	14
天理よろづ	呼吸器疾患	0	0	3	0	1
	消化管疾患	0	0	1	0	0
	染色体異常 奇形症候群	0	0	0	1	0
	感染症	0	0	0	0	1
	その他	3	0	1	2	2

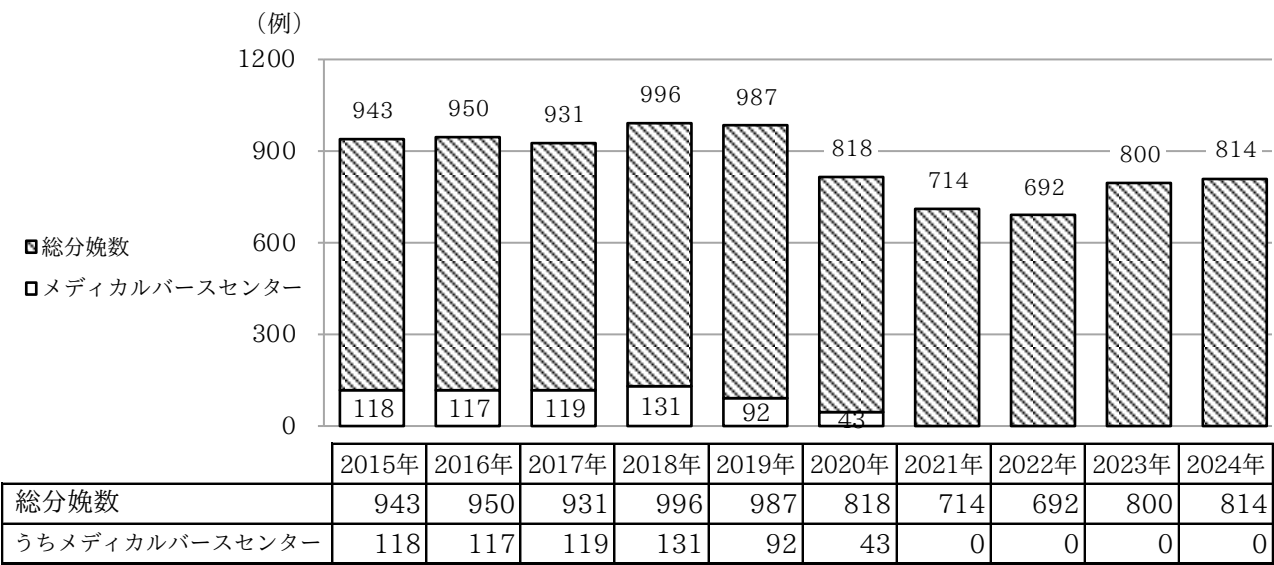
第3節 施設別の統計（産科部門）

第1項 奈良県立医科大学附属病院

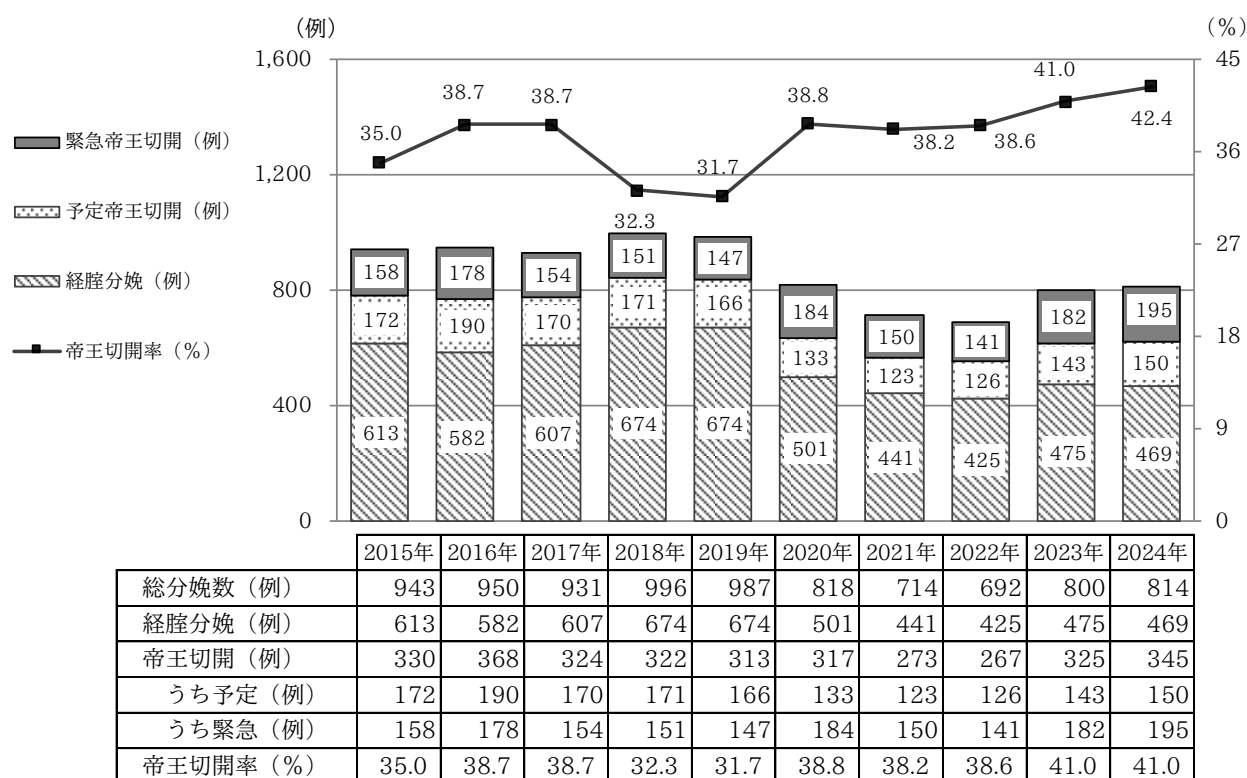
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
22週	2	3	1	2	1	1	0	0	1	0	1
23週	1	2	1	1	0	0	2	3	1	1	0
24週	3	5	2	4	2	1	0	1	5	1	7
25週	1	1	2	3	2	1	3	4	5	7	0
26週	5	2	3	4	4	1	2	1	2	6	5
27週	3	2	1	7	7	4	3	2	7	5	5
28週	4	8	4	1	3	0	5	3	5	4	4
29週	4	2	6	0	5	3	2	4	3	5	0
30週	3	4	3	5	9	7	8	4	4	5	3
31週	7	6	7	8	6	3	4	3	4	9	5
32週	7	9	8	11	8	8	13	11	3	8	8
33週	11	10	8	10	13	15	13	9	7	9	10
34週	8	10	21	20	17	32	25	13	20	14	19
35週	24	33	15	27	34	38	37	43	20	34	37
36週	41	77	62	46	56	62	43	41	25	45	38
37週	156	159	174	129	162	146	129	108	120	126	125
38週	208	209	225	221	243	246	209	205	195	208	215
39週	202	182	220	182	241	225	164	165	149	180	204
40週	168	203	177	182	175	181	133	96	118	138	111
41週	51	58	64	64	63	60	36	38	33	36	23
42週以上	0	4	1	2	0	0	0	3	0	0	0
不明	0	5	2	2	1	2	0	0	0	0	0

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500g未満	7	3	9	3	2	0	2	1	1	4
500-999g	19	15	9	18	13	15	15	26	22	13
1,000-1,499g	13	20	20	17	13	23	9	8	15	14
1,500-1,999g	48	40	48	56	52	42	46	27	42	39
2,000-2,499g	137	135	143	141	145	147	131	100	103	130
2,500g以上	770	763	753	817	811	603	554	565	658	620
不明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	610	636	614	671	647	514	493	426	479	473
35-39歳	250	240	249	257	246	224	163	186	223	243
40-44歳	79	72	103	89	93	72	56	76	94	92
45歳以上	4	2	2	5	1	8	2	4	4	6

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	49	36	67	67	59	45	73	51	64	56
子宮筋腫（核出術後）	5	0	0	4	9	3	5	18	15	7
付属器異常	25	25	20	4	22	13	23	28	14	16
子宮頸がん（既往含む）	9	0	15	3	12	8	1	10	7	3
子宮形態異常（子宮奇形）	4	3	4	2	11	3	0	1	2	6
甲状腺機能亢進症	14	9	13	11	18	14	17	8	16	15
甲状腺機能低下症	14	17	35	31	41	23	34	32	28	41
糖尿病（含GDM）	54	62	67	62	87	74	72	63	85	67
呼吸器 肺炎・気管支炎	25	28	19	14	25	17	15	30	23	17
慢性腎炎	12	4	1	1	3	4	1	2	1	7
本態性高血圧	12	13	13	10	15	8	13	12	9	13
血液疾患	0	0	0	5	9	3	0	2	0	12
自己免疫疾患	10	9	14	11	15	6	7	21	6	8
循環器疾患 心血管疾患	14	0	0	16	16	11	11	12	14	21
精神科疾患（含てんかん）	49	43	25	47	44	34	48	53	30	48
ウイルス性肝炎（※1）	11	5	5	3	9	4	4	5	0	1
消化器疾患(※2)	12	20	8	78	14	5	9	7	2	2
その他	0	0	0	63	35	30	44	90	103	0

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	109	115	177	114	153	168	123	64	194	143
妊娠高血圧症候群	49	51	63	58	57	59	86	83	92	84
胎児発育不全	31	28	52	80	76	46	40	41	46	31
前置胎盤	21	16	21	10	15	9	14	11	9	22
子癇	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0
弛緩出血	0	142	91	108	78	93	131	57	75	8
常位胎盤早期剥離	10	18	12	16	11	11	5	6	5	9
HELLP症候群	4	0	5	5	3	3	4	6	1	0
低置胎盤	6	13	19	5	13	3	12	3	16	9
血液型不適合	12	18	13	1	10	5	3	15	15	2
羊水過少	9	7	7	9	11	12	16	12	13	9
羊水塞栓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	0	0	0	261	88	90	77	4	29	0

※1 入院のみ / ※2 早産期

※羊水塞栓は、2024年より集計開始

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	14	12	12	26	24	19	14	8	22	10
子宮頸管縫縮術 ※治療的										21
産道血腫除去術	1	0	0	8	4	4	5	4	3	3
子宮動脈塞栓術	3	1	8	5	5	3	7	9	6	3
子宮摘出術	4	2	1	0	1	0	1	0	0	1
胎児胸腹水穿刺	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
羊水除去	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0
胎児胸腔シャント	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※胎児胸腔シャントは、2024年より集計開始

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	9	9	23	11	16	17	17	8	16	11

11 多胎妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	50	66	55	64	50	51	44	35	46	35
うちMD（※1）	37	20	22	44	38	16	17	13	14	9
うちDD（※2）	11	45	33	20	12	33	26	22	32	26
うちMM（※3）		0	0	0	0	2	1	0	0	0
うち不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三胎	1	1	2	1	2	0	2	0	0	0

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎／※3 一絨毛膜一羊膜双胎

12 母体搬送収容数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	125	106	127	130	123	132	124	153	148	116

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	56	44	62	59	74	65	62	70	70	51
妊娠高血圧症候群	10	5	9	14	19	21	19	25	21	19
胎児発育不全	3	3	0	0	0	1	1	0	4	2
産後出血	12	12	20	16	10	14	13	24	22	21
胎児機能不全	1	4	3	4	4	7	6	8	6	0
常位胎盤早期剥離	8	7	3	4	6	11	5	4	1	4
前置胎盤	5	1	7	0	2	1	1	1	0	0
多胎	4	1	0	0	1	1	1	1	2	1
HELLP症候群	3	1	2	2	4	3	1	2	0	1
胎児形態異常	1	1	2	3	0	1	2	0	0	0
未受診	0	0	0	2	2	1	1	1	2	1
その他	22	30	17	25	22	11	8	28	19	15

※1 入院のみ / ※2 早産期

1 4 染色体異常（例、重複あり）

疾患名	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数
18トリソミー	3	3	4	3	1	1	3	1	2	2	3	3	3	1	3	3	2	2	5	3
13トリソミー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
21トリソミー	3	1	4	2	3	3	1	0	9	6	2	1	7	3	5	5	2	2	3	0
遺伝子異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0
その他の染色体・遺伝子異常	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1 5 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数
骨系統性疾患	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	0	0	0	0	2	1	3	3	0	0
外観奇形	3	0	7	5	0	0	10	8	15	5	9	3	18	7	12	6	6	4	1	1
心血管疾患	2	1	6	3	1	1	13	12	12	9	25	25	13	8	14	9	23	23	6	6
消化器疾患	3	3	4	3	2	2	2	2	12	10	3	2	6	4	7	5	3	3	2	2
泌尿器・生殖器疾患	1	0	0	0	0	0	2	2	4	3	4	1	3	3	9	6	10	10	1	1
神経系疾患	5	4	4	4	0	0	6	7	4	3	4	2	3	2	7	7	10	10	3	3
リンパ系疾患	6	6	3	3	1	1	3	3	3	3	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
胸腺疾患	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1
その他の先天異常	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	2	0	0	5	5	4	4	0	0

1 6 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
院内症例	37	37	67	34	81	75	66	75	71	175
搬送症例	112	83	118	124	134	138	133	151	140	106
合計	149	120	185	158	215	213	199	226	211	381

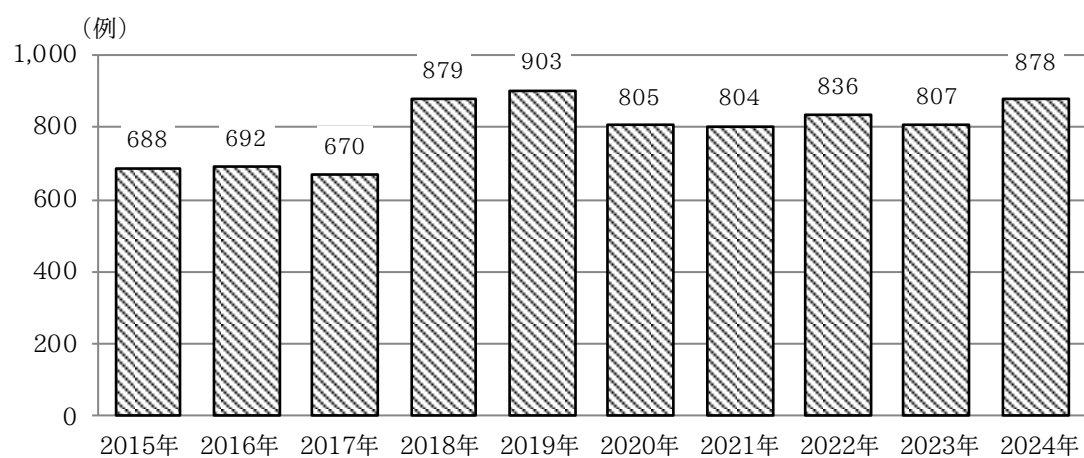
1 7 MFICU 入院適応（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産(入院のみ)	63	56	78	69	88	83	73	89	101	119
妊娠高血圧症候群	14	21	26	22	38	25	47	42	40	53
産後出血	11	18	28	18	12	20	15	25	24	34
常位胎盤早期剥離	11	9	6	12	6	8	6	6	4	7
胎内胎児発育不全（※1）	8	10	5	9	1	5	1	3	7	6
前置胎盤	10	8	16	2	12	7	6	10	4	20
双胎	6	8	6	10	5	14	8	1	5	4
HELLP症候群	4	3	4	4	3	2	3	3	0	0
先天異常	2	3	1	8	4	2	1	4	1	4
肺水腫	-	2	1	0	1	1	1	0	0	0
合併症妊娠	6	5	7	20	29	25	9	13	4	19
その他	17	12	14	8	16	21	29	41	21	15

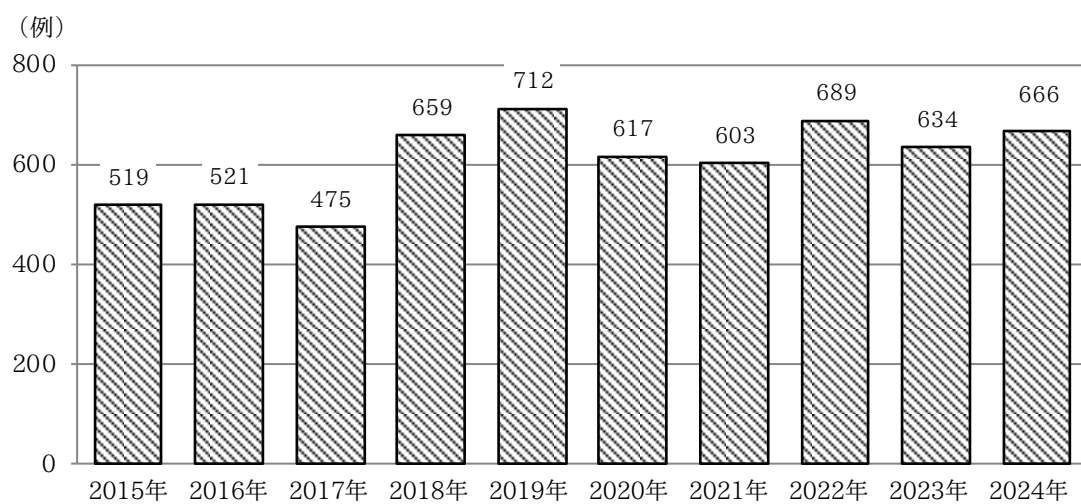
※1 胎内診断のみ

第2項 奈良県総合医療センター

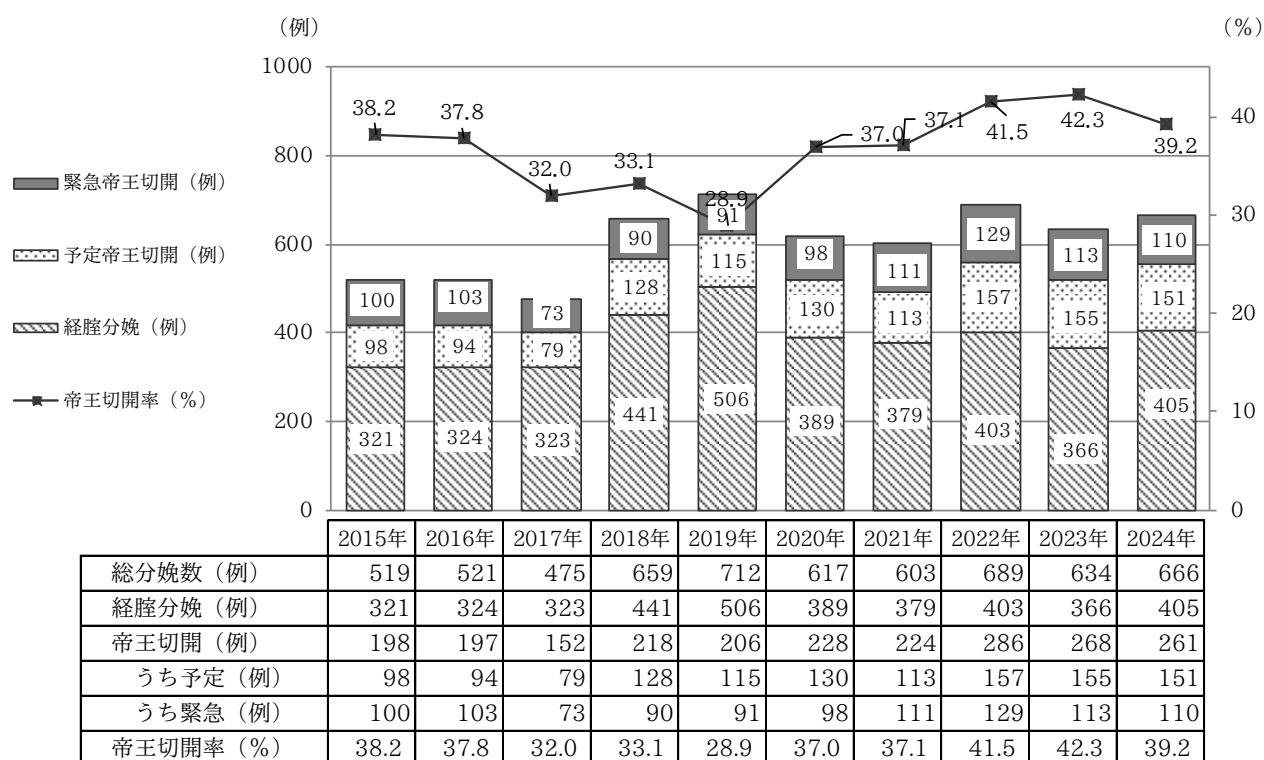
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
24週	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
25週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27週	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
28週	4	2	3	1	3	1	2	1	0	0
29週	1	1	0	3	4	1	0	0	0	1
30週	4	5	2	8	2	4	5	2	2	5
31週	8	7	8	9	7	2	3	4	5	0
32週	10	12	4	5	7	4	8	10	13	6
33週	14	18	15	11	9	9	12	7	11	5
34週	21	24	21	24	25	25	22	23	13	18
35週	28	32	26	39	22	29	30	27	27	25
36週	43	40	24	35	30	37	34	45	33	58
37週	114	125	107	115	122	119	112	107	104	118
38週	101	96	96	159	168	146	136	162	185	150
39週	81	101	90	120	139	114	129	140	119	138
40週	83	69	76	122	152	114	112	145	117	135
41週	32	23	19	48	51	46	37	45	42	43
42週以上	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500-999g	2	3	0	1	1	1	0	0	0	0
1,000-1,499g	15	11	15	17	15	12	8	8	8	9
1,500-1,999g	44	58	35	39	37	33	45	35	37	37
2,000-2,499g	110	114	87	120	99	99	102	104	104	108
2,500g以上	374	370	355	522	590	506	487	571	522	548
不明	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	305	303	280	379	428	345	332	387	353	379
35-39歳	163	151	141	209	217	178	192	207	197	209
40-44歳	50	63	47	70	62	88	77	90	77	69
45歳以上	1	4	3	1	5	6	2	5	7	9

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	29	42	32	53	34	34	42	47	43	44
子宮筋腫（核出術後）	14	16	8	18	14	17	14	13	18	9
付属器異常	9	5	6	8	12	15	10	13	12	7
子宮頸がん（既往含む）	10	9	4	14	16	15	10	17	11	18
子宮形態異常（子宮奇形）	6	1	2	6	3	7	5	1	5	4
甲状腺機能亢進症	6	12	8	15	9	8	7	7	11	8
甲状腺機能低下症	9	14	28	23	25	29	30	35	45	50
糖尿病（含GDM）	27	29	32	43	50	35	59	59	54	20
呼吸器 肺炎・気管支炎	11	9	10	13	12	13	19	10	14	17
慢性腎炎	4	0	4	3	4	2	3	6	6	1
本態性高血圧	4	5	2	5	7	4	4	8	10	10
血液疾患	0	0	0	4	2	2	0	2	1	6
自己免疫疾患	2	5	2	7	4	6	2	8	4	9
循環器疾患 心血管疾患	7	0	8	4	0	2	10	2	3	4
精神科疾患（含てんかん）	24	20	34	36	41	29	33	39	40	27
ウイルス性肝炎（※1）	7	0	2	0	0	2	1	1	4	0
消化器疾患（※2）	4	8	2	4	3	1	6	7	6	4
その他	0	0	0	0	0	34	35	54	33	25

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	168	189	140	182	149	130	126	112	82	111
妊娠高血圧症候群	58	57	36	37	50	39	65	54	53	51
胎児発育不全	35	39	28	35	35	33	35	27	44	55
前置胎盤	7	15	8	12	15	12	6	16	18	12
子癇	1	0	0	1	2	0	4	1	0	0
弛緩出血	56	62	50	21	188	82	81	83	78	76
常位胎盤早期剥離	8	7	6	5	5	8	7	4	4	4
HELLP症候群	1	2	1	1	2	3	6	4	2	1
低置胎盤	5	4	4	4	2	7	7	16	10	9
血液型不適合	6	8	8	9	10	9	5	4	17	3
羊水過少	7	3	2	3	6	10	7	7	7	14
羊水塞栓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	0	0	0	0	0	25	38	45	33	97

※1 入院のみ / ※2 早産期

※羊水塞栓は、2024年より集計開始

9 産科手術 他 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	6	1	3	2	9	3	6	4	9	11
子宮頸管縫縮術 ※治療的										3
産道血腫除去術	0	3	0	2	1	0	0	0	0	2
子宮動脈塞栓術	3	0	0	0	0	7	3	14	3	9
子宮摘出術	0	0	1	0	0	4	3	0	0	0
胎児胸腹水穿刺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
羊水除去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
胎児胸腔シャント	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	0	0	0	0	0	6	4	4	2	0

※胎児胸腔シャントは、2024年より集計開始

10 輸血治療症例 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	33	25	24	12	9	17	11	21	16	24

11 多胎妊娠 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	34	41	24	44	37	38	42	36	42	47
うちMD (※1)	10	18	9	20	18	17	15	18	16	14
うちDD (※2)	24	23	15	24	19	21	27	18	26	33

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎

12 母体搬送収容数 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	147	148	151	155	132	115	133	132	115	99

13 母体搬送疾患名 (例、重複あり)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産 (※1)・前期破水 (※2)	97	94	87	101	77	71	77	77	70	53
妊娠高血圧症候群	19	16	11	16	9	9	15	17	7	2
胎児発育不全	1	4	1	0	0	0	0	1	1	0
産後出血	8	11	17	6	14	12	16	15	15	9
胎児機能不全	2	3	9	3	0	2	4	5	0	1
常位胎盤早期剥離	3	3	2	4	5	4	5	2	2	3
前置胎盤	2	2	2	6	5	1	1	1	1	1
多胎	0	0	0	0	0	1	4	1	1	2
HELLP症候群	0	1	2	1	3	1	2	0	1	2
胎児形態異常	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0
帝王切開合併症	0	0	2	0	0	5	6	7	7	4
未受診	0	0	2	0	2	1	1	0	5	6
その他	15	14	15	18	17	17	14	12	13	19

※1 入院のみ / ※2 早産期

14 染色体異常 (例、重複あり)

	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
18トリソミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
13トリソミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21トリソミー	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
遺伝子異常	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
その他の染色体・遺伝子異常	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0

1 5 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
骨系統性疾患	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
外表奇形	3	3	3	2	4	1	1	0	4	1	3	3
心血管疾患	0	0	0	0	3	1	4	3	12	6	6	5
消化器疾患	0	0	0	0	0	0	3	2	5	4	5	4
泌尿器・生殖器疾患	2	2	0	0	1	0	1	1	2	2	7	7
神経系疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2
リンパ系疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
胸腔疾患	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2
その他の先天異常	0	0	0	0	0	0	4	3	2	1	2	2

1 6 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

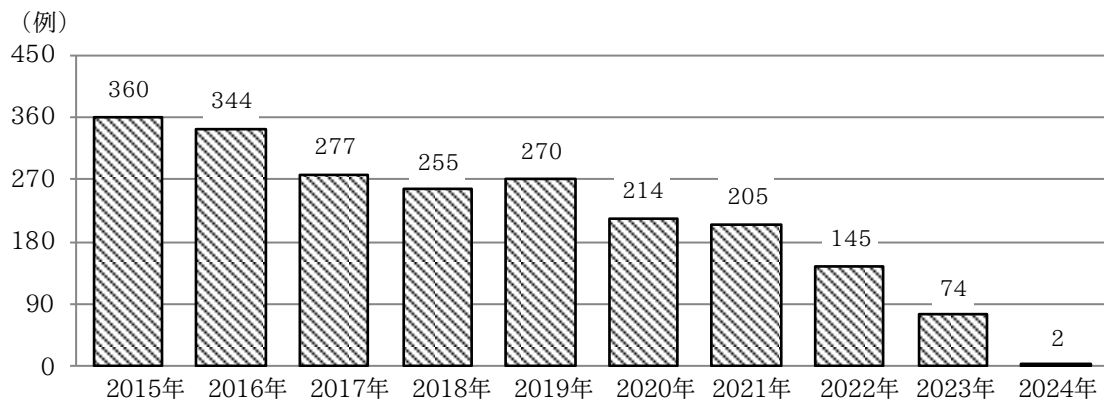
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
院内症例	244	219	186	191	151	185
搬送症例	119	105	88	92	72	51
合計	363	324	274	283	223	236

1 7 MFICU 入院適応（例）

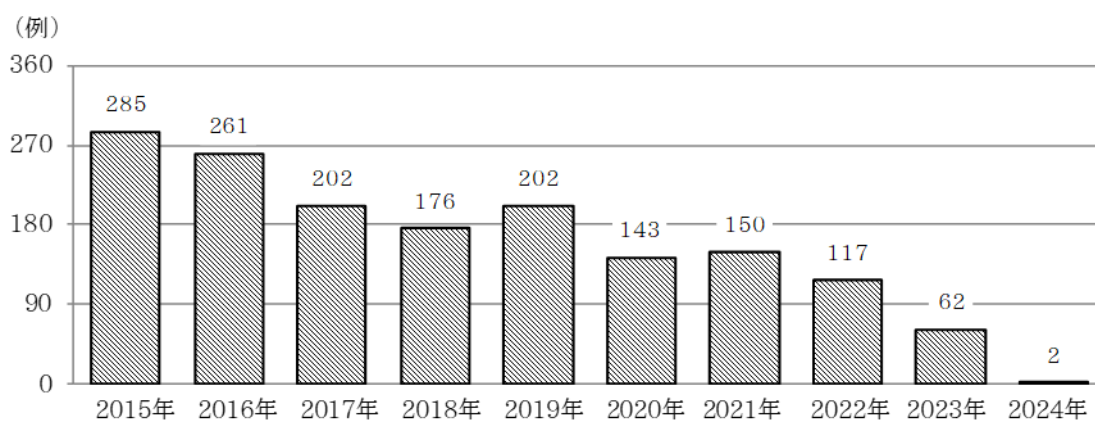
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（入院のみ）	110	57	44	41	33	29
妊娠高血圧症候群	13	31	33	42	32	22
産後出血	12	9	9	12	10	9
常位胎盤早期剥離	3	4	5	2	1	5
胎児発育不全（胎内診断）	5	3	1	2	2	3
前置胎盤	10	12	5	6	3	3
双胎	10	16	9	10	2	3
HELLP症候群	4	1	1	0	1	1
先天異常	7	0	0	0	0	0
肺水腫	0	0	0	2	1	0
合併症妊娠	7	1	4	2	1	0
その他	182	190	163	164	137	161

第3項 近畿大学奈良病院（2024年4月より分娩取扱休止）

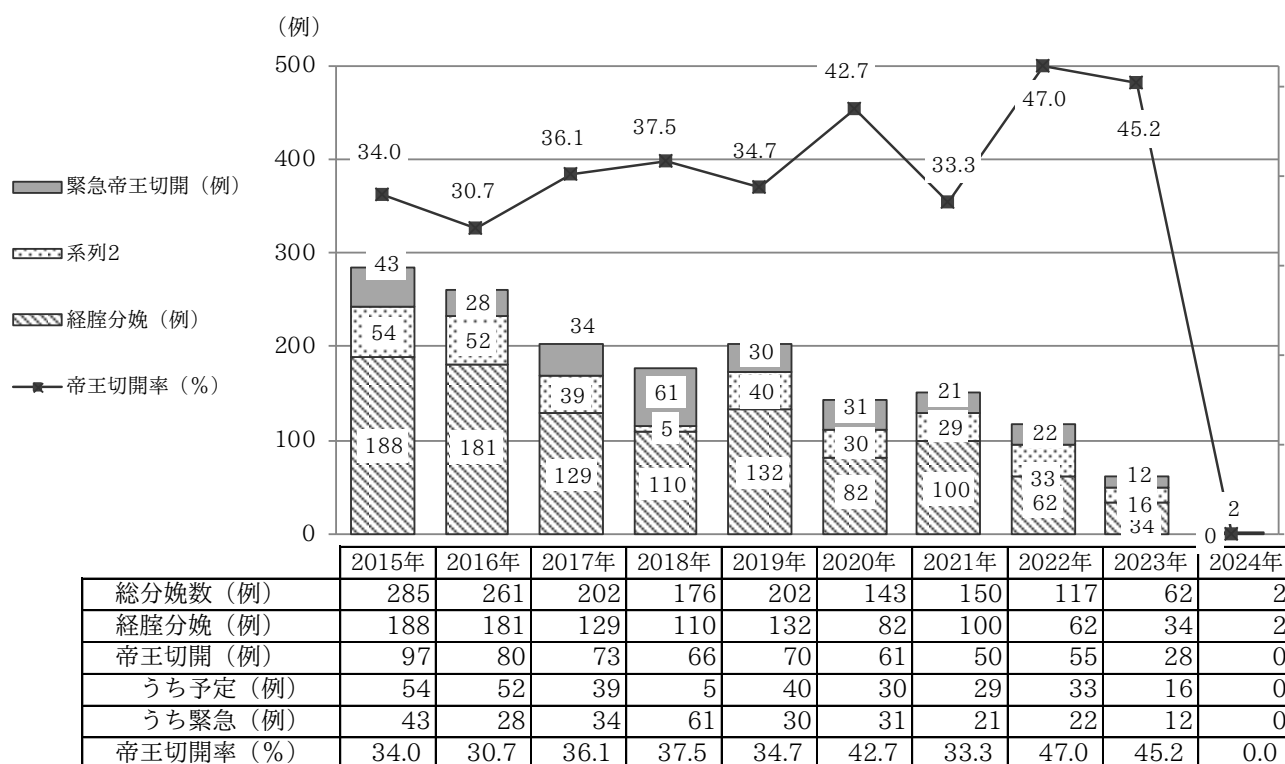
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
30週	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
31週	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
32週	3	0	3	0	0	2	0	0	0	0
33週	1	3	1	6	2	2	2	0	0	0
34週	4	8	5	5	3	2	3	0	0	0
35週	10	4	5	6	4	2	8	4	0	0
36週	15	11	5	9	5	7	3	2	2	0
37週	34	31	24	29	16	27	16	10	3	0
38週	78	70	57	43	69	34	34	36	19	0
39週	65	56	46	36	37	34	36	27	14	1
40週	58	54	41	35	50	28	38	22	16	1
41週	17	21	15	11	15	8	11	16	8	0
42週以上	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,000-1,499g	2	0	0	2	0	1	1	0	0	0
1,500-1,999g	6	6	6	7	5	6	3	2	0	0
2,000-2,499g	31	38	25	24	14	19	20	11	4	2
2,500g以上	246	220	172	149	183	120	128	104	58	0

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	154	152	111	96	117	79	84	60	24	1
35-39歳	98	78	74	68	62	39	43	37	27	1
40-44歳	30	29	16	11	22	22	23	18	11	0
45歳以上	0	2	1	1	1	3	0	2	0	0

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	14	16	11	12	10	14	8	8	3	0
子宮筋腫（核出術後）	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0
付属器異常	13	17	21	14	3	6	3	1	0	1
子宮頸がん（既往含む）	0	0	6	0	2	0	3	0	2	0
子宮形態異常（子宮奇形）	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
甲状腺機能亢進症	1	1	4	2	4	1	1	6	0	0
甲状腺機能低下症	6	8	13	6	16	8	12	2	6	0
糖尿病（含GDM）	12	37	21	27	21	17	16	7	8	0
呼吸器 肺炎・気管支炎	11	12	12	3	11	7	2	1	0	0
慢性腎炎	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
本態性高血圧	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
血液疾患	2	3	2	2	2	0	1	0	0	0
自己免疫疾患	2	0	0	1	1	0	1	0	1	0
循環器疾患 心血管疾患	4	5	6	2	1	1	1	0	1	0
精神科疾患（含てんかん）	0	3	0	2	6	3	5	2	0	0
ウイルス性肝炎（※1）	3	3	0	1	1	1	0	0	1	0
消化器疾患（※2）	11	11	15	1	2	0	1	0	0	0
その他	0	0	0	0	10	8	7	0	0	0

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	18	35	90	25	23	19	21	2	1	0
妊娠高血圧症候群	15	11	9	10	12	9	4	10	2	0
胎児発育不全	9	15	13	10	2	3	4	1	2	0
前置胎盤	4	0	0	4	0	4	1	0	0	0
子癇	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
弛緩出血	0	2	1	3	3	15	23	16	6	0
常位胎盤早期剥離	2	2	4	1	3	1	0	1	0	0
HELLP症候群	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0
低置胎盤	1	3	1	1	1	1	0	3	2	0
血液型不適合	1	11	9	5	5	3	2	0	0	0
羊水過少	0	11	10	0	3	2	3	2	0	0

※1 入院のみ / ※2 早産期

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
産道血腫除去術	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	0	9	5	0	4	3	2	0	3	0

12 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	7	0	3	2	2	0	0
うちMD（※1）	0	0	0	0	0	0	0
うちDD（※2）	7	0	3	2	2	0	0

※1 一絨毛膜二羊膜双胎 / ※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

13 母体搬送収容数（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	8	4	4	1	2	0	1

（※2018年より新規集計）

14 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	5	4	3	0	0	0	0
妊娠高血圧症候群	2	0	0	1	2	0	0
前置胎盤	1	0	0	0	0	0	0
胎児形態異常	1	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	0	0

※1 入院のみ / ※2 早産期 （※2018年より新規集計）

15 染色体異常（例、重複あり）

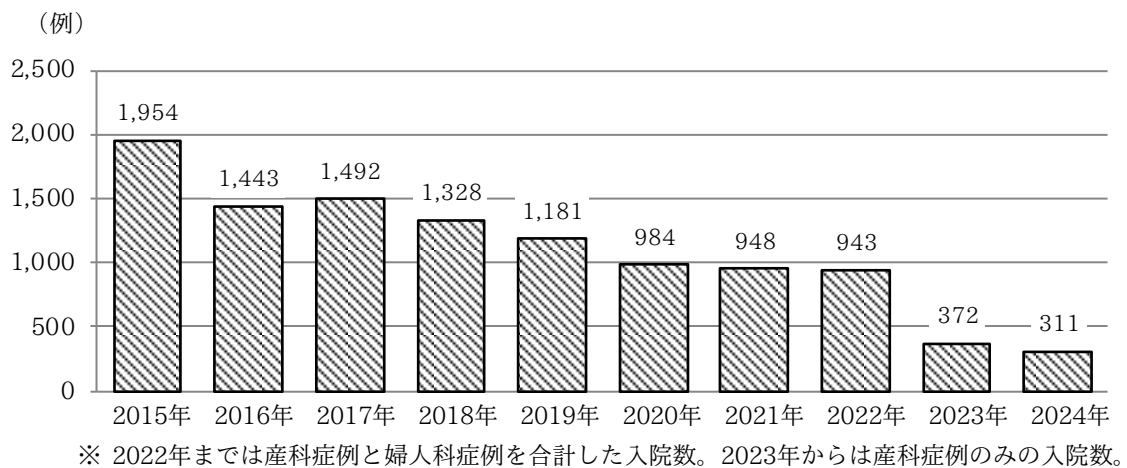
	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
21トリソミー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

16 先天異常（例、重複あり）

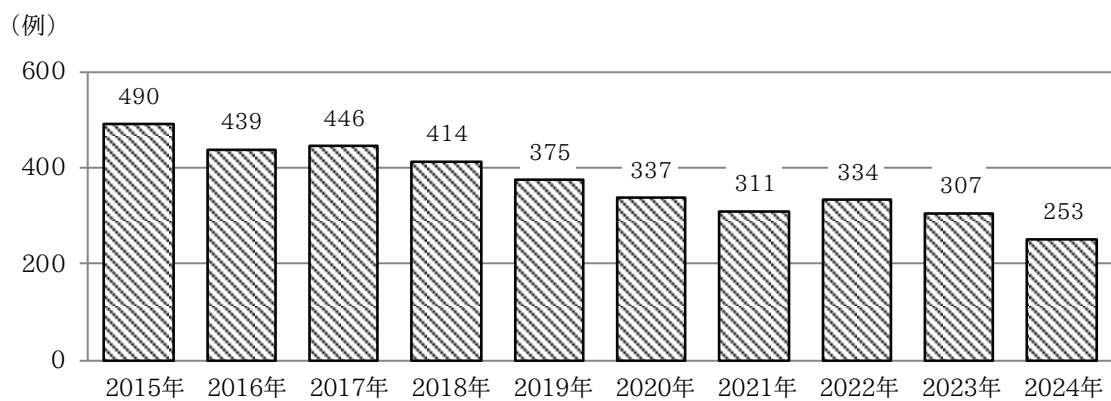
疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
骨系統性疾患	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
心血管疾患	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器疾患	1	1	3	2	4	4	0	0	0	0	0	0
泌尿器・生殖器疾患	3	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
神経系疾患	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第4項 天理よろづ相談所病院

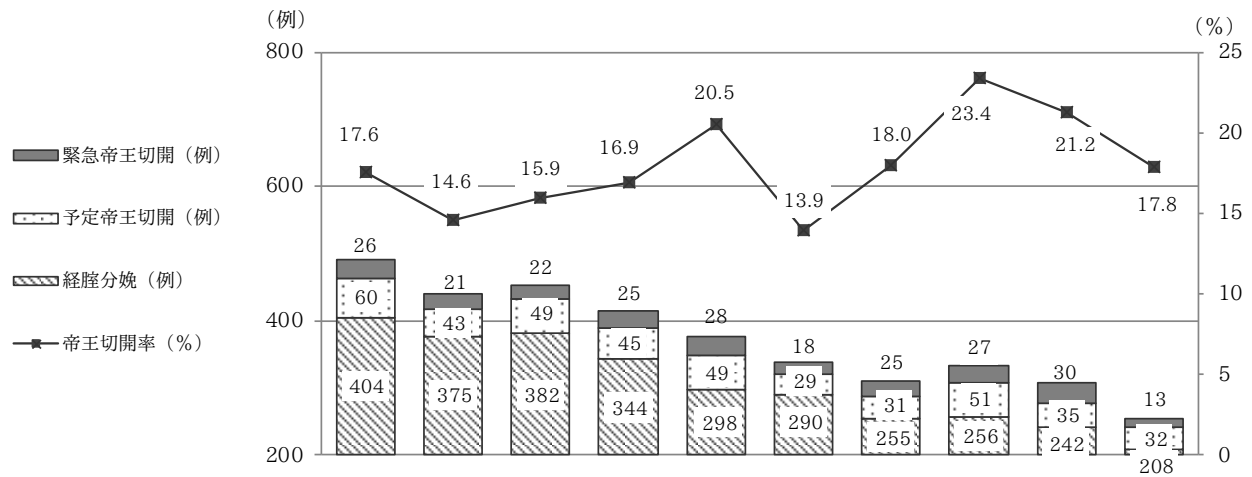
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総分娩数（例）	490	439	446	414	375	337	311	334	307	253
経膣分娩（例）	404	375	382	344	298	290	255	256	242	208
帝王切開（例）	86	64	71	70	77	47	56	78	65	45
うち予定（例）	60	43	49	45	49	29	31	51	35	32
うち緊急（例）	26	21	22	25	28	18	25	27	30	13
帝王切開率（％）	17.6	14.6	15.9	16.9	20.5	13.9	18.0	23.4	21.2	17.8

4 分娩週数（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
34週	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0
35週	7	4	3	3	3	0	3	3	5	6
36週	15	15	14	10	9	6	11	9	6	6
37週	39	29	50	57	44	29	29	33	26	18
38週	138	107	112	107	77	74	75	75	81	69
39週	151	98	140	132	105	103	84	101	84	63
40週	101	135	97	89	113	97	92	81	79	71
41週	28	30	29	15	21	29	19	34	27	21
42週以上	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,000-1,499g	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
1,500-1,999g	2	6	2	1	1	2	1	2	2	3
2,000-2,499g	46	27	33	31	22	24	22	23	23	28
2,500g以上	433	403	411	384	349	313	289	311	284	224

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	345	306	304	295	254	244	204	237	196	186
35-39歳	118	109	114	92	93	83	84	70	90	55
40-44歳	27	17	26	27	25	10	22	27	20	11
45歳以上	-	1	1	-	3	-	1	-	1	1

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	14	15	10	5	12	16	24	15	11	10
子宮筋腫（核出術後）	6	2	2	0	2	4	6	7	6	2
付属器異常	0	10	11	5	7	4	2	6	4	2
子宮頸がん（既往含む）	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮形態異常（子宮奇形）	0	0	4	0	2	1	2	0	1	1
甲状腺機能亢進症	16	11	4	4	2	3	4	2	6	3
甲状腺機能低下症	0	4	4	1	8	7	7	4	10	3
糖尿病（含GDM）	6	33	30	17	32	29	18	26	38	16
呼吸器 肺炎・気管支炎	15	8	4	2	20	27	13	21	8	15
慢性腎炎	0	0	1	0	1	2	1	0	1	1
本態性高血圧	0	0	1	0	2	1	0	2	1	3
血液疾患	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
自己免疫疾患	6	6	7	1	3	2	4	1	2	3
循環器疾患 心血管疾患	2	3	6	3	7	3	4	4	4	2
精神科疾患（含てんかん）	3	7	7	3	8	8	6	3	7	3
ウイルス性肝炎（※1）	0	2	0	0	2	2	0	0	1	0
消化器疾患(※2)	0	0	0	0	2	2	1	0	1	1
その他	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	152	113	93	41	25	17	19	14	7	19
妊娠高血圧症候群	16	14	7	4	8	11	8	12	15	9
胎児発育不全	10	3	4	6	5	5	3	6	1	2
前置胎盤	2	1	4	0	0	1	1	0	1	1
子癇	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
弛緩出血	0	0	44	21	94	61	60	72	72	60
常位胎盤早期剥離	4	1	4	0	0	2	2	2	1	1
HELLP症候群	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0
低置胎盤	1	2	0	2	2	0	0	2	3	2
血液型不適合	0	0	0	0	2	4	3	1	1	2
羊水過少	4	0	1	1	1	4	2	5	1	0

※1 入院のみ / ※2 早産期

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	12	10	2	3	2	3	0	1	0	0
子宮頸管縫縮術 ※治療的										0
産道血腫除去術	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0
子宮動脈塞栓術	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0
子宮摘出術	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	1	2	5	1	1	2	1	3	5	4

1 1 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	2	1	2	2	3	2	2
うちMD（※1）	-	-	-	1	1	1	0
うちDD（※2）	2	1	2	1	2	1	2

※1 ※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

1 2 母体搬送収容数（例）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	4	-	4	4	11

1 3 母体搬送疾患名（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	0	0	1	0	1	0	7
妊娠高血圧症候群	0	0	2	0	2	0	2
胎児発育不全	0	0	0	0	1	0	0
産後出血	0	0	0	0	0	2	0
胎児機能不全	0	0	0	0	0	0	2
常位胎盤早期剥離	0	0	0	0	0	0	0
前置胎盤	0	0	0	0	0	0	0
多胎	0	0	0	0	0	0	0
HELLP症候群	0	0	0	0	0	0	0
胎児形態異常	0	0	0	0	0	0	0
帝王切開合併症	0	0	0	0	0	0	0
未受診	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	2	0

※1 入院のみ / ※2 早産期

1 4 染色体異常（例、重複あり）

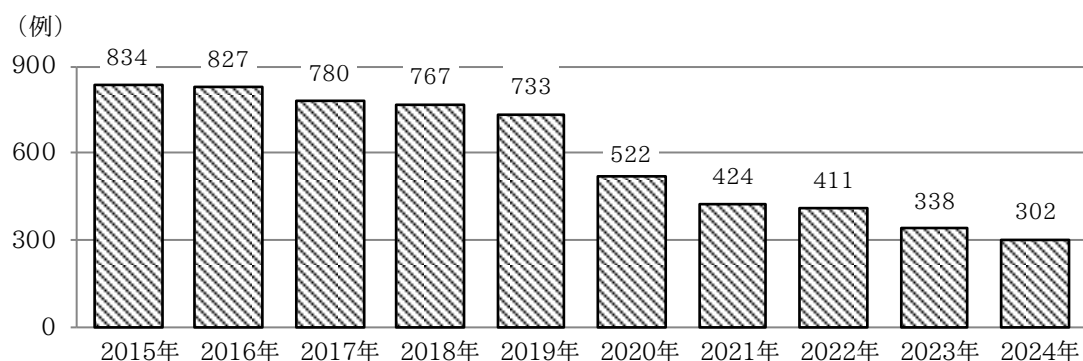
	2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
21トリソミー	0	0	1	0	0	0	0	0

1 5 先天異常（例、重複あり）

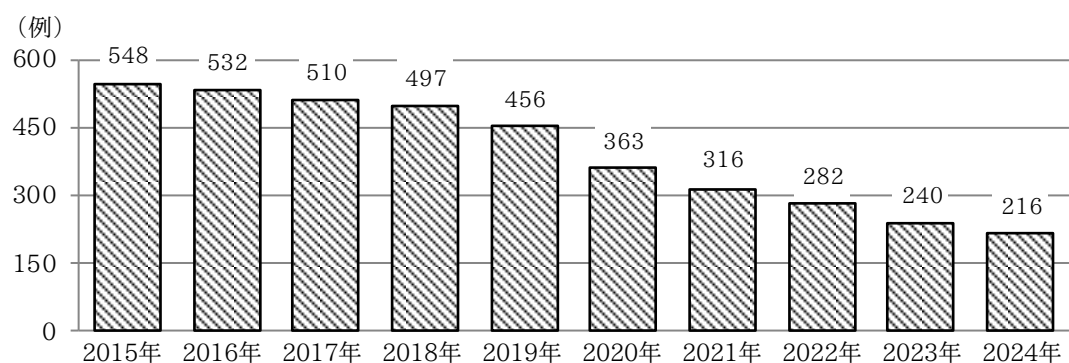
	2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
心血管疾患	1	0	1	1	0	0	0	0
泌尿器・生殖器疾患	1	1	0	0	0	0	0	0

第5項 市立奈良病院

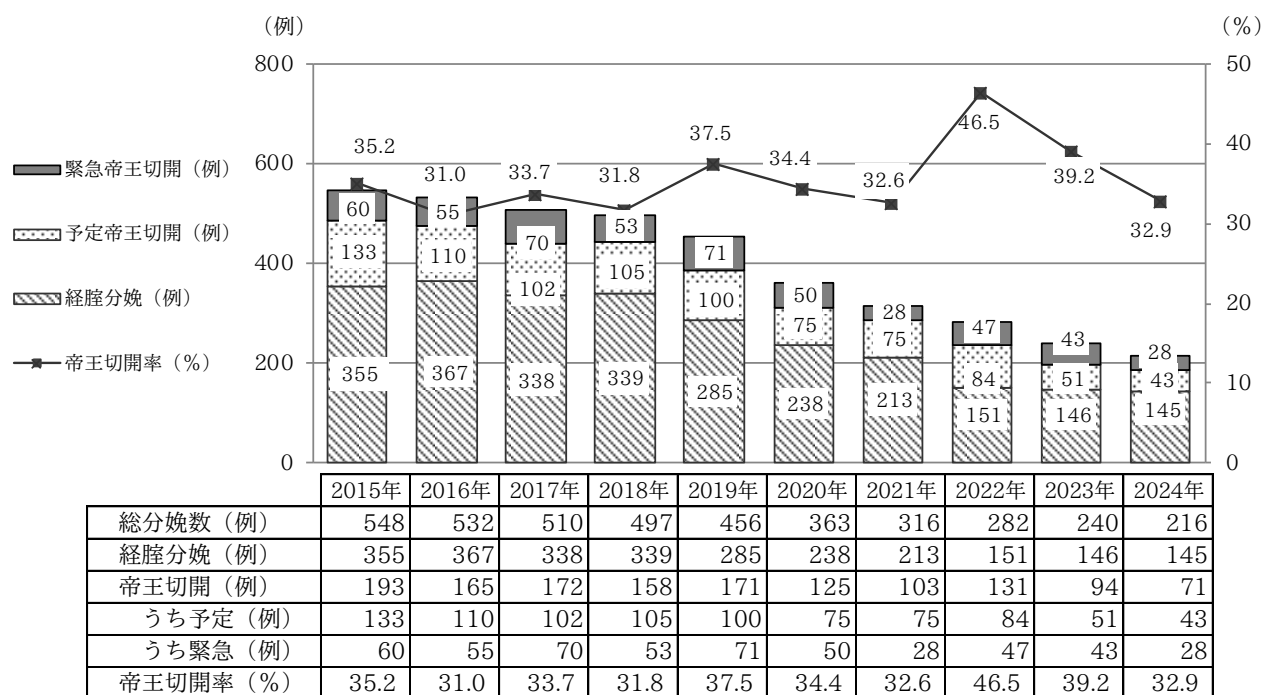
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数（例、死産児除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35週	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0
36週	17	24	18	21	18	14	11	13	13	12
37週	70	65	63	62	52	30	49	60	48	33
38週	157	145	146	129	150	114	101	84	70	66
39週	137	158	124	137	115	106	76	64	41	52
40週	136	115	125	99	100	70	67	52	58	47
41週	30	24	28	42	23	30	12	14	12	7
42週以上	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

5 出生体重（例、死産児除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
5000999g	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1,00001,499g	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1,50001,999g	2	1	1	1	2	0	0	1	3	3
2,00002,499g	34	32	35	33	31	28	22	22	15	19
2,500g以上	511	497	472	456	425	337	294	264	224	195

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	394	395	373	368	321	263	212	181	158	144
35-39歳	121	112	107	100	116	76	79	80	59	54
40-44歳	33	25	28	27	19	22	24	20	23	18
45歳以上	0	0	2	2	0	2	1	1	0	0

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	20	23	26	14	25	14	9	17	11	8
子宮筋腫（核出術後）	2	0	0	0	1	1	5	8	3	2
付属器異常	11	11	6	11	8	8	3	7	2	2
子宮頸がん（既往含む）	8	0	2	3	10	10	8	13	7	6
子宮形態異常（子宮奇形）	2	4	1	5	3	0	1	0	1	3
甲状腺機能亢進症	5	4	3	5	5	5	5	0	1	4
甲状腺機能低下症	7	9	10	8	13	8	3	6	3	2
糖尿病（含GDM）	19	16	30	17	17	13	15	13	8	4
呼吸器 肺炎・気管支炎	11	23	9	15	14	18	13	5	2	12
慢性腎炎	1	6	0	2	1	1	2	0	0	0
本態性高血圧	3	1	3	1	1	0	1	2	2	0
自己免疫疾患	2	3	1	2	1	1	1	2	0	1
循環器疾患 心血管疾患	2	3	2	2	6	1	3	4	1	2
精神科疾患（含てんかん）	6	2	11	8	6	5	6	7	4	10
ウイルス性肝炎（※1）	1	3	0	1	1	1	3	1	1	1
消化器疾患(※2)	3	4	0	5	7	2	3	1	2	1
その他	0	4	0	0	40	18	7	20	10	0

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	61	205	201	272	231	109	44	44	34	34
妊娠高血圧症候群	16	9	9	18	27	12	13	9	14	6
胎児発育不全	19	24	35	28	27	11	2	17	2	3
前置胎盤	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
子癇	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
弛緩出血	0	10	10	33	14	13	49	38	39	40
常位胎盤早期剥離	1	0	2	1	5	2	2	1	1	0
HELLP症候群	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0
低置胎盤	3	1	0	0	1	2	2	1	2	0
血液型不適合	6	11	4	3	3	1	2	1	1	1
羊水過少	6	6	1	3	8	4	4	2	2	2

※1 入院のみ / ※2 早産期

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	6	14	5	5	4	8	3	7	6	6
子宮頸管縫縮術 ※治療的										0
産道血腫除去術	1	0	0	2	2	2	1	2	2	2
子宮動脈塞栓術	2	0	3	0	0	2	1	0	1	0
子宮摘出術	1	0	1	2	5	1	1	2	2	0
胎児胸腹水穿刺	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	3	1	3	2	4	2	1	0	1	0

11 多胎妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	1	3	2	2	2	2	1	7	2	3
うちMD（※1）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うちDD（※2）	1	3	2	2	2	2	1	7	2	2
うち不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

12 母体搬送収容数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

13 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
妊娠高血圧症候群	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1 4 染色体異常（例、重複あり）

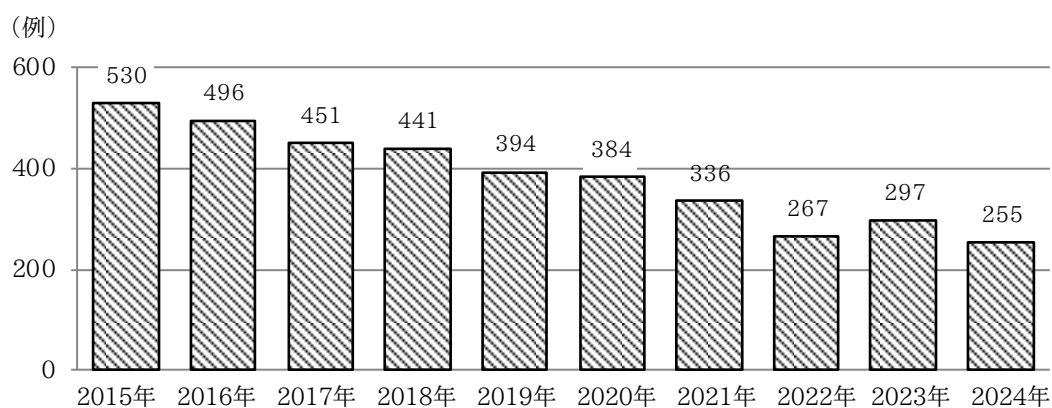
	2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
21トリソミー	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
その他の染色体・遺伝子異常	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1

1 5 先天異常（例、重複あり）

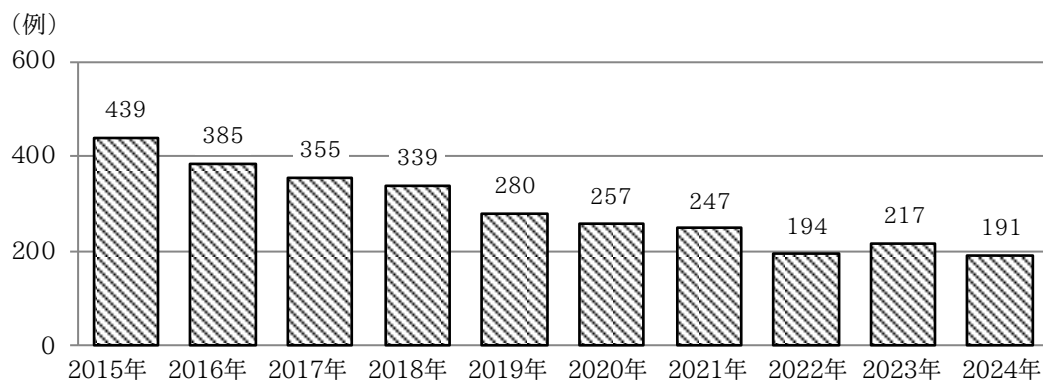
	2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
外表奇形	1	0	0	0	2	0	2	0	2	0
心血管疾患	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0
神経系疾患	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
胸腔疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0

第6項 大和郡山病院

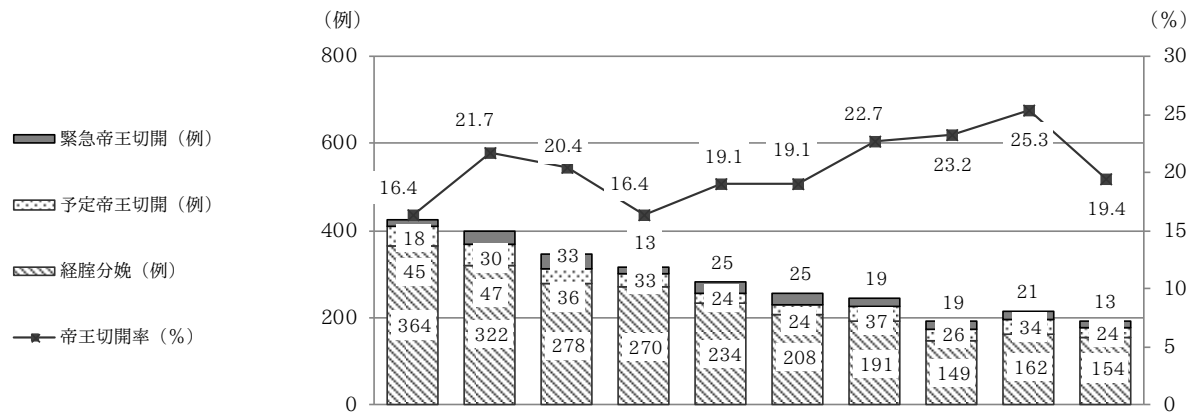
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総分娩数（例）	439	385	355	339	280	257	247	194	217	191
経膣分娩（例）	364	322	278	270	234	208	191	149	162	154
帝王切開（例）	73	63	77	69	46	49	56	45	55	37
うち予定（例）	44	45	47	36	33	24	37	26	34	24
うち緊急（例）	29	18	30	33	13	25	19	19	21	13
帝王切開率（％）	16.6	16.4	21.7	20.4	16.4	19.1	22.7	23.2	25.3	19.4

4 分娩週数（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35週	3	2	3	3	1	1	2	0	0	1
36週	3	6	9	5	4	6	5	5	7	6
37週	44	42	33	38	25	28	20	20	17	21
38週	88	81	90	73	65	56	62	39	47	40
39週	131	125	102	113	82	71	63	61	50	58
40週	117	97	99	79	83	78	79	54	73	51
41週	39	28	16	27	17	17	15	14	21	12
42週以上	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,500-1,999g	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0
2,000-2,499g	22	27	21	20	8	14	11	16	13	17
2,500g以上	402	356	330	317	269	242	234	177	201	172

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	308	292	241	249	202	189	174	138	142	149
35-39歳	98	74	94	79	64	53	59	48	59	36
40-44歳	23	19	17	10	14	14	14	8	16	6
45歳以上	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	2	2	4	12	2	2	2	1	2	2
子宮筋腫（核出術後）	6	0	1	3	0	2	1	1	0	0
付属器異常	0	0	0	0	2	0	0	3	2	0
子宮形態異常（子宮奇形）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
甲状腺機能亢進症	0	2	0	1	0	3	2	0	0	1
甲状腺機能低下症	1	1	3	1	3	2	3	3	5	0
糖尿病（含GDM）	1	2	2	3	4	7	9	9	4	5
呼吸器 肺炎・気管支炎	2	3	2	5	1	2	1	1	0	0
慢性腎炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本態性高血圧	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
血液疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己免疫疾患	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
循環器疾患 心血管疾患	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科疾患（含てんかん）	0	2	2	1	0	1	1	0	2	1
ウイルス性肝炎（※1）	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
消化器疾患（※2）	3	4	4	10	1	3	2	0	1	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	99	107	93	76	38	23	21	11	30	21
妊娠高血圧症候群	11	15	18	15	17	8	11	9	2	7
胎児発育不全	3	4	6	3	3	2	3	0	1	0
前置胎盤	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0
子癇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弛緩出血	0	70	56	45	10	23	12	11	9	14
常位胎盤早期剥離	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0
HELLP症候群	1	0	5	1	1	6	0	0	0	0
低置胎盤	1	1	0	1	1	0	2	4	1	1
血液型不適合	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0
羊水過少	0	0	0	0	4	1	4	0	0	0

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	3	5	3	1	0	2	1	1	0	1
子宮頸管縫縮術 ※治療的										0
産道血腫除去術	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	0	2	0	3	2	2	1	2	0	0

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	2	1	0	0	0	0	0
うちMD（※1）	1	0	0	0	0	0	0
うちDD（※2）	1	1	0	0	0	0	0

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

1 2 染色体異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
21トリソミー	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0

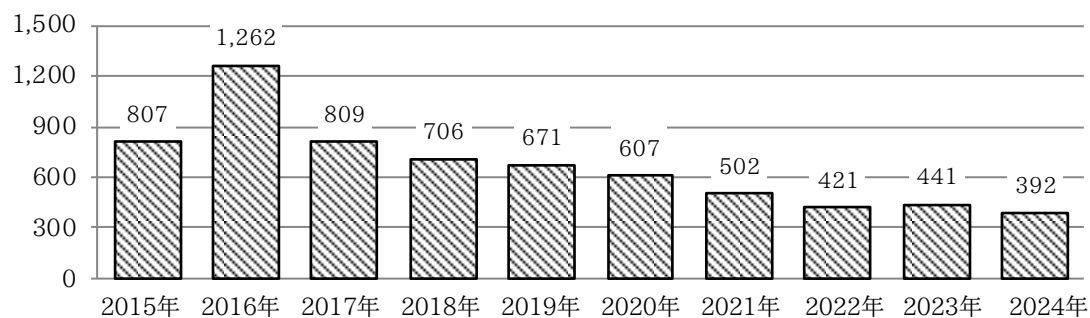
1 3 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
外表奇形	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
心血管疾患	0	0	0	0	2	0	1	0	6	0	3	0	2	0
泌尿器・生殖器疾患	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0
胸腔疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

第7項 大和高田市立病院

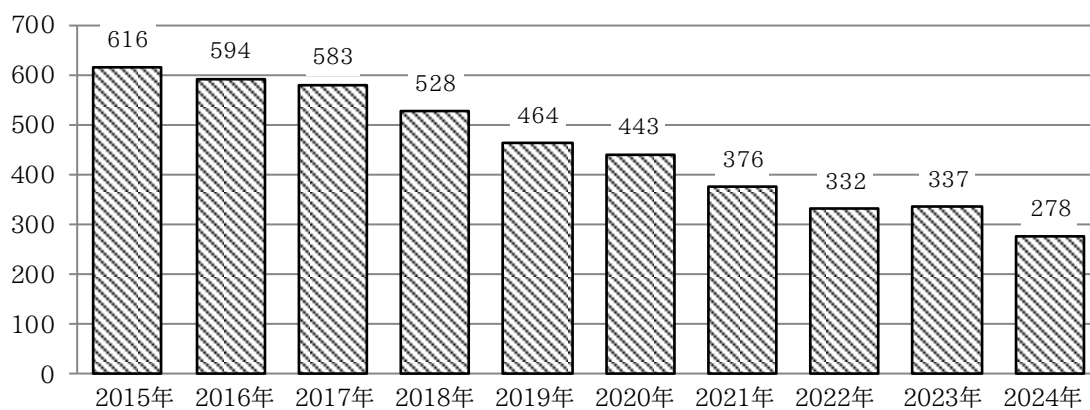
1 入院数

（例）

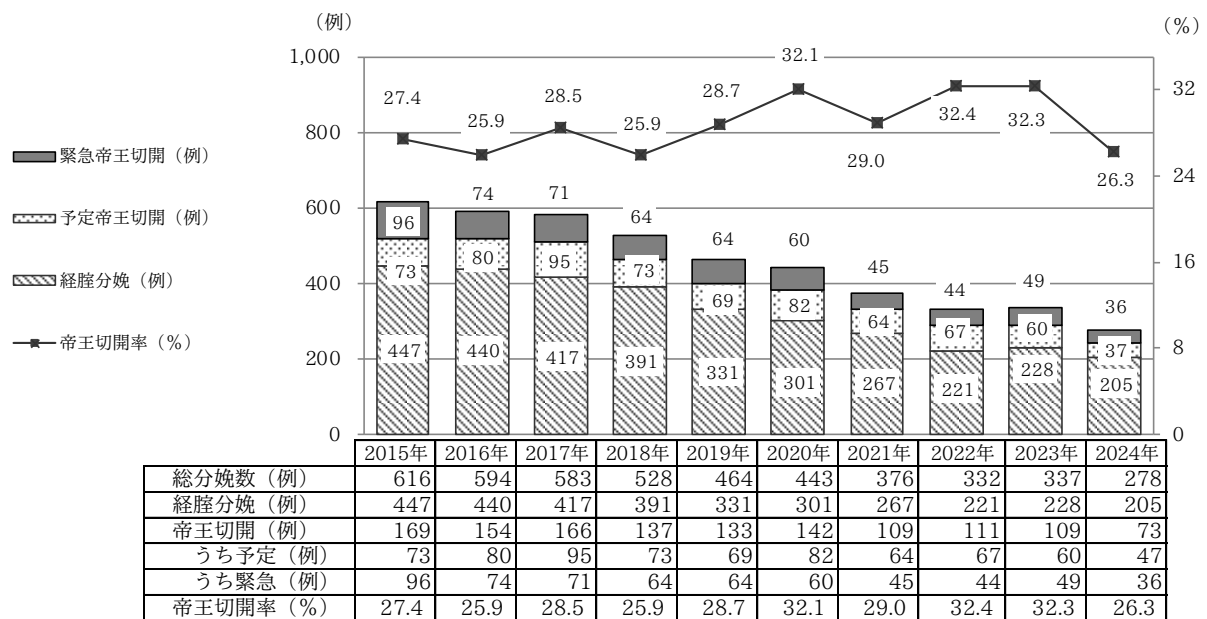


2 分娩数

（例）



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
28週	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
29週	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
30週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34週	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
35週	2	5	3	0	2	3	2	7	5	3
36週	14	17	15	21	22	12	9	15	13	7
37週	61	56	70	53	45	59	57	48	49	40
38週	138	134	136	115	115	100	84	79	83	66
39週	172	180	174	156	135	120	102	84	82	88
40週	193	167	155	143	115	126	108	83	93	67
41週	30	35	30	40	29	21	13	16	13	10
42週以上	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500-999g	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
1,000-1,499g	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
1,500-1,999g	0	1	0	1	1	2	4	4	2	1
2,000-2,499g	51	34	40	35	33	26	26	26	20	26
2,500g以上	563	559	545	492	430	413	346	302	316	254

6 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	475	471	430	400	362	344	267	249	249	206
35-39歳	116	99	120	103	84	78	87	67	68	54
40-44歳	24	22	33	25	18	20	21	14	19	17
45歳以上	1	2	0	0	0	1	1	2	1	1

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	4	8	7	0	1	1	2	0	5	5
子宮筋腫（核出術後）	0	4	3	0	1	3	2	0	1	1
付属器異常	8	3	5	6	36	3	3	5	4	3
子宮頸がん（既往含む）	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0
子宮形態異常（子宮奇形）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺機能亢進症	0	5	1	2	1	2	1	1	1	2
甲状腺機能低下症	0	4	5	0	0	1	1	0	3	3
糖尿病（含GDM）	9	10	7	10	14	9	7	5	11	13
呼吸器 肺炎・気管支炎	2	3	3	0	0	1	2	0	8	3
慢性腎炎	0	0	2	0	1	0	2	2	0	1
本態性高血圧	0	0	0	0	17	2	0	2	2	0
血液疾患	0	0	0	0	1	1	0	0	0	91
自己免疫疾患	0	2	3	1	3	6	0	0	3	0
循環器疾患 心血管疾患	2	2	2	5	0	7	2	0	7	2
精神科疾患（含てんかん）	0	2	1	1	2	0	0	1	1	8
ウイルス性肝炎（※1）	2	2	0	0	0	0	0	1	0	2
消化器疾患(※2)	1	4	5	4	40	3	5	7	4	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	65	76	103	98	12	6	7	46	7	23
妊娠高血圧症候群	21	7	22	19	21	22	31	16	21	13
胎児発育不全	8	1	1	3	8	5	1	0	2	3
前置胎盤	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0
子癇	0	0	0	3	2	4	7	1	0	2
弛緩出血	0	0	0	3	1	111	97	57	37	41
常位胎盤早期剥離	3	2	1	4	1	2	1	1	1	1
HELLP症候群	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
低置胎盤	2	0	0	0	1	0	2	1	0	0
血液型不適合	0	4	3	1	0	0	0	0	2	4
羊水過少	1	0	0	0	1	3	1	5	7	4

※1 入院のみ / ※2 早産期

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
産道血腫除去術	2	0	2	0	0	1	1	4	0	2
子宮摘出術	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	4	1	5	2	6	1	1	4	3	3

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	1	0	0	1	5	2	3
うちMD（※1）	0	0	0	0	1	0	0
うちDD（※2）	1	0	0	1	4	2	3

※1 一絨毛膜二羊膜双胎 / ※2 二絨毛膜二羊膜双胎

1 2 母体搬送収容数（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	0	1	1	0	0	1	3

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	0	1	1	0	0	0	0
産後出血	0	0	0	0	0	1	0
その他	0	0	0	0	0	0	3

※1 入院のみ / ※2 早産期

1 4 染色体異常（例、重複あり）

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
21トリソミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

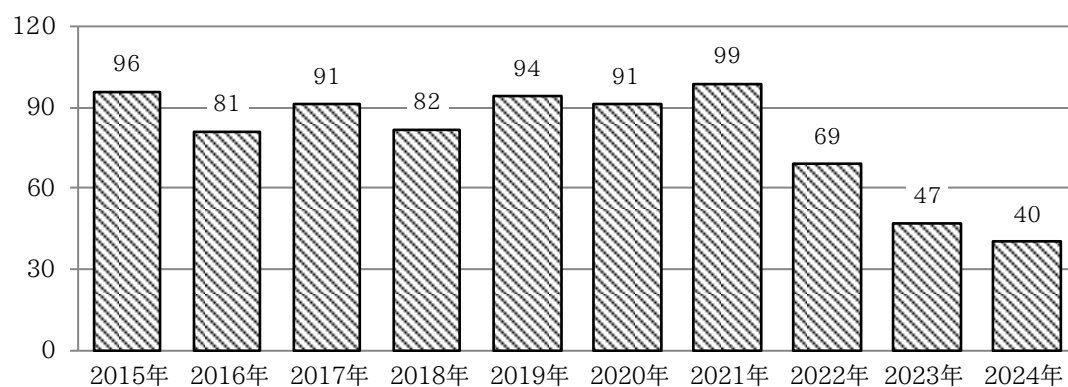
1 5 先天異常（例、重複あり）

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
外表奇形	6	0	1	1	2	1	2	1	0	0	2	0	3	1
心血管疾患	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	9	0
泌尿器・生殖器疾患	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
神経系疾患	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

第8項 高井病院 （2023年10月から12月まで分娩取扱休止）

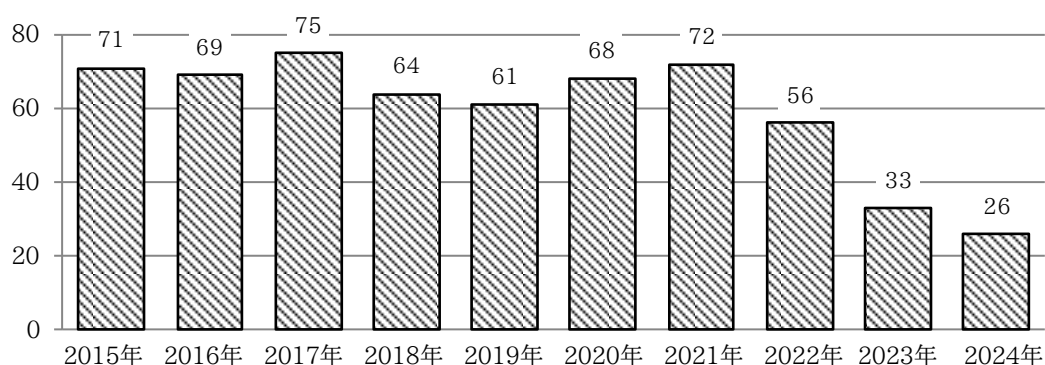
1 入院数

（例）

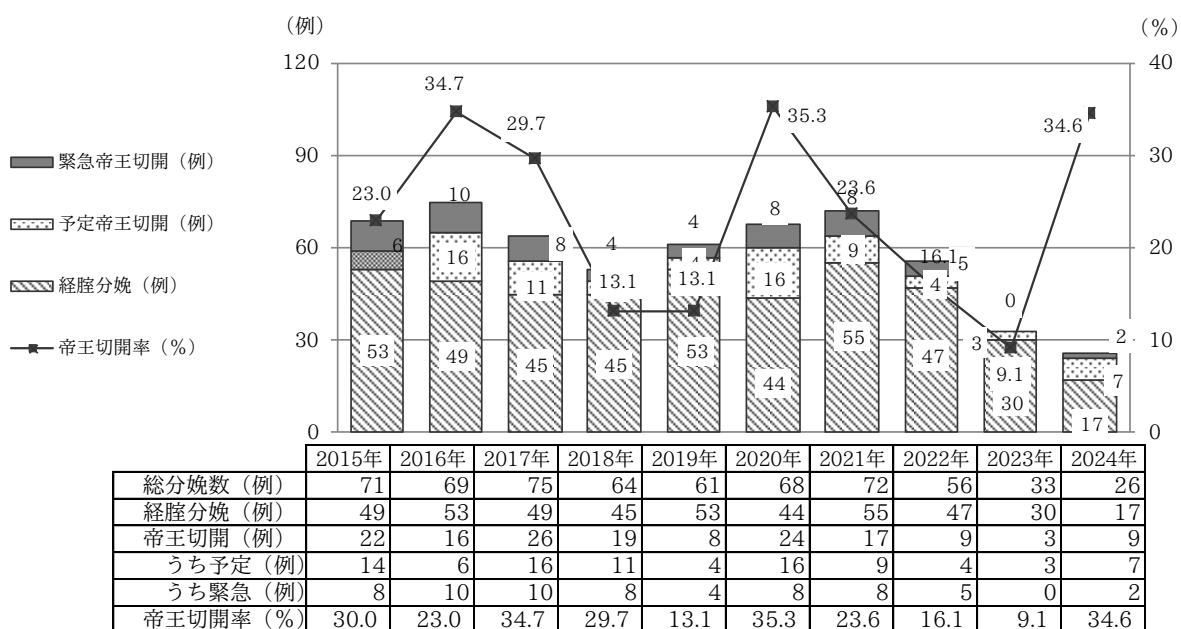


2 分娩数

(例)



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
31週	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
32週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35週	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0
36週	0	2	2	1	0	2	0	2	2	0
37週	1	12	5	11	12	4	6	12	6	1
38週	7	13	12	14	22	15	23	17	8	9
39週	1	16	19	24	9	15	19	16	22	7
40週	3	21	20	18	14	18	13	20	11	6
41週	2	5	11	4	5	7	7	5	7	3

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,500-1,999g	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
2,000-2,499g	7	4	7	5	3	0	7	1	1	2
2,500g以上	63	65	67	59	58	67	65	55	32	24

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	59	55	59	50	52	52	54	42	27	20
35-39歳	11	12	14	12	8	13	18	13	5	4
40-44歳	1	2	2	2	1	3	0	1	1	2

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	0	0	3	0	2	1	0	1	0	0
子宮筋腫（核出術後）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
卵巣嚢腫（腫瘍）	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0
子宮頸癌（含円錐切除後）	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
子宮形態異常	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1
甲状腺機能低下症	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
糖尿病（含GDM）	0	0	0	0	2	2	2	2	0	0
ウイルス性肝炎（※1）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	7	10	9	5	11	4	6	6	0	3
妊娠高血圧症候群	1	3	4	2	0	0	1	0	0	0
胎児発育不全	1	1	2	0	0	1	2	0	0	0
弛緩出血	0	0	0	0	11	10	8	7	3	0
常位胎盤早期剥離	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
低置胎盤	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
血液型不適合	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0

※1 入院のみ / ※2 早産期

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮摘出術	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

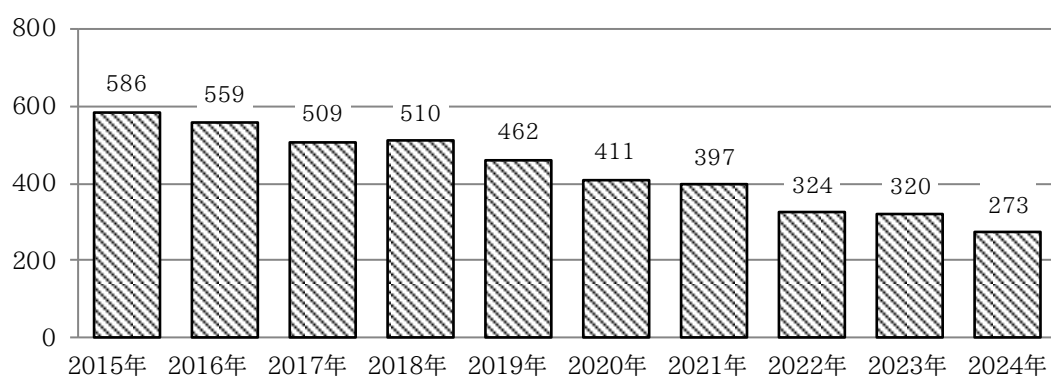
11 先天異常（例、重複あり）

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数
外表奇形	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第9項 桜井病院

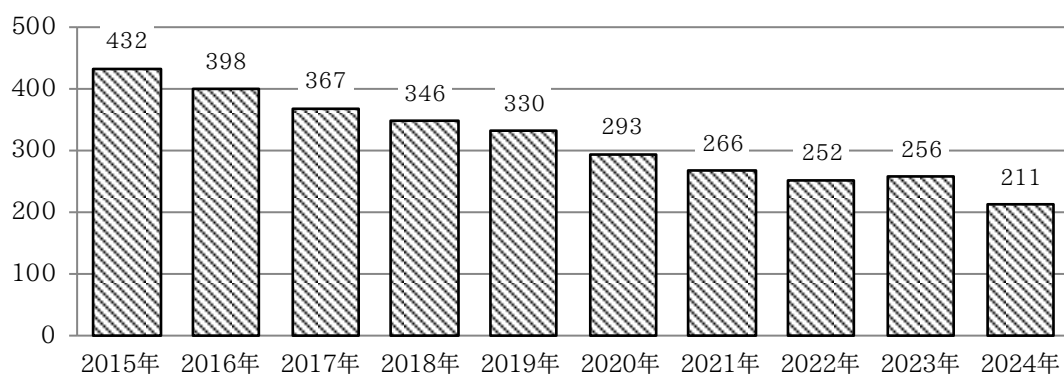
1 入院数

(例)

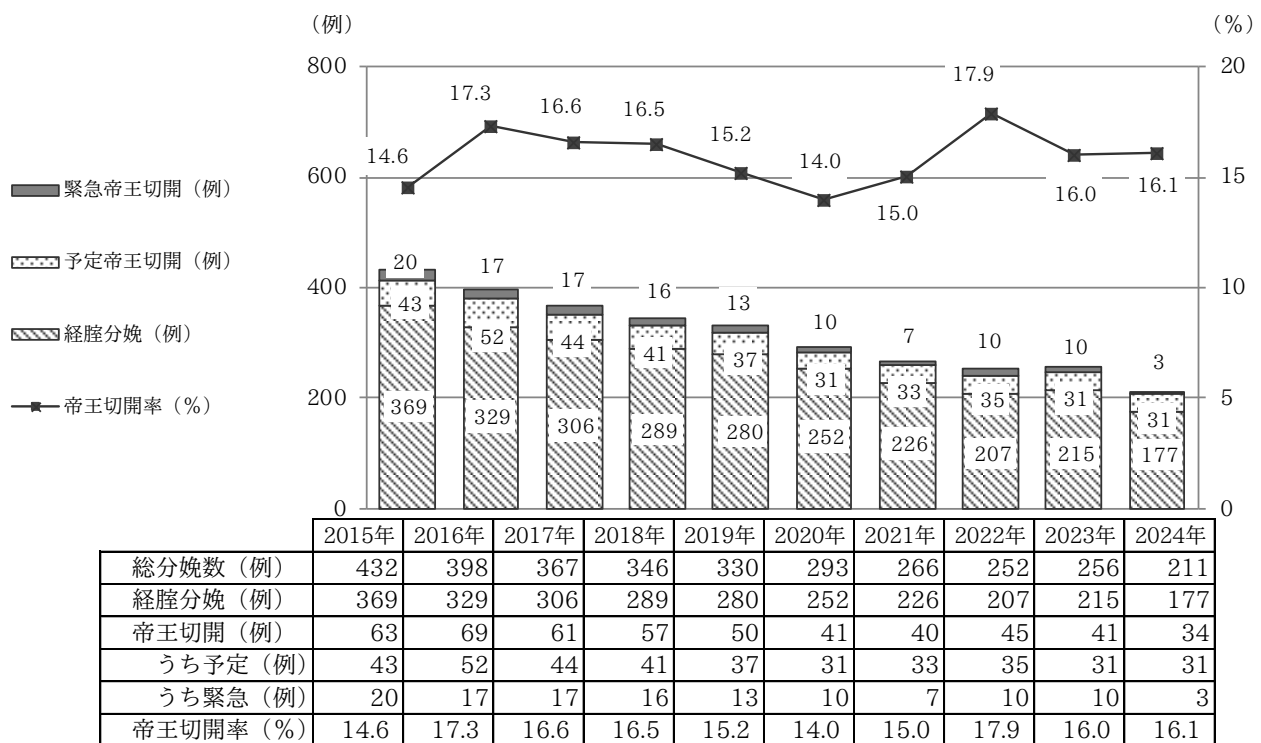


2 分娩数

(例)



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
34週	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
36週	5	4	5	3	4	2	2	6	6	36
37週	62	80	63	54	60	50	37	36	24	30
38週	74	65	66	46	65	40	51	51	44	56
39週	145	129	113	116	83	77	67	79	76	64
40週	102	88	89	95	87	91	74	65	79	19
41週	42	30	31	31	31	33	34	15	27	0
42週以上	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,500-1,999g	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
2,000-2,499g	17	23	13	19	28	17	21	20	18	11
2,500g以上	415	373	354	327	301	276	245	232	238	200

6 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	344	304	278	266	256	240	210	183	204	169
35-39歳	78	83	78	66	61	49	47	51	47	34
40-44歳	10	9	11	14	13	4	9	18	5	8
45歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	10	4	5	6	9	9	11	16	4	13
子宮筋腫（核出術後）	1	0	2	2	2	0	0	2	1	0
付属器異常	6	10	1	8	4	5	4	5	6	5
子宮頸がん（既往含む）	2	1	0	1	1	0	0	4	1	1
子宮形態異常（子宮奇形）	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0
甲状腺機能亢進症	4	0	3	2	5	4	1	2	3	0
甲状腺機能低下症	7	10	12	16	6	10	9	7	9	8
糖尿病（含GDM）	3	4	5	4	5	8	4	2	0	4
呼吸器 肺炎・気管支炎	0	1	2	3	8	4	4	6	5	5
慢性腎炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本態性高血圧	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
血液疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己免疫疾患	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
循環器疾患 心血管疾患	0	0	0	3	1	5	2	2	1	0
精神科疾患（含てんかん）	0	4	2	1	0	3	1	4	2	6
ウイルス性肝炎（※1）	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0
消化器疾患(※2)	0	2	1	1	1	0	1	1	1	1
その他	0	4	5	0	10	9	4	5	6	0

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	3	5	4	1	67	57	63	30	29	29
妊娠高血圧症候群	3	1	5	8	3	4	1	3	1	1
胎児発育不全	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0
弛緩出血	0	4	4	6	0	4	6	8	7	0
常位胎盤早期剥離	5	1	2	1	0	1	0	0	1	1
HELLP症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
低置胎盤	4	1	2	1	0	2	7	1	4	2
血液型不適合	6	3	2	3	3	5	2	3	1	1
その他	0	0	1	6	3	4	0	0	1	0

※1 入院のみ / ※2 早産期

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	1	0	0	2	1	0	0	2	0	0
子宮頸管縫縮術 ※治療的										
その他	0	0	0	2	1	0	0	1	3	0

1 1 染色体異常（例、重複あり）

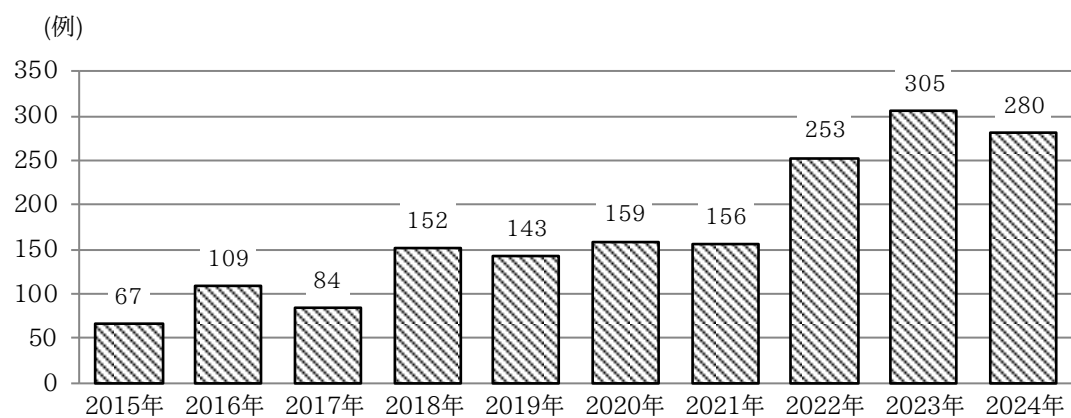
	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
21トリソミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0

1 2 先天異常（例、重複あり）

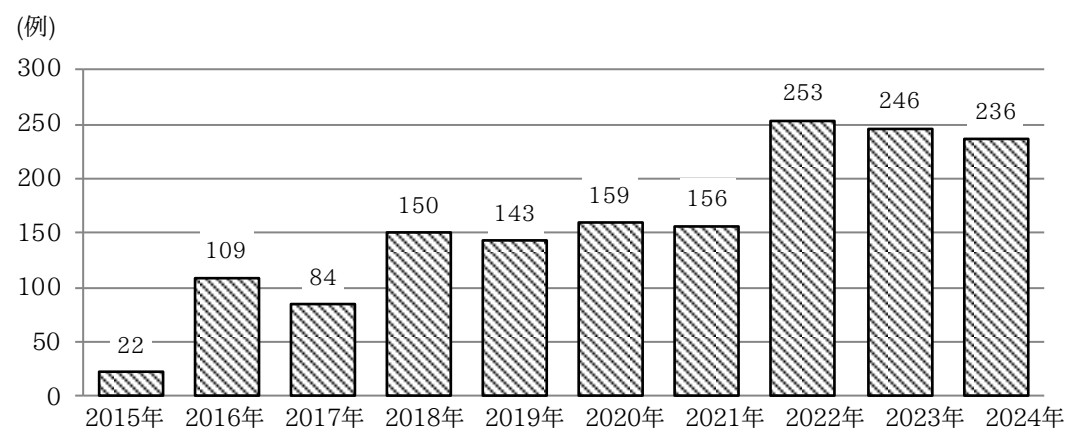
	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
骨系統性疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
外表奇形	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0
心血管疾患	0	0	3	2	2	1	0	0	1	1	1	0	0	0
消化器疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器・生殖器疾患	8	8	2	2	1	2	1	1	0	3	0	0	0	0
その他の先天異常	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

第10項 生駒市立病院

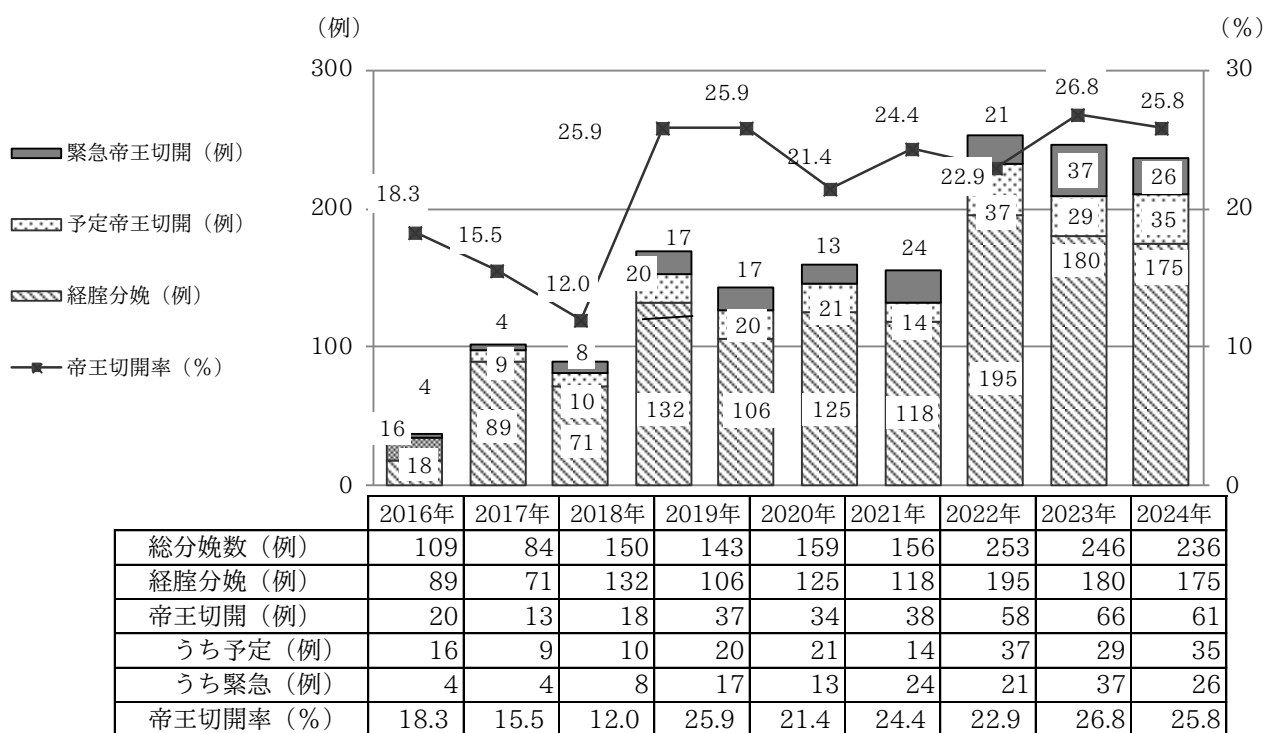
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
34週	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
35週	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
36週	0	1	0	11	1	1	0	4	8	2
37週	0	6	8	8	14	12	7	13	14	15
38週	9	31	14	30	28	32	39	69	53	58
39週	8	28	30	42	35	52	40	75	84	87
40週	4	33	26	47	55	52	53	74	67	54
41週	1	10	6	11	9	11	15	15	19	20
42週以上	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,500-1,999g	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1
2,000-2,499g	1	3	2	13	12	8	6	8	14	8
2,500g以上	21	106	81	136	131	152	149	244	231	227

6 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	15	67	50	101	131	113	103	182	159	156
35-39歳	4	35	23	39	10	35	39	52	69	63
40-44歳	3	7	10	10	2	11	13	19	17	16
45歳以上	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	0	1	0	7	2	4	1	2	3	3
子宮筋腫（核出術後）	0	2	2	2	4	1	3	1	3	2
付属器異常	0	0	1	0	0	3	3	1	0	0
子宮頸がん（既往含む）	0	0	0	1	0	9	2	0	0	2
子宮形態異常（子宮奇形）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
甲状腺機能亢進症	0	0	1	1	0	0	0	1	2	0
甲状腺機能低下症	0	0	0	1	1	5	3	0	0	2
糖尿病（含GDM）	0	1	3	4	7	12	6	14	16	13
呼吸器 肺炎・気管支炎	0	0	3	2	2	3	5	2	2	2
慢性腎炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本態性高血圧	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
血液疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
自己免疫疾患	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
循環器疾患 心血管疾患	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
精神科疾患（含てんかん）	0	0	1	0	0	2	1	2	2	1
ウイルス性肝炎（※1）	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
消化器疾患(※2)	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0
その他	0	0	2	1	1	1	0	0	0	2

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	1	3	2	2	0	0	1	0	0	2
妊娠高血圧症候群	1	2	3	4	4	19	7	3	2	4
胎児発育不全	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
前置胎盤	1	1	1	0	2	2	1	0	0	0
弛緩出血	0	0	0	1	7	5	5	5	0	0
常位胎盤早期剥離	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
HELLP症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
低置胎盤	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
血液型不適合	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1
羊水過少	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	14

※1 入院のみ / ※2 早産期

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
子宮頸管縫縮術 ※治療的										0
子宮摘出術	7	3	11	6	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	31	32	2	0	1	0	0	0

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	0	0	2	0	3	1	2	0	0	0

1 1 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双子	0	1	1	0	0	0	0
うちMD（※1）	0	0	0	0	0	0	0
うちDD（※2）	0	1	1	0	0	0	0
うち不明	0	0	0	0	0	0	0

※1 一絨毛膜二羊膜双子／※2 二絨毛膜二羊膜双子

1 2 母体搬送収容数（例）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
母体搬送収容数	1	0	0	0	1

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（入院のみ）・ 前期破水（早産期）	1	0	0	0	1

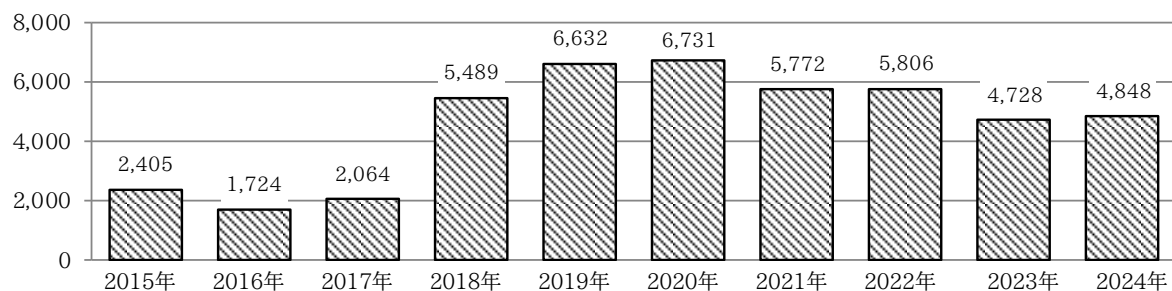
1 4 先天異常（例、重複あり）

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数	症例数	うち 胎内診断数
外表奇形	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第 1 1 項 県内分娩取扱診療所

1 入院数

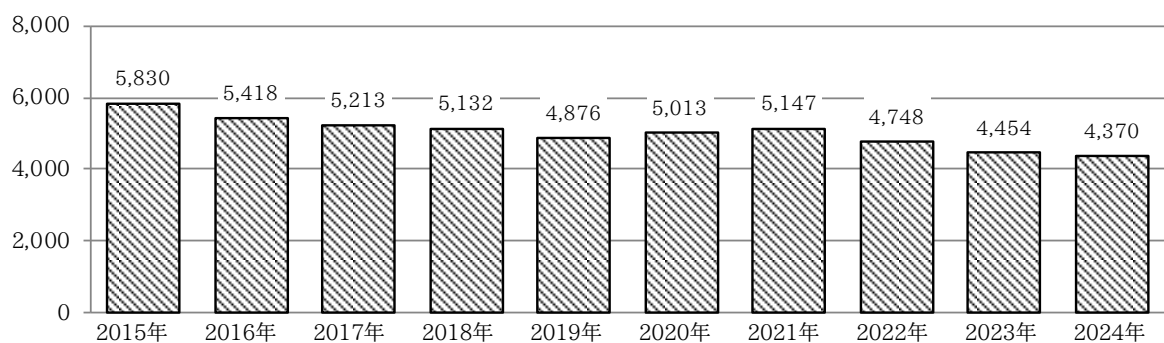
(例)



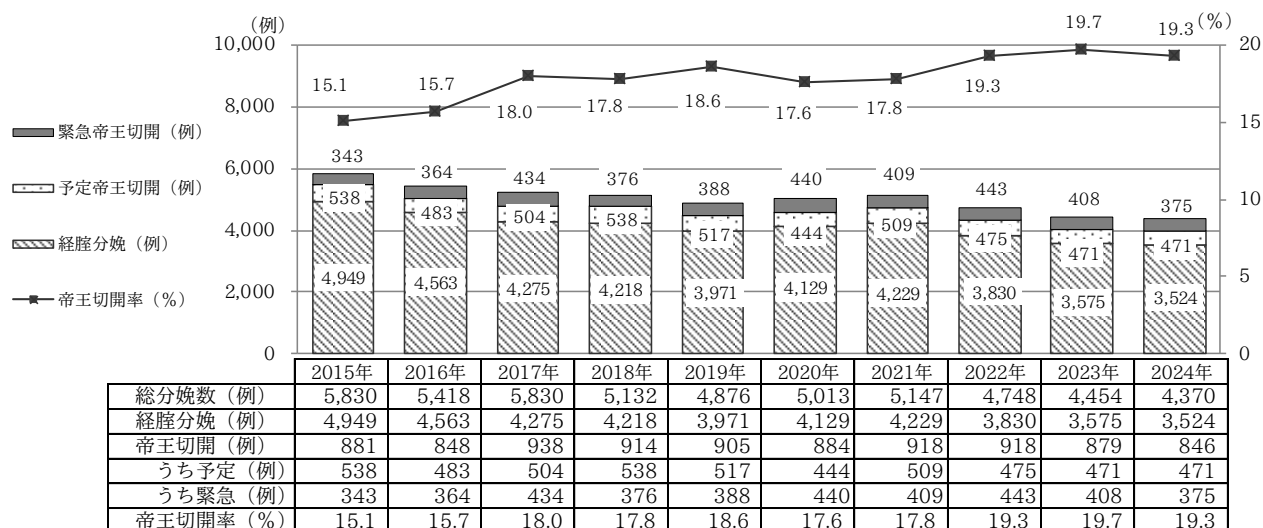
(※2015年～2017年 一部医療機関未回答)

2 分娩数

(例)



3 分娩様式



4 分娩週数（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
22週未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
22週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27週	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
28週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29週	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
30週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31週	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
32週	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
33週	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
34週	0	0	0	3	1	1	0	1	1	1
35週未満	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
35週	15	14	12	11	9	16	26	12	6	7
36週	98	89	94	91	94	77	124	86	64	79
37週	458	438	414	401	323	412	407	395	361	337
38週	1,172	1,133	1,203	1,016	1,101	1,127	1,146	1,050	1,082	1,149
39週	1,800	1,714	1,610	1,591	1,508	1,620	1,634	1,475	1,387	1,339
40週	1,660	1,513	1,384	1,467	1,398	1,348	1,350	1,313	1,223	1,140
41週	536	489	447	513	405	404	426	401	317	295
42週以上	31	12	26	24	15	8	14	6	3	4
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

※2017年までは、35週未満はまとめて集計

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500g未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
500-999g	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,000-1,499g	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1,500-1,999g	10	2	6	8	5	5	7	5	4	6
2,000-2,499g	280	244	247	250	198	225	226	187	203	195
2,500g以上	5,163	5,162	4,942	4,860	4,645	4,785	4,896	4,549	4,238	4,150

6 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	4,118	4,043	3,877	3,832	3,633	3,853	3,839	3,637	3,336	3,274
35-39歳	1,158	1,171	1,099	1,089	1,016	1,003	1,118	918	918	941
40-44歳	180	207	226	210	223	159	189	189	192	148
45歳以上	2	0	6	1	4	4	1	4	8	7

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	58	103	47	73	92	38	90	70	91	58
子宮筋腫（核出術後）	18	18	12	10	17	6	6	14	8	11
付属器異常	26	20	19	21	18	15	14	23	21	22
子宮頸がん（既往含む）	13	14	10	10	9	12	8	11	10	3
子宮形態異常（子宮奇形）	3	7	1	3	3	2	0	9	3	3
甲状腺機能亢進症	13	12	13	10	15	17	16	13	8	21
甲状腺機能低下症	21	22	28	34	29	41	31	61	42	63
糖尿病（含GDM）	9	20	40	18	18	22	15	32	47	43
呼吸器 肺炎・気管支炎	27	28	46	56	41	52	48	82	134	78
慢性腎炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
本態性高血圧	3	0	0	0	6	0	0	0	0	0
血液疾患	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1
自己免疫疾患	1	0	4	3	2	1	0	1	1	3
循環器疾患 心血管疾患	3	0	1	4	2	0	0	3	1	2
精神科疾患（含てんかん）	16	13	5	10	12	7	13	17	12	27
ウイルス性肝炎（※1）	13	9	5	4	2	4	1	2	1	3
消化器疾患(※2)	8	2	6	1	3	11	4	8	7	12
その他	1	1	7	45	16	9	5	3	5	4

※1 HA,HB,HCなど / ※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	268	455	146	242	229	243	188	190	138	179
妊娠高血圧症候群	84	77	55	119	111	100	69	83	75	87
胎児発育不全	41	38	82	30	58	34	12	19	18	10
前置胎盤	3	2	0	1	0	3	2	1	0	1
子癇	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
弛緩出血	0	0	0	150	107	159	148	203	351	249
常位胎盤早期剥離	8	12	9	20	10	8	6	9	4	8
HELLP症候群	3	1	1	1	3	2	1	3	0	1
低置胎盤	5	17	15	3	8	8	4	4	1	0
血液型不適合	18	14	13	9	8	8	7	11	7	10
羊水過少	26	47	38	53	51	34	37	37	42	41
羊水塞栓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	8	13	2	1	2	4	3	0	0	4

※1 入院のみ / ※2 早産期

※羊水塞栓は、2024年より集計開始

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮頸管縫縮術 ※予防的	23	4	10	20	28	11	11	6	6	11
子宮頸管縫縮術 ※治療的										0
産道血腫除去術	11	6	6	5	7	11	5	4	2	8
子宮動脈塞栓術	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
その他	5	1	0	0	12	0	0	18	16	10

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
輸血治療症例数	14	8	8	7	10	2	3	3	3	1

1 1 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
双胎	3	3	2	4	1	5	3
うちMD	2	0	1	2	1	3	0
うちDD	1	3	1	2	0	2	3

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎（※2018年より新規集計）

1 2 ARTによる妊娠数（例）

	2021年	2022年	2023年	2024年
ARTによる妊娠数	227	270	281	347

1 3 無痛分娩数（例）

	2021年	2022年	2023年	2024年
合計	325	339	330	364
うち経膈分娩	284	273	329	293
うち吸引分娩	17	21	57	58
うち鉗子分娩	0	0	0	0
うち帝王切開	41	45	17	13
うち麻酔科医が関与した分娩数	17	9	12	19
有害事象	0	0	0	0

1 4 染色体異常（例、重複あり）

	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数
18トリソミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
21トリソミー	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	2	1
その他の染色体・遺伝子異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

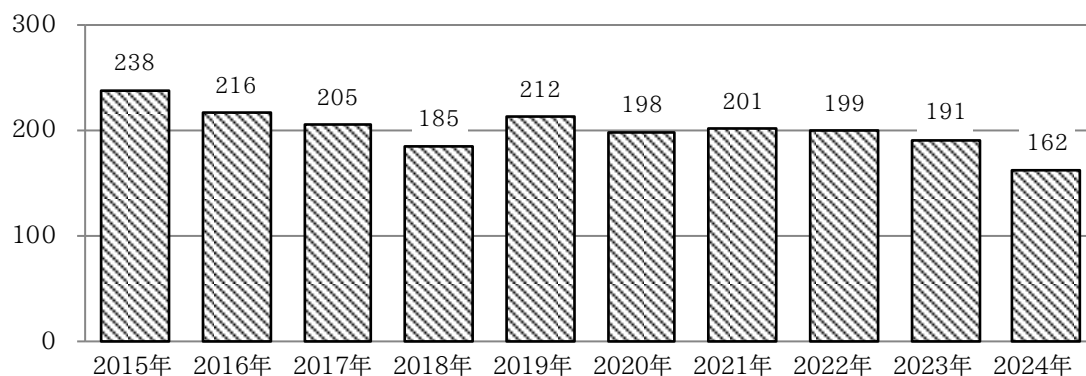
1 5 先天異常（例、重複あり）

	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
疾患名	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数	症例数	うち胎内診断数
外表奇形	5	1	8	0	5	3	6	1	6	0	8	7
心血管疾患	6	1	16	5	5	0	8	4	2	0	16	11
消化器疾患	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	4	3
泌尿器・生殖器疾患	2	0	11	7	10	10	11	10	3	2	11	8
神経系疾患	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
リンパ系疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
胸腔疾患	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	1	1
その他の先天異常	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5

第12項 県内分娩取扱助産所

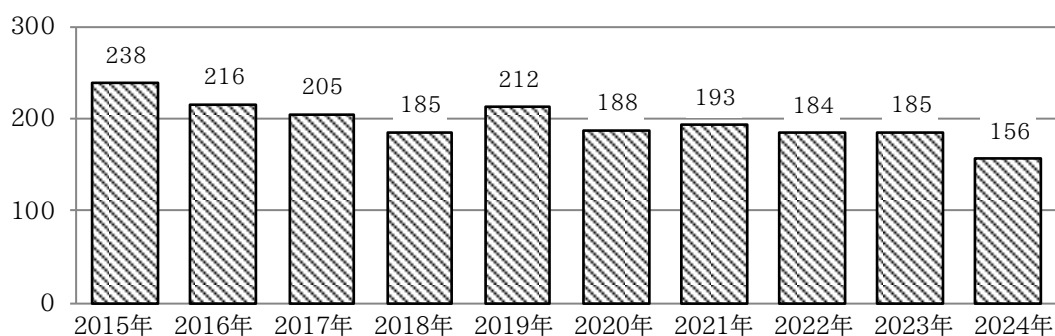
1 入院数

(例)



2 分娩数

(例)



3 分娩週数（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
36週	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
37週	14	0	12	9	18	7	8	4	6	7
38週	35	10	44	36	37	39	30	30	29	22
39週	94	43	68	66	73	74	74	76	71	55
40週	87	69	62	68	62	60	73	61	67	65
41週	7	84	19	6	22	8	8	13	9	7
42週以上	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0

4 出生体重（例、死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
2,000g以下	1	3	2	1	7	0	5	6	6	3
2,500g以上	237	213	203	184	205	188	188	178	179	153

5 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35歳未満	183	141	146	133	126	133	114	120	123	113
35-39歳	48	67	50	44	73	51	64	58	54	35
40-44歳	7	9	9	8	12	4	15	6	7	8
45歳以上	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0

6 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
子宮筋腫	3	1	5	0	1	4	2	2	0	1
付属器異常	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0
甲状腺機能亢進症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
糖尿病（含GDM）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
精神科疾患（含てんかん）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

7 産科合併症（例、重複あり）

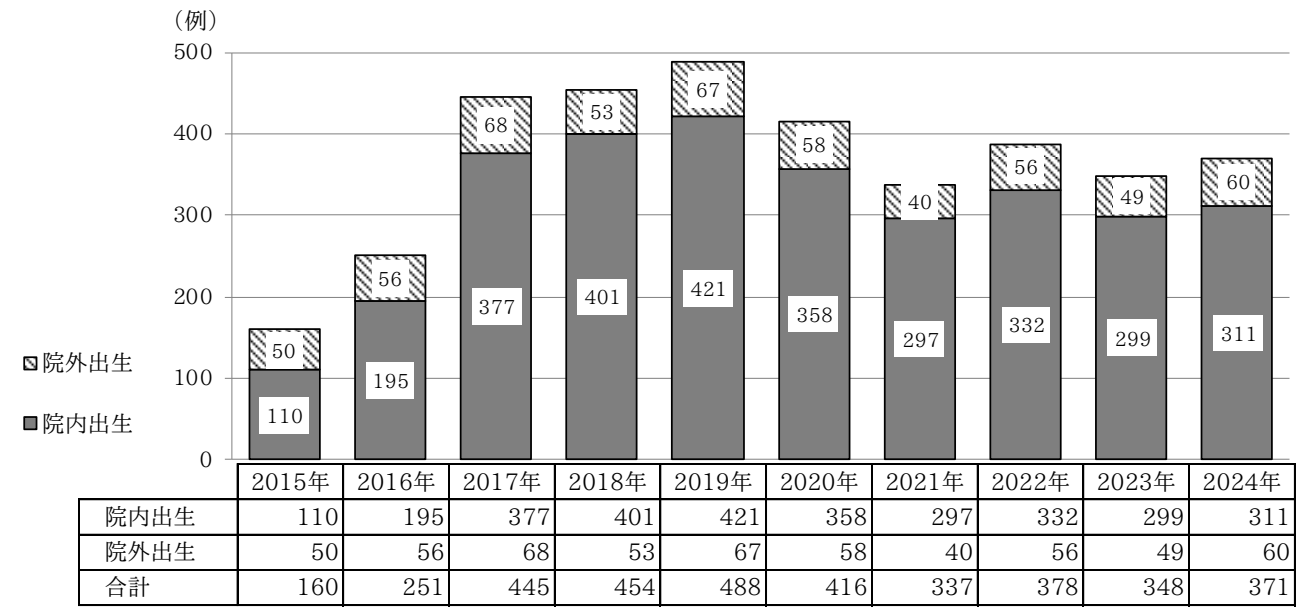
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	8	8	12	6	4	0	0	0	0	0
胎児発育不全	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
弛緩出血	0	0	1	3	12	2	4	1	3	2
常位胎盤早期剥離	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
その他	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1

※1 入院のみ / ※2 早産期

第 4 節 施設別の統計（新生児部門）

第 1 項 奈良県立医科大学附属病院 （再入院 10 件含む）

1 入院数



2 主病名（例）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
呼吸器疾患	55	52	56	58	69
新生児一過性多呼吸	26	28	38	44	50
呼吸窮迫症候群	0	1	0	0	4
胎便吸引症候群	8	5	7	7	8
無呼吸発作	11	4	8	5	5
気胸	4	12	1	2	2
気管軟化症	3	0	0	0	0
横隔膜弛緩症	1	0	0	0	0
肺低形成	1	1	0	0	0
鼻腔狭窄	1	0	0	0	0
肺毛細管形成異常	0	1	0	0	0
先天性嚢胞性腺腫性奇形	0	0	0	0	0
慢性肺疾患	0	0	2	0	0
心・循環器疾患	37	36	25	25	29
左心低形成	2	2	0	1	0
不整脈	1	2	3	0	0
大動脈縮窄症	0	2	5	1	3
右大動脈弓	0	2	0	0	0
フアロー四徴症	2	2	1	6	6
心室中隔欠損症	14	8	4	5	6
先天性動脈管開存症	1	1	0	0	0
総肺静脈還流異常症	2	2	0	0	2
両大血管右室起始	1	2	0	1	1
完全大血管転位	0	3	2	1	2
エプスタイン奇形	0	0	1	1	0
肺動脈閉鎖	3	0	0	0	0
肺動脈弁狭窄症	0	1	0	0	0
動脈管瘤	2	2	0	0	0
先天性心疾患の疑い	0	0	1	0	0
房室中隔欠損症	1	2	3	1	1
動脈管早期閉鎖	0	0	0	0	0
新生児遷延性肺高血圧	0	1	2	0	0
心房中隔欠損症	1	1	0	0	1
大動脈弓離断	1	0	0	2	2
動脈管蛇行	1	0	0	0	0
左室型単心室症	1	0	0	0	0
左上大静脈遺残	1	0	0	0	0
僧帽弁閉鎖症	1	0	0	0	0
三尖弁異形成	1	0	0	0	0
静脈管開存	1	0	0	0	0
三尖弁閉鎖	0	2	0	1	0
単心室症	0	1	0	0	0
ショーン複合	0	0	1	1	0
血管輪	0	0	1	0	0
急性循環不全	0	0	1	0	0
右大動脈弓	0	0	0	2	0
純型肺動脈弁閉鎖症	0	0	0	1	0
心室中隔欠損症・動脈管開存症・心房中隔欠損症	0	0	0	1	0
右心室型単心室症	0	0	0	0	1
右肺動脈上行大動脈起始症	0	0	0	0	1
上室性期外収縮	0	0	0	0	1
門脈・肝動脈瘻	0	0	0	0	1
門脈体循環シャント	0	0	0	0	1

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
染色体異常 奇形症候群	27	37	28	19	24
ダウン症候群	9	7	7	4	5
18トリソミー	3	3	2	2	7
13トリソミー	0	2	0	0	0
口唇口蓋裂	1	6	5	4	2
ブラダーウィリ症候群	1	0	0	0	0
尿道下裂	1	1	4	0	0
タナトフォリック骨異形成症	0	0	1	0	0
筋強直性ジストロフィー	2	0	0	0	0
先天性白内障	2	1	0	0	0
低ホスファターゼ血症	1	0	0	0	0
先天性ネフローゼ症候群	1	0	0	0	0
膀胱尿管移行部狭窄	1	0	0	0	0
顎下腺内嚢胞	1	0	0	0	0
舌根部腫瘍	1	0	0	0	0
膈前庭部腫瘍	1	0	0	0	0
重複腎盂	1	0	0	0	0
染色体異常	0	2	0	0	0
Body stalk anomaly	0	1	0	0	0
Goldenhar syndrome	0	1	0	0	0
VETER症候群	0	1	0	0	0
XXY症候群	0	1	0	0	0
コルネリア・デランゲ症候群	0	1	0	0	0
胸郭形成不全	0	1	0	0	0
結節性硬化症	0	1	0	0	1
内臓逆位	0	1	0	0	0
皮下リンパ管腫	0	1	0	0	0
多嚢胞性腎症	0	1	0	0	0
水腎症	0	1	2	0	1
卵巣のう腫	0	1	1	0	1
皮膚洞	0	1	0	0	0
腹腔内リンパ管腫	0	1	1	0	0
胎児水腫	1	1	1	0	0
先天性表皮水疱症	0	0	1	2	0
先天性内反足	0	0	1	0	0
耳介低位・耳孔欠損	0	0	1	0	0
副腎嚢胞	0	0	1	0	0
ミトコンドリア病	0	0	0	1	0
先天性嚢胞肺疾患	0	0	0	1	0
下顎腫瘍	0	0	0	1	0
多のう胞性異形成腎	0	0	0	1	0
両側水腎症	0	0	0	1	0
骨系統疾患	0	0	0	1	0
先天性側弯症	0	0	0	1	0
キャットアイ症候群	0	0	0	0	1
喉頭軟化症	0	0	0	0	1
先天性絞扼輪	0	0	0	0	1
重症筋無力症	0	0	0	0	1
小眼球	0	0	0	0	1
合趾症	0	0	0	0	1
紫斑病	0	0	0	0	1

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
脳・神経疾患	11	5	8	16	10
脳梗塞	0	0	0	1	0
髄膜瘤	0	0	0	0	0
帽状腱膜下血腫	0	0	1	0	1
新生児痙攣	1	1	1	0	1
硬膜下血腫	2	0	0	0	0
脊髄脂肪腫	1	0	0	0	0
てんかん	0	0	0	0	0
脳梁欠損症	2	0	0	0	0
脊髄髄膜瘤	0	1	0	1	0
頭蓋内出血（尾状核出血）	0	2	1	1	0
先天性水頭症	1	1	0	0	2
アペール症候群	1	0	0	0	0
仙骨部皮膚陥凹	1	0	0	0	0
頭蓋骨骨折	1	0	1	0	0
分娩時外傷性脳内出血	1	0	0	0	0
脳室拡大	0	0	2	2	0
頭血腫	0	0	1	2	1
巨大大槽	0	0	1	0	2
透明中隔のう胞	0	0	0	3	0
巨頭症	0	0	0	2	0
小脳低形成	0	0	0	2	0
頭蓋骨早期癒合症	0	0	0	1	0
急性硬膜下血腫	0	0	1	1	0
くも膜のう胞	0	0	0	0	1
頭蓋骨欠損	0	0	0	0	1
頭蓋内嚢胞	0	0	0	0	1
感染症	17	9	52	19	15
新生児感染症	14	8	5	4	4
新生児TSS様発疹症	0	0	2	0	0
先天性サイトメガロウイルス感染症	0	0	1	0	1
先天性トキソプラズマ感染症	0	1	0	0	1
GBS感染症	1	0	1	0	0
敗血症	1	0	0	0	2
左肩関節炎	1	0	0	0	0
COVID19感染母体より出生した児	0	0	42	12	6
先天梅毒	0	0	1	1	1
新生児リステリア敗血症	0	0	0	1	0
新生児B群連鎖球菌敗血症	0	0	0	1	0
代謝内分泌	18	15	7	14	8
低血糖	11	4	3	4	4
新生児一過性甲状腺機能亢進症	6	9	0	0	0
プロピオン酸血症	0	1	0	1	0
遠位尿細管性アシドーシス	0	1	0	0	0
代謝性アシドーシス	1	0	0	0	0
甲状腺機能異常	0	0	4	0	4
パセドウ病（パセドウ病母体児）	0	0	0	8	0
先天性副腎低形成症	0	0	0	1	0

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
消化管疾患	24	8	21	19	22
新生児嘔吐症	12	0	3	10	4
哺乳不良	1	1	2	2	4
腸回転異常症	0	0	0	2	0
鎖肛	3	2	2	1	3
肝嚢胞	0	0	1	0	0
新生児メレナ	0	1	2	2	0
腹壁破裂	1	0	0	0	1
臍帯ヘルニア	0	1	1	0	0
小腸十二指腸閉鎖	2	0	0	0	1
小腸閉鎖	0	0	4	0	0
先天性横隔膜ヘルニア	0	1	0	1	3
食道閉鎖	1	0	0	0	1
腸閉塞	1	0	0	0	0
肥厚性幽門狭窄症	1	0	1	0	0
壊死性腸炎	1	0	0	0	0
ヒルシュスプルング病	1	0	3	0	2
ミルクアレルギー	0	2	0	1	0
先天性十二指腸閉鎖症	0	0	1	0	0
食道閉鎖症C型	0	0	1	0	0
腹壁破裂	0	0	0	0	1
胆道閉鎖症	0	0	0	0	1
門脈血栓症	0	0	0	0	1
その他	321	259	213	234	272
低出生体重児	166	142	86	118	141
極低出生体重児	27	9	11	13	15
超低出生体重児	15	18	27	24	16
早産児	6	5	3	3	1
新生児仮死	14	10	11	7	8
新生児高ビリルビン血症	50	35	40	0	0
血友病A	0	1	0	0	0
多血症	5	2	2	0	0
ABO血液型不適合	1	2	2	0	2
Rh不適合	0	0	1	0	0
新生児薬物離脱症候群	29	27	24	27	33
墜落分娩	3	0	1	1	2
遺伝性球形赤血球症	0	1	0	0	0
未熟網膜症	1	0	0	0	0
母児間輸血症候群	2	0	1	0	0
胎児水腫	1	1	0	0	0
上腕骨折	1	0	0	0	0
未受診妊婦から出生した児	0	2	0	0	0
双胎児間輸血症候群	0	2	0	0	0
プロテインC欠乏症	0	1	0	0	0
Gilbert 症候群	0	1	0	0	0
新生児溶血性黄疸	0	0	1	0	1
ジルベール症候群	0	0	1	0	0
大腿骨骨折	0	0	1	0	0
左上肢麻痺・鎖骨骨折	0	0	1	0	0
新生児黄疸	0	0	0	32	42
新生児赤血球増加症	0	0	0	6	3
新生児の易刺激性	0	0	0	1	0
新生児低体温症	0	0	0	1	1
鎖骨骨折	0	0	0	1	2
フォン・ヴィレブランド病	0	0	0	0	1
未受診	0	0	0	0	3
上肢分娩麻痺	0	0	0	0	1

3 出生週数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
22週	1	3	1	1	1	0	0	1	0	1
23週	1	2	2	0	0	1	5	1	2	0
24週	6	3	3	2	3	1	1	5	1	6
25週	1	2	2	2	1	3	4	5	7	0
26週	1	3	6	4	1	2	1	4	6	5
27週	3	2	5	7	5	3	2	7	4	5
28週	7	5	1	3	0	5	3	8	4	4
29週	2	6	0	5	3	5	5	3	5	0
30週	4	5	5	10	7	10	4	4	5	3
31週	6	7	13	6	3	4	3	4	9	5
32週	8	10	16	8	8	13	9	3	6	8
33週	10	8	11	13	14	13	9	7	9	10
34週	11	22	24	19	32	26	13	20	14	19
35週	14	12	32	35	40	37	46	22	35	39
36週	13	20	39	38	46	34	29	23	30	26
37週以上	70	135	280	292	323	259	202	259	209	227
不明	0	0	0	3	1	0	1	2	2	3

4 出生時体重（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500g未満	1	3	3	3	2	0	2	0	1	3
500-749g	10	8	9	7	2	7	11	11	9	3
750-999g	9	9	6	11	13	8	5	16	14	10
1,000-1,249g	3	9	7	6	5	13	4	6	6	9
1,250-1,499g	10	15	15	13	8	14	5	7	7	6
1,500-1,749g	14	14	20	15	18	16	19	16	20	11
1,750-1,999g	18	26	34	42	35	31	29	15	24	33
2,000-2,249g	16	24	53	55	57	67	50	38	44	49
2,250-2,499g	15	31	53	53	50	52	44	48	30	56
2,500g以上	62	106	240	243	298	208	168	221	193	181

5 人工呼吸器管理（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
入院数（例）	225	203	177	272	280	275	344	384	348	371
人工呼吸器管理症例数（例）	84	67	63	60	54	61	96	99	126	152
人工呼吸器管理症例率（％）	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3	22.2	27.9	25.7	36.2	41.0

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科などを含む）

出生体重	出生週数	疾患名	術式
500g未満	24	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術
	26	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術×2
500-749g	24	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術×2
	24	超低出生体重児 未熟児動脈管開存症	動脈管開存症手術、急性汎発性腹膜炎手術、人工肛門造設術、網膜光凝固術×4
750-999g	24	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術
	26	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術
	26	超低出生体重児	網膜光凝固術×2
	27	大動脈弓離断複合 22q11欠失症候群	大動脈離断症手術、気管切開術
	27	超低出生体重児	網膜光凝固術
	27	超低出生体重児 未熟児網膜症	網膜光凝固術
1,000-1,249g	27	極低出生体重児 未熟児動脈管開存症 未熟児網膜症	動脈管開存症手術、網膜光凝固術
	28	極低出生体重児 未熟児動脈管開存症	動脈管開存症手術
1,250-1,499g	35	18トリソミー	気管切開術
1,500-1,749g	36	腹壁破裂	腹壁破裂修復術、小児創傷処理
1,750-1,999g	35	早産児、低出生体重児	肺動脈絞扼術
	39	心室中隔欠損症、低出生体重児、トリソミー18	気管切開
2,000-2,249g	39	大動脈弓離断複合	肺動脈絞扼術
2,250-2,499g	35	横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア修復術
	36	低出生体重児 心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
	37	心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
	38	ファロー四徴症 ダウン症候群	気管切開術
	38	大動脈縮窄複合 心室中隔欠損症	大動脈縮窄症手術、肺動脈絞扼術
	38	総肺静脈還流異常症	総肺静脈還流異常修復術
2,500-2,749g	35	新生児水頭症 肺動脈狭窄 小眼球	穿頭脳室ドレナージ術、水頭症手術(シャント手術)、気管切開術
	37	食道閉鎖 右胸心	先天性食道閉鎖根治術
	37	完全大血管転位症 未熟児動脈管開存症	大血管転位症手術(ジャテーン手術)、人工心臓
	38	ファロー四徴症 卵円孔開存症 肺高血圧症	肺動脈絞扼術
	39	低値鎖肛	鎖肛手術
	39	ファロー四徴症 鎖肛 ダウン症候群	人工肛門造設術、体動脈肺動脈短絡手術(ブラロック手術)
2,750-2,999g	37	先天性横隔膜ヘルニア	腹腔鏡下横隔膜ヘルニア手術
	39	上部総肺静脈還流異常症 大動脈離断 心室中隔欠損症 鎖肛 外耳道閉鎖 ｷｯﾄ7症候群	総肺静脈還流異常症手術、肺動脈絞扼術、大動脈縮窄症手術、試験開胸
	41	完全大血管転位症	バルーン心房中隔裂開術 (BAS)
3,000-3,249g	38	房室中隔欠損症 ダウン症候群	肺動脈絞扼術×2
	40	肺動脈弁狭窄	経皮的肺動脈弁拡張術
3,250-3,499g	41	極型ファロー四徴症 肺動脈閉鎖症	体動脈肺動脈短絡術
3,500-3,749g	40	右肺動脈上行大動脈起始症	肺動脈閉鎖症手術
3,750-3,999g	39	胆道閉鎖症	試験開腹術

7 血液浄化症例

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
500g未満	22	敗血症	全血交換輸血
3,250-3,499g	41	重症黄疸	全血交換輸血

8 出生週数別の日齢 28 日後の生存率 (%)

	2020年 (内訳)	2021年 (内訳)	2022年 (内訳)	2023年 (内訳)	2024年 (内訳)
22週	- (0 / 0)	- (0 / 0)	100.0 (1 / 1)	- (0 / 0)	- (0 / 0)
23週	100.0 (1 / 1)	100.0 (5 / 5)	100.0 (1 / 1)	100.0 (2 / 2)	- (0 / 0)
24週	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (5 / 5)	100.0 (1 / 1)	83.3 (5 / 6)
25週	66.7 (2 / 3)	75.0 (3 / 4)	100.0 (5 / 5)	85.7 (6 / 7)	- (0 / 0)
26週	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)	100.0 (6 / 6)	80.0 (4 / 5)
27週	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)	100.0 (5 / 5)
28週	80.0 (4 / 5)	100.0 (3 / 3)	100.0 (8 / 8)	100.0 (4 / 4)	75.0 (3 / 4)
29週	100.0 (5 / 5)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)	100.0 (5 / 5)	- (0 / 0)
30週	90.0 (9 / 10)	100.0 (4 / 4)	75.0 (3 / 4)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)
31週	75.0 (3 / 4)	100.0 (3 / 3)	100.0 (4 / 4)	100.0 (9 / 9)	- (4 / 5)
32週	100.0 (13 / 13)	100.0 (9 / 9)	66.7 (2 / 3)	100.0 (6 / 6)	100.0 (8 / 8)
33週	100.0 (13 / 13)	100.0 (9 / 9)	100.0 (7 / 7)	100.0 (9 / 9)	100.0 (10 / 10)
34週	100.0 (26 / 26)	100.0 (13 / 13)	95.0 (19 / 20)	100.0 (14 / 14)	100.0 (19 / 19)
35週	100.0 (37 / 37)	97.8 (45 / 46)	100.0 (22 / 22)	100.0 (35 / 35)	100.0 (39 / 39)
36週	100.0 (34 / 34)	100.0 (29 / 29)	95.7 (22 / 23)	100.0 (30 / 30)	100.0 (26 / 26)
37週以上	99.6 (258 / 259)	99.5 (201 / 202)	99.6 (258 / 259)	98.6 (206 / 209)	99.6 (226 / 227)
不明	- (0 / 0)	- (0 / 0)	100.0 (2 / 2)	100.0 (2 / 2)	- (0 / 0)

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日後の生存率 (%)

	2020年 (内訳)	2021年 (内訳)	2022年 (内訳)	2023年 (内訳)	2024年 (内訳)
500g未満	- (0 / 0)	50.0 (1 / 2)	- (0 / 0)	100.0 (1 / 1)	66.7 (2 / 3)
500-749g	100.0 (7 / 7)	100.0 (11 / 11)	100.0 (11 / 11)	88.9 (8 / 9)	100.0 (3 / 3)
750-999g	75.0 (6 / 8)	100.0 (5 / 5)	100.0 (16 / 16)	100.0 (14 / 14)	70.0 (7 / 10)
1,000-1,249g	100.0 (13 / 13)	100.0 (4 / 4)	100.0 (6 / 6)	100.0 (6 / 6)	88.9 (8 / 9)
1,250-1,499g	100.0 (14 / 14)	100.0 (5 / 5)	85.7 (6 / 7)	100.0 (7 / 7)	100.0 (6 / 6)
1,500-1,749g	93.8 (15 / 16)	94.7 (18 / 19)	87.5 (14 / 16)	90.0 (18 / 20)	100.0 (11 / 11)
1,750-1,999g	100.0 (31 / 31)	100.0 (29 / 29)	93.3 (14 / 15)	100.0 (24 / 24)	100.0 (33 / 33)
2,000-2,249g	100.0 (67 / 67)	100.0 (50 / 50)	100.0 (38 / 38)	100.0 (44 / 44)	100.0 (49 / 49)
2,250-2,499g	100.0 (52 / 52)	100.0 (44 / 44)	100.0 (48 / 48)	100.0 (30 / 30)	100.0 (56 / 56)
2,500g以上	99.0 (206 / 208)	99.4 (167 / 168)	99.5 (220 / 221)	99.5 (192 / 193)	99.4 (180 / 181)

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	3	4	4	3	1	4	2	3	0	5
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	1	1	0	0	0	1	1	2	0	1
乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）	1	4	6	1	2	2	2	0	4	3

11 新生児搬送収容数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
新生児搬送収容数	45	40	51	48	64	53	39	51	46	57

12 医療的ケア児（在宅酸素、軽快栄養等）で退院する児（数）

	2024年
医ケア児（在宅酸素、軽快栄養等）で退院する児（数）	33

1 3 死亡例（例）

出生体重	出生週数	死亡日齢	病名
500g未満	22週	17	超低出生体重児 脳室内出血4度 DIC
750-999g	24週	0	超低出生体重児 緊張性気胸
	26週	1	超低出生体重児 敗血症
	27週	67	大動脈弓離断複合 22q11欠失症候群
	28週	1	18トリソミー 先天性横隔膜ヘルニア 重症新生児仮死
1,000-1,249g	31週	1	18トリソミー 左心低形成 食道閉鎖
1,250-1,499g	35週	138	18トリソミー 心室中隔欠損 脳室内出血4度
2,250-2,499g	25週	41	横隔膜ヘルニア
3,000-3,249g	37週	5	ガラクトース血症

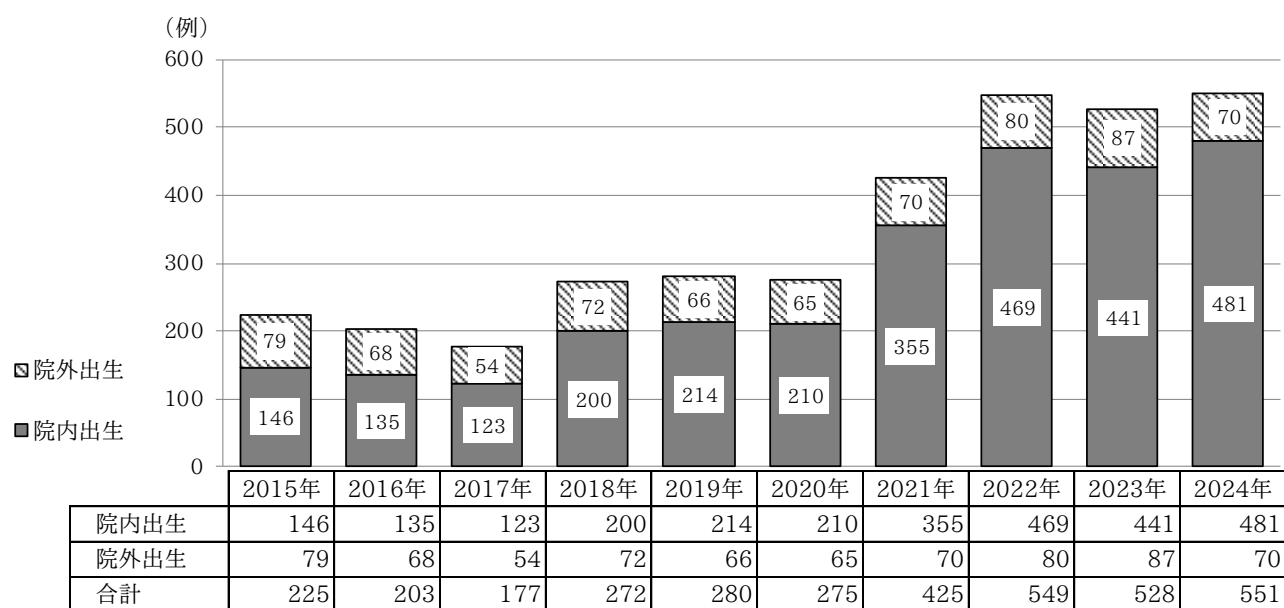
1 2 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
呼吸器疾患	10	10	16	11	16
呼吸障害	10	10	16	11	16
心・循環器疾患	8	10	7	7	10
先天性心疾患	6	10	0	6	0
心雑音	1	0	1	0	1
不整脈	1	0	1	0	0
先天性心疾患の疑い	0	0	4	0	9
チアノーゼ	0	0	1	1	0
消化管疾患	8	3	7	5	7
新生児嘔吐症	2	2	0	0	0
血便	0	1	1	0	0
鎖肛	3	0	0	0	0
腹部膨満	1	0	4	1	0
哺乳不良	2	0	0	0	0
嘔吐・哺乳不良	0	0	2	3	7
吐血・血便	0	0	0	1	0
脳・神経疾患	3	0	0	9	0
けいれん発作	2	0	0	0	0
脊椎脂肪腫	1	0	0	0	0
痙攣・無呼吸	0	0	0	4	0
頭蓋内出血	0	0	0	1	0
新生児仮死	0	0	0	4	0

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
染色体異常 奇形症候群	1	6	4	6	8
染色体異常	1	6	0	0	0
先天異常・染色体異常の疑い	0	0	4	6	8
感染症	8	3	3	4	1
感染症	8	3	3	4	1
その他	16	7	14	4	15
低出生体重児	2	4	3	3	2
超低出産体重児	1	0	0	0	0
未熟児網膜症	1	0	0	0	0
新生児仮死	3	1	3	0	4
黄疸	3	0	3	0	4
チアノーゼ	1	0	0	0	0
帽状腱膜下血腫 骨折	0	0	0	0	1
分娩麻痺（疑い含む）	1	0	0	0	1
墜落産	1	0	0	1	1
早産（出生体重2500 g以上）	1	0	0	0	0
頭蓋骨骨折	1	0	0	0	0
低血糖	0	1	0	0	1
口唇口蓋裂	0	1	0	0	0
陰部腫瘍	1	0	0	0	0
分娩外傷	0	0	4	0	0
母児感輸血症候群	0	0	1	0	0
紫斑	0	0	0	0	1

第2項 奈良県総合医療センター

1 入院数



2 主病名（例）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
呼吸器疾患	183	181	134	164	139
新生児呼吸障害	0	0	3	0	0
新生児一過性多呼吸	124	125	87	94	82
新生児無呼吸発作	11	14	0	0	0
新生児呼吸窮迫症候群	26	22	18	21	23
胎便吸引症候群	7	5	5	5	3
喉頭軟化症（疑い含む）	1	1	1	1	1
新生児気胸、新生児緊張性気胸	8	6	2	0	0
新生児慢性肺疾患	1	1	0	0	0
新生児肺出血	3	5	5	1	1
誤嚥性肺炎	1	0	0	0	0
新生児肺炎	1	0	0	0	0
縦隔気腫	0	1	2	2	3
先天性嚢胞性疾患	0	1	0	0	2
新生児無呼吸	0	0	6	20	13
新生児遷延性無呼吸	0	0	1	0	0
新生児遷延性肺高血圧	0	0	0	9	1
気胸	0	0	2	4	6
慢性肺疾患	0	0	0	3	0
先天性横隔膜ヘルニア	0	0	0	2	0
先天性肺気道奇形	0	0	0	1	0
乳び胸	0	0	2	1	2
未熟児無呼吸	0	0	0	0	2
感染症	3	11	60	24	13
新生児感染症	1	3	5	3	3
新生児TSS様発疹症	0	0	1	0	0
サイトメガロウイルス感染症	0	0	0	0	1
MRSA感染症	0	0	0	0	1
GBS感染症	0	1	0	0	0
先天梅毒（疑い含む）	0	0	0	1	1
新生児敗血症（疑いも含む）	0	1	0	0	0
新生児膿瘍症・膿瘍疹	2	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	1	0	0
ヒトパレコウイルス感染症	0	1	0	0	0
COVID019感染妊婦から出生した児	0	4	46	0	6
水痘疑い	0	1	0	0	0
新生児発疹症	0	0	2	0	0
先天性トキソプラズマ感染症疑い	0	0	1	0	0
COVID019疑似症母体から出生した児	0	0	1	15	0
COVID019濃厚接触母体から出生した児	0	0	1	3	0
COVID019疑い	0	0	2	0	0
インフルエンザ桿菌感染症	0	0	0	1	0
エンテロウイルス髄膜炎	0	0	0	1	0
バラインフルエンザ感染症	0	0	0	0	1

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
染色体異常 奇形症候群	13	7	10	14	6
18トリソミー	0	1	0	0	1
21トリソミー（疑い含む）	7	1	2	7	3
PraderWilli症候群	1	0	1	0	0
口唇口蓋裂・口蓋裂	3	1	1	4	0
両側低形成腎	1	0	0	0	0
気管支肺異形成症	0	1	0	0	0
トリーチャ・コリンズ症候群	0	1	1	0	0
ベックウィズ・ヴィーデマン症候群	1	0	0	0	0
フリーマン・シェルドン症候群	0	1	0	0	0
COL4A1遺伝子異常	0	1	0	0	0
CHARGE症候群	0	0	1	0	0
タナトホリック骨異形成症	0	0	1	0	0
軟骨無形成症	0	0	1	0	0
重複腎盂尿管	0	0	1	0	0
多指症、肋骨奇形	0	0	1	0	0
両側性唇顎裂	0	0	0	1	0
Robin sequence	0	0	0	1	0
4q欠失症候群	0	0	0	1	1
多発奇形症候群	0	0	0	0	1
心・循環器疾患	16	11	7	12	18
新生児遷延性高血圧症	3	3	0	0	0
両大血管右室起始症	0	0	0	0	0
新生児肺動脈閉鎖症	0	0	0	0	0
動脈管開存症	6	1	0	2	0
動脈管早期閉鎖	0	0	0	0	0
新生児不整脈	0	0	0	0	0
心室中隔欠損症	2	1	2	4	5
心房中隔欠損症	2	0	1	2	0
末梢肺動脈狭窄症	1	0	0	0	0
ファロー四徴症	1	1	1	1	3
肺高血圧症	0	1	0	0	0
総肺動脈還流異常	1	0	0	0	1
大動脈狭窄症の疑い	0	1	0	0	0
房室中隔欠損症	0	1	0	1	0
完全大血管転位	0	1	0	1	1
頸部動静脈瘻	0	1	0	0	0
新生児徐脈	0	0	3	0	0
大動脈縮窄	0	0	0	1	0
心室性期外収縮	0	0	0	0	2
先天性心疾患疑い	0	0	0	0	2
肺動脈弁狭窄症	0	0	0	0	1
肥大型心筋症	0	0	0	0	1
血管輪	0	0	0	0	1
不整脈疑い	0	0	0	0	1

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
消化管疾患	9	5	14	20	13
内 訳					
新生児嘔吐	2	2	5	4	2
哺乳障害	3	1	2	0	0
肥厚性幽門狭窄症	1	0	0	0	1
先天性横隔膜ヘルニア	1	0	1	0	0
血便	0	0	0	1	0
ミルク消化管アレルギー	1	0	1	5	0
胃軸捻症	0	0	2	0	1
体重増加不良	0	1	0	0	0
急性胃粘膜病変	1	0	0	0	0
脾臓出血	0	1	0	0	0
先天性食道閉鎖症	0	0	1	0	0
新生児胃破裂	0	0	1	0	0
腸回転異常疑い	0	0	1	0	0
食道裂肛ヘルニア	0	0	0	1	1
小腸閉鎖	0	0	0	1	2
腸回転異常症	0	0	0	1	0
腹壁破裂	0	0	0	1	0
ヒルシュスプルング病類縁疾患	0	0	0	1	0
鎖肛	0	0	0	1	3
先天性十二指腸閉鎖	0	0	0	1	0
胆道閉鎖症疑い	0	0	0	1	1
汎発性腹膜炎	0	0	0	1	0
哺乳不良	0	0	0	1	0
尿管遺残	0	0	0	0	1
肝血管腫	0	0	0	0	1
脳・神経疾患	5	5	3	9	10
内 訳					
新生児低酸素性虚血性脳症	4	1	0	0	0
先天性水頭症	0	0	0	2	2
mendosal suture遺残	1	0	0	0	0
新生児痙攣	0	3	1	0	3
先天性筋ジストロフィー	0	1	0	0	0
脊髄性筋萎縮症1型	0	0	1	0	0
SMARD1	0	0	1	0	0
硬膜下血腫	0	0	0	2	1
脳梁欠損	0	0	0	1	0
潜在性脊椎破裂	0	0	0	1	0
出血後水頭症	0	0	0	1	0
仙骨部脂肪腫	0	0	0	1	0
頭蓋変形	0	0	0	1	0
帽状腱膜下血腫	0	0	0	0	2
全前のう胞症	0	0	0	0	1
ウエスト症候群	0	0	0	0	1

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
代謝内分泌	1	1	18	12	10
内 訳					
甲状腺機能低下症	1	1	2	0	0
低血糖	1	7	12	6	6
高インスリン性低血糖	0	0	2	2	2
先天性副腎皮質過形成	0	0	1	1	0
新生児バセドウ	0	0	1	0	0
副腎皮質機能低下症	0	0	0	1	0
高アンモニア血症	0	0	0	1	0
先天性代謝異常疑い	0	0	0	1	0
非ケトン性高グリシン血症	0	0	0	0	1
新生児甲状腺機能亢進症の疑い	0	0	0	0	1
その他	106	199	323	342	368
内 訳					
低出生体重児	5	9	10	16	22
極低出生体重児	8	1	3	5	0
超低出生体重児	3	0	0	0	0
早産児	5	2	38	5	2
重症新生児仮死	6	5	1	7	8
新生児仮死	1	8	5	5	5
新生児重症黄疸	1	1	0	0	0
新生児黄疸	35	60	58	0	96
高ビリルビン血症	0	0	0	51	0
高インスリン性低血糖症	4	2	0	0	0
新生児低体温症	0	1	2	1	1
多血症	2	2	1	2	3
新生児ABO不適合溶血性疾患	0	0	1	0	0
双胎間輸血症候群	1	4	0	2	0
母児間輸血症候群	1	0	0	1	0
帝王切開児症候群	29	103	202	241	220
一過性骨髄増殖症	1	0	0	0	0
左側多嚢胞性異形成腎	1	0	0	0	0
先天性ネフローゼ症候群	1	0	0	0	0
未熟児網膜症	1	0	0	0	0
新生児溶血性貧血	1	0	0	0	0
新生児薬物離脱症候群	0	0	0	0	1
貧血	0	1	0	0	0
新生児播種性血管内凝固	0	0	1	1	0
両側陰嚢水腫、精索捻転疑い	0	0	1	0	0
溶血性黄疸	0	0	0	2	4
水腎症	0	0	0	1	0
リンパ管腫	0	0	0	1	0
後腹膜腫瘤	0	0	0	1	0
卵巣嚢腫	0	0	0	0	2
仙尾部奇形腫	0	0	0	0	1
両側腎盂拡張	0	0	0	0	1
哺乳不良	0	0	0	0	1
先天性内反足	0	0	0	0	1

3 出生週数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
23週	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
24週	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0
25週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26週	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
27週	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0
28週	6	2	3	1	2	1	3	4	1	0
29週	1	1	0	3	5	3	0	0	0	1
30週	5	3	2	9	2	5	5	2	3	5
31週	10	9	9	9	7	1	3	4	4	0
32週	14	13	4	7	7	5	8	10	12	6
33週	17	12	15	11	9	9	12	8	11	5
34週	22	22	21	24	27	26	25	24	15	18
35週	36	32	28	41	24	32	24	30	30	26
36週	16	14	9	20	31	22	30	55	40	67
37週以上	97	89	86	146	161	169	314	409	409	418
不明	0	0	0	0	1	0	1	3	3	5

4 出生時体重（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
500g未満	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
500-749g	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0
750-999g	2	7	0	1	0	3	1	0	1	1
1,000-1,249g	10	6	6	9	6	10	2	3	2	1
1,250-1,499g	10	7	9	10	9	5	6	8	6	9
1,500-1,749g	23	19	11	16	15	9	14	12	12	13
1,750-1,999g	35	27	27	25	24	24	35	26	31	32
2,000-2,249g	25	29	27	35	30	35	37	32	41	46
2,250-2,499g	27	27	23	40	37	25	52	76	69	73
2,500g以上	93	80	74	134	155	164	278	392	366	376

5 人工呼吸器管理（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
入院数（例）	225	203	177	272	280	275	425	549	528	551
人工呼吸器管理症例数（例）	84	67	63	60	54	61	82	73	78	69
人工呼吸器管理症例率（％）	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3	22.2	19.3	13.3	14.8	12.5

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科などを含む）

出生体重	出生週数	疾患名	術式
1,250-1,499g	31週	腸回転異常、癒着性イレウス	空腸バイパス術
1,750-1,999g	36週	小腸閉鎖	腸管吻合術
2,500-2,749g	35週	先天性水頭症、食道裂肛ヘルニア	噴門形成術、胃瘻造設術
	36週	重症新生児仮死	気管瘻造設術、幽門筋切開術
	39週	卵巣嚢腫	腹膜鏡補助下卵巣嚢腫摘出術
2,750-2,999g	37週	鎖肛	人工肛門造設術
	38週	全前う胞症	気管瘻造設術
3,000-3,249g	38週	先天性水頭症	内視鏡下透明中隔開窓術
	40週	喉頭軟化症	全身麻酔下気管支鏡検査
3,250-3,499g	39週	仙尾部奇形腫	仙尾部奇形腫切除術
	39週	小腸閉鎖	拡張腸管切除・腸管吻合術、中心静脈カテーテル留置
3,500-3,749g	40週	鎖肛	肛門形成術、尿道管結紮術

7 血液浄化症例

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
2,500-2,749g	39週	新生児黄疸	交換輸血
2,750-2,999g	40週	新生児黄疸	交換輸血

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
27週	100.0（2 / 2）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
28週	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）
29週	100.0（3 / 3）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）
30週	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）
31週	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（4 / 4）	-（0 / 0）
32週	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（10 / 10）	100.0（12 / 12）	100.0（6 / 6）
33週	100.0（9 / 9）	100.0（12 / 12）	100.0（8 / 8）	90.9（10 / 11）	100.0（5 / 5）
34週	100.0（26 / 26）	100.0（25 / 25）	100.0（24 / 24）	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）
35週	100.0（32 / 32）	100.0（24 / 24）	100.0（30 / 30）	96.7（29 / 30）	100.0（26 / 26）
36週	100.0（22 / 22）	100.0（30 / 30）	100.0（55 / 55）	100.0（40 / 40）	100.0（67 / 67）
37週以上	99.4（168 / 169）	100.0（314 / 314）	100.0（409 / 409）	99.8（408 / 409）	99.7（417 / 418）
不明	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
500g未満	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
500-749g	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
750-999g	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）
1,000-1,249g	100.0（10 / 10）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）
1,250-1,499g	100.0（5 / 5）	100.0（6 / 6）	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）	100.0（9 / 9）
1,500-1,749g	100.0（9 / 9）	100.0（14 / 14）	100.0（12 / 12）	91.7（11 / 12）	100.0（13 / 13）
1,750-1,999g	100.0（24 / 24）	100.0（35 / 35）	100.0（26 / 26）	100.0（31 / 31）	100.0（32 / 32）
2,000-2,249g	100.0（35 / 35）	100.0（37 / 37）	100.0（32 / 32）	97.6（40 / 41）	100.0（46 / 46）
2,250-2,499g	100.0（25 / 25）	100.0（52 / 52）	100.0（76 / 76）	100.0（69 / 69）	100.0（73 / 73）
2,500g以上	99.4（163 / 164）	100.0（278 / 278）	100.0（392 / 392）	99.7（365 / 366）	99.7（375 / 376）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

1 0 新生児死亡数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	2	0	1	0	2	1	0	0	1	0
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1

1 1 新生児搬送収容数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
新生児搬送収容数	78	68	56	69	66	60	68	80	82	67

1 2 医療的ケア児（在宅酸素、軽快栄養等）で退院する児（数）

	2024年
医ケア児（在宅酸素、軽快栄養等）で退院する児（数）	5

1 3 三角搬送（例）

出生体重	出生週数	日齢	主訴	収容先	三角搬送理由
2,750-2,999g	39週	0-7日	大動脈離断、心室中隔欠損症、鎖肛	奈良医大附属病院	心疾患のため
3,000-3,249g	37週	0-7日	呼吸障害	奈良医大附属病院	満床のため
3,250-3,499g	39週	0-7日	呼吸障害	奈良医大附属病院	満床のため
	41週	0-7日	ファロー四徴症、肺動脈弁閉鎖	奈良医大附属病院	心疾患のため

1 4 死亡例（例）

出生体重	出生週数	死亡日齢	病名
3,250-3,499g	41週	154	非ケトン性低グリシ血症

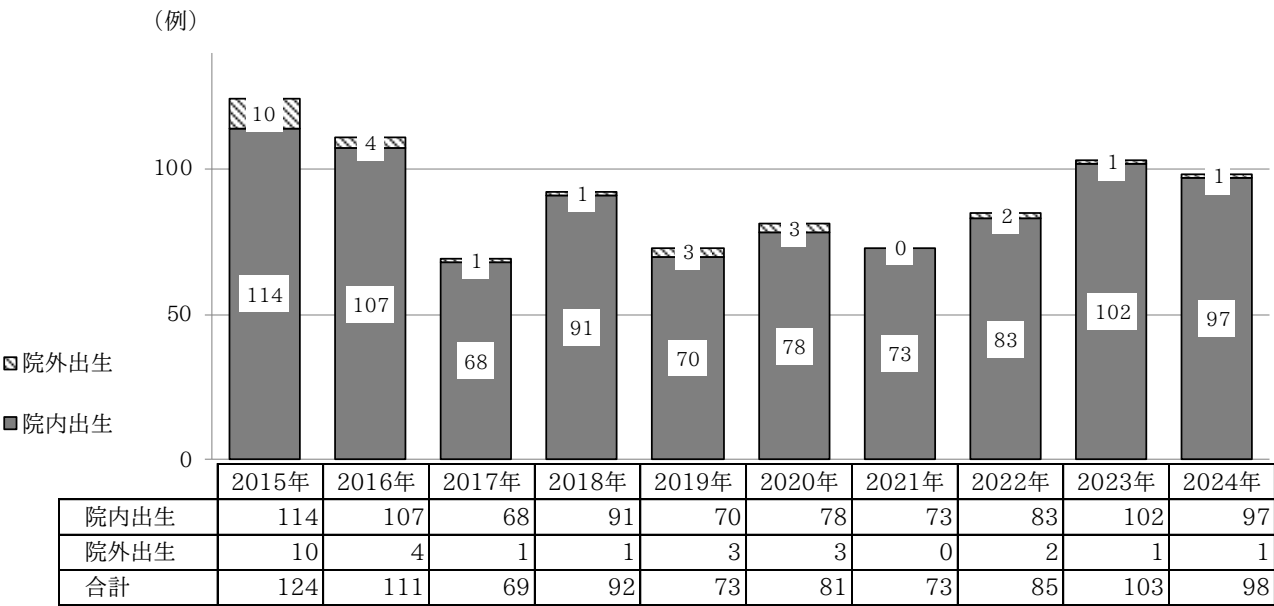
1 5 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
呼吸器疾患	53	40	45	50	33
呼吸障害	1	0	2	0	0
新生児低酸素血症	1	0	0	0	0
新生児一過性多呼吸	36	26	32	32	17
新生児無呼吸	2	3	0	0	3
新生児呼吸窮迫症候群	2	0	2	2	5
新生児気胸、新生児緊張性気胸	6	4	1	0	2
新生児肺出血	2	1	0	0	0
胎便吸引症候群	2	3	3	4	1
新生児肺炎	1	0	0	0	0
咽頭軟化症	0	1	0	0	0
左声帯不完全麻痺	0	1	0	0	0
先天性嚢胞性肺疾患	0	1	0	0	0
肺出血	0	0	4	0	1
新生児無呼吸	0	0	1	2	0
新生児遷延性肺高血圧	0	0	0	3	1
気胸	0	0	0	3	0
縦郭気腫	0	0	0	2	2
先天性横隔膜ヘルニア	0	0	0	2	0
乳び胸水	0	0	0	0	1
心・循環器疾患	5	7	3	5	11
完全大血管転位症	0	1	0	0	1
新生児遷延性肺高血圧症	1	1	0	0	0
両大血管右室起始症	0	0	0	0	0
総肺静脈還流異常	1	0	0	0	0
大動脈狭窄症の疑い	0	1	0	0	0
ファロー四徴症	1	1	0	0	3
房室中隔欠損症	1	1	0	0	0
動脈管開存症	1	1	0	1	0
頸部動静脈瘻	0	1	0	0	0
心室中隔欠損症	1	0	1	3	4
心房中隔欠損症	0	0	1	1	0
新生児徐脈	0	0	1	0	0
先天性心疾患疑い	0	0	0	0	2
肺動脈弁閉鎖症	0	0	0	0	1
消化管疾患	5	2	8	10	7
新生児嘔吐症	1	1	3	4	2
先天性横隔膜ヘルニア	1	0	0	0	0
新生児メレナ	0	0	1	0	0
哺乳不良	0	0	0	0	1
哺乳障害	3	0	2	0	0
脾臓出血	0	1	0	0	0
先天性食道閉鎖	0	0	1	0	0
腸回転異常疑い	0	0	1	0	0
ミルク消化管アレルギー	0	0	0	3	0
先天性小腸閉鎖	0	0	0	1	0
ヒルシウスブルング病類縁疾患	0	0	0	1	0
汎発性腹膜炎	0	0	0	1	0
鎖肛	0	0	0	0	1
胆道閉鎖症疑い	0	0	0	0	1
肥厚性幽門狭窄症	0	0	0	0	1
肝血管腫	0	0	0	0	1
脳・神経疾患	0	4	5	9	10
新生児痙攣	0	4	1	0	0
筋緊張	0	0	0	0	0
睡眠時ミオクローヌス	0	0	0	0	0
脊髄性筋萎縮症1型	0	0	1	0	0
新生児仮死	0	0	2	2	4
重症新生児仮死	0	0	1	4	3
仙骨部脂肪腫	0	0	0	1	0
頭蓋変形	0	0	0	1	0
硬膜下血腫	0	0	0	1	0
帽状腱膜下血腫	0	0	0	0	2
先天性水頭症	0	0	0	0	1

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
染色体異常 奇形症候群	7	5	5	8	2
染色体異常	0	1	0	0	0
口唇口蓋裂	1	1	0	1	0
18トリソミー（疑い含む）	5	1	2	6	2
ベックウィズ・ヴィーデマン症候群	1	0	0	0	0
COL4A1遺伝子異常	0	1	0	0	0
多小脳回	0	1	0	0	0
CHARGE症候群	0	0	1	0	0
PraderWilli症候群	0	0	1	0	0
軟口蓋裂	0	0	1	0	0
両側性唇顎裂	0	0	0	1	0
感染症	5	3	11	5	3
感染症（疑い含む）	3	3	5	3	2
新生児膿痂疹	2	0	0	0	0
COVID-19母体から出生した児	0	0	2	1	0
COVID19感染疑い	0	0	2	0	0
新生児TSS様発疹症	0	0	1	0	0
新生児発疹症	0	0	1	0	0
インフルエンザ桿菌感染症	0	0	0	1	0
先天性梅毒	0	0	0	0	1
その他	28	16	8	9	14
低出生体重児	0	1	2	0	3
極低出生体重児	1	0	0	0	0
超低出生体重児	2	0	0	0	0
早産児	4	0	2	0	1
新生児仮死	1	2	0	0	0
重症新生児仮死	5	3	0	0	0
黄疸	3	3	1	0	5
新生児高ビリルビン血症	0	0	0	2	0
低血糖	0	1	1	1	1
新生児ABO不適合溶血性疾患	0	1	0	0	0
新生児脱水症	1	1	0	0	0
C BW	1	1	0	0	0
新生児低酸素性虚血性脳症	1	0	0	0	0
G B S敗血症	1	0	0	0	0
新生児鎖骨骨折	1	0	0	0	0
鼠径ヘルニア	1	0	0	0	0
胎盤からの胎児出血	1	0	0	0	0
未熟児網膜症	1	0	0	0	0
母児間輸血症候群	1	0	0	1	0
先天性ネフローゼ症候群	1	0	0	0	0
新生児高インスリン血症	2	1	0	0	0
高度インスリン低血糖症	0	0	0	0	0
重症黄疸	0	1	0	0	0
低体温	0	1	1	1	0
精索捻転疑い、陰嚢水腫	0	0	1	0	0
高アンモニア血症	0	0	0	1	0
溶血性黄疸	0	0	0	1	3
副腎皮質機能低下症	0	0	0	1	0
先天性代謝異常疑い	0	0	0	1	0
多血症	0	0	0	0	1

第3項 天理よろづ相談所病院

1 入院数



2 主病名 (例)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
呼吸器疾患					
内 一過性多呼吸	10	15	25	16	21
内 呼吸障害	14	10	7	15	29
内 気胸（軽症）	1	2	0	3	3
内 無呼吸発作	0	0	1	0	0
内 胎便吸引症候群	0	0	0	0	6
内 鼻閉	0	0	0	0	1
心・循環器疾患					
内 先天性心疾患	0	1	0	0	0
内 房室中隔欠損	0	0	1	0	0
内 動脈管開存	0	0	0	0	1
内 チアノーゼ	0	0	0	0	2
消化管疾患					
内 ミルクアレルギー	0	0	0	1	0
内 腸回転異常	1	0	0	0	0
内 小腸閉鎖疑い	0	0	1	0	0
内 嘔吐症	0	0	1	0	0
内 新生児嘔吐	0	0	0	3	4
染色体異常 形態異常症候群					
内 18トリソミー	0	0	1	1	0
感染症					
内 MAS（軽症）	5	3	4	9	0
内 不明感染症	10	8	9	8	0
内 GBS感染	0	1	0	3	0
内 感染症	0	0	0	0	26

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
脳・神経疾患					
内 眼球運動異常	0	0	0	0	7
内 無呼吸発作	0	0	0	0	6
代謝内分泌					
内 低血糖症	16	7	19	13	20
内 黄疸	0	0	12	10	5
その他					
内 特発性黄疸	11	17	0	0	0
内 仮死	10	8	0	10	13
内 低体重	18	15	4	0	0
内 哺乳不良	7	0	0	0	0
内 無呼吸発作	8	0	0	0	0
内 早産児	4	12	3	0	8
内 先天性水腎症	0	1	0	0	0
内 口唇口蓋裂	0	0	1	0	0
内 硬膜下血腫	0	0	1	0	0
内 徐脈	0	0	1	0	0
内 先天性表皮水疱症	0	0	1	0	0
内 母体COVID陽性	0	0	1	0	0
内 母体COVID濃厚接触	0	0	1	0	0
内 溶血性黄疸	0	0	0	4	0
内 顔面奇形腫	0	0	0	1	0
内 墜落分娩	0	0	0	0	1
内 帽状腱膜下血腫	0	0	0	0	1

3 出生週数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
33週	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
34週	1	4	0	1	1	0	0	0	0	0
35週	6	3	4	3	3	0	3	3	5	6
36週	7	11	12	4	10	4	9	5	5	3
37週以上	110	91	52	84	59	77	61	77	93	89

4 出生時体重（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,250-1,499g	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
1,500-1,749g	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1
1,750-1,999g	3	4	2	1	1	3	1	2	2	2
2,000-2,249g	10	7	4	6	6	5	9	2	2	5
2,250-2,499g	16	11	8	13	5	10	4	15	9	9
2,500g以上	95	85	54	72	60	63	58	64	90	81
不明	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0

5 人工呼吸器管理（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
入院数（例）	124	111	68	92	73	81	73	85	103	98
人工呼吸器管理症例数（例）	0	4	2	0	6	7	11	12	24	23
人工呼吸器管理症例率（％）	-	3.6	2.9	-	8.2	8.2	15.1	14.1	23.3	23.5

6 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
35週	-（0 / 0）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（6 / 6）
36週	100.0（4 / 4）	88.9（8 / 9）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）
37週以上	100.0（77 / 77）	100.0（61 / 61）	100.0（77 / 77）	100.0（93 / 93）	100.0（89 / 89）
不明	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

7 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）	2024年（内訳）
1,250-1,499g	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）
1,500-1,749g	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	-（0 / 0）	100.0（1 / 1）
1,750-1,999g	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）
2,000-2,249g	100.0（5 / 5）	100.0（9 / 9）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（5 / 5）
2,250-2,499g	100.0（10 / 10）	100.0（4 / 4）	100.0（15 / 15）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）
2,500g以上	100.0（63 / 63）	98.3（57 / 58）	100.0（64 / 64）	100.0（90 / 90）	100.0（81 / 81）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

8 新生児死亡数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

9 新生児搬送収容数（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
新生児搬送収容数	10	4	1	1	3	3	0	0	0	1

10 医療的ケア児（在宅酸素、軽快栄養等）で退院する児（数）

	2024年
医ケア児（在宅酸素、軽快栄養等）で退院する児（数）	1

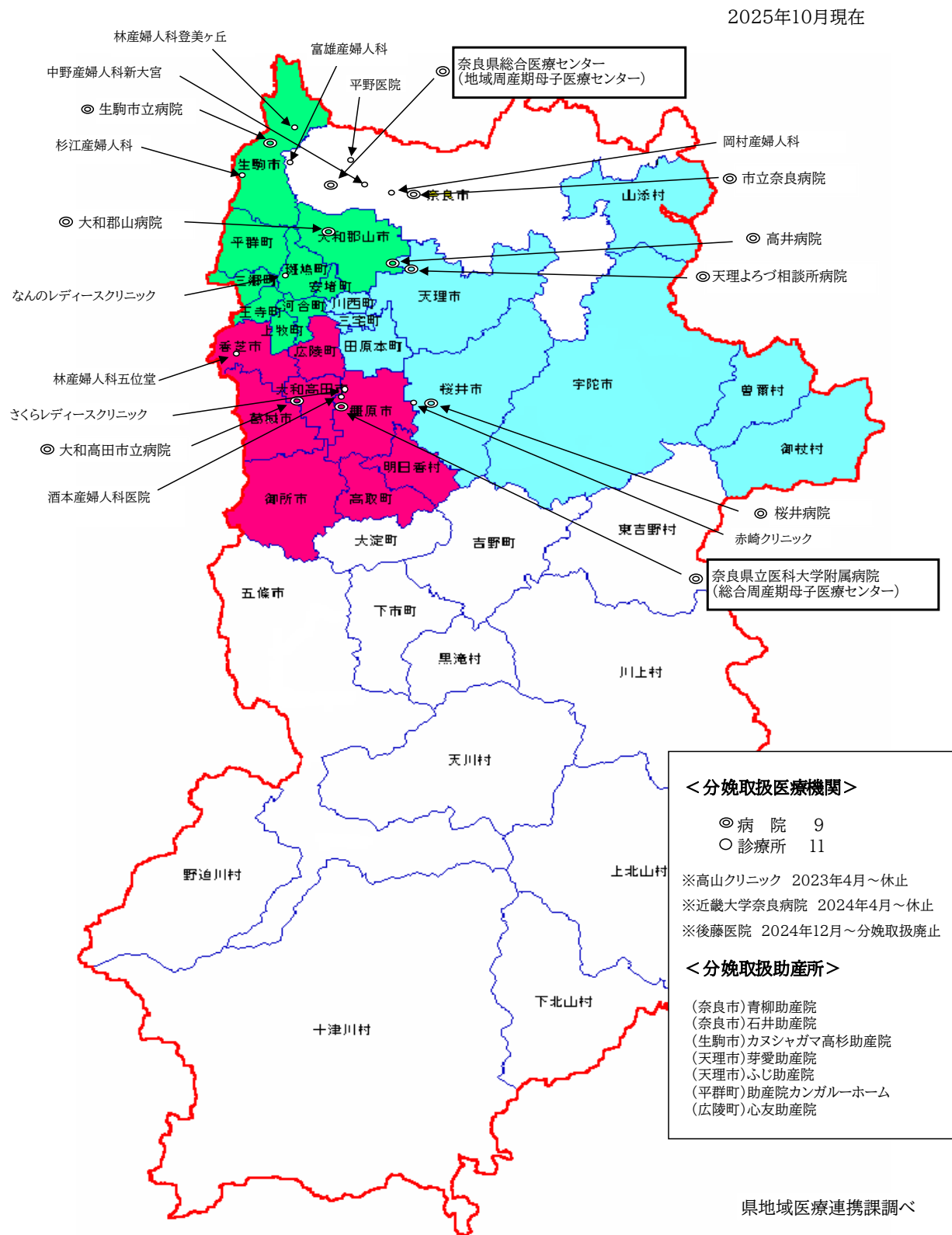
11 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
呼吸器疾患	0	0	3	0	1
内訳 呼吸障害	0	0	3	0	1
肺炎	0	0	0	0	0
消化管疾患	0	0	1	0	0
小腸閉鎖疑い	0	0	1	0	0
染色体異常 奇形症候群	0	0	0	1	0
18トリソミー	0	0	0	1	0
感染症	0	0	0	1	1
感染症	0	0	0	1	1

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
その他	3	0	1	2	2
内訳 低体重、双子	1	0	0	0	0
口唇口蓋裂	1	0	0	0	0
自宅出産	1	0	0	0	0
先天性表皮水疱症	0	0	1	0	0
重症新生児仮死	0	0	0	1	1
顔面奇形腫	0	0	0	1	1

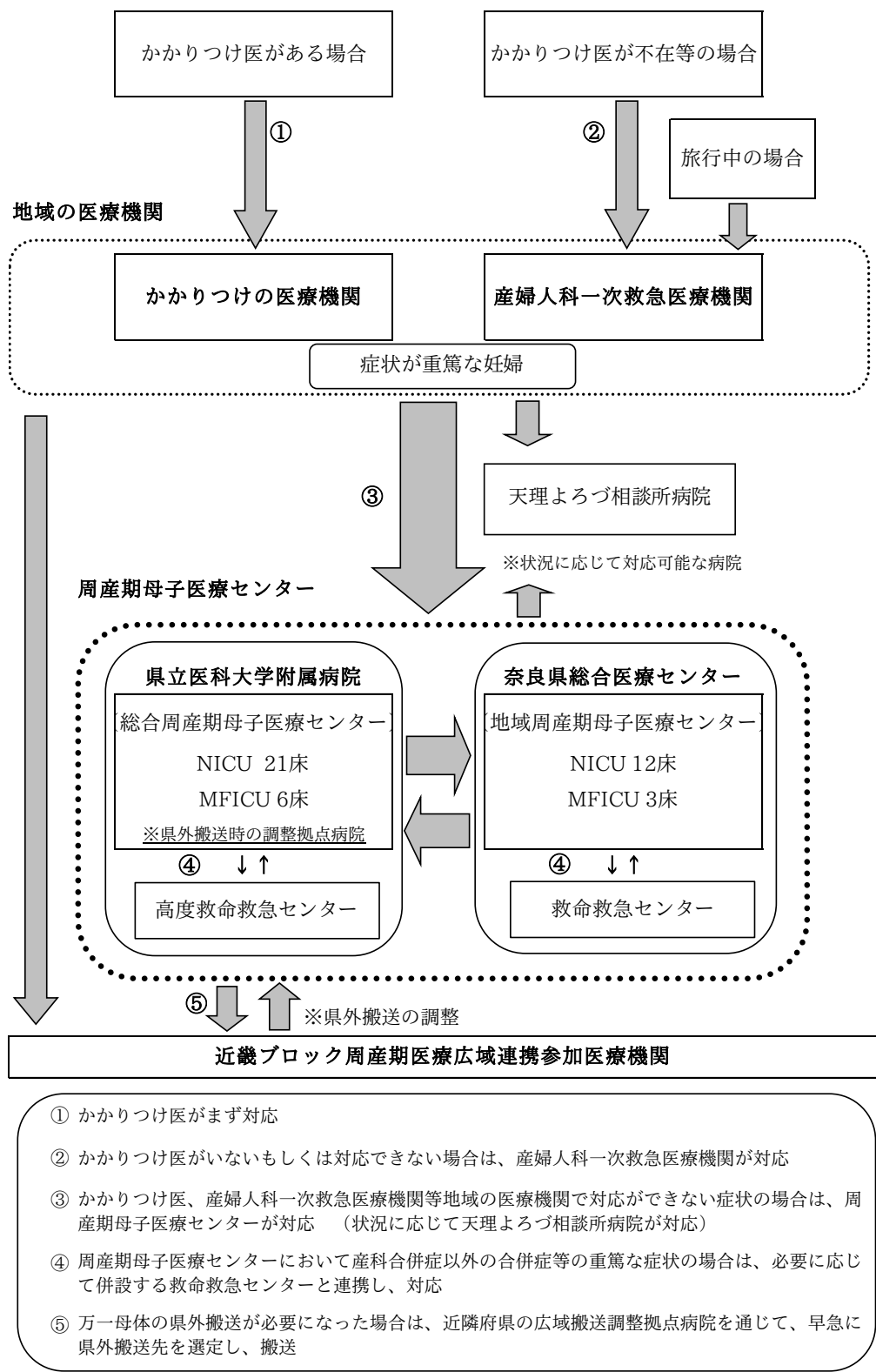
参考資料

1. 奈良県産婦人科(周産期)医療体制図



2. 母体搬送連携イメージ

2025年10月現在



3. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

(地域別、五十音順)
(2025年10月現在)

地 域	医 療 機 関 名	住 所 及 び 電 話 番 号
北和	岡 村 産 婦 人 科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市 立 奈 良 病 院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉 江 産 婦 人 科	生駒市元町1-11-3 0743-75-0123
	富 雄 産 婦 人 科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中 野 産 婦 人 科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大 和 郡 山 病 院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤 崎 ク リ ニ ッ ク	桜井市谷111 0744-43-2468
	酒 本 産 婦 人 科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜 井 病 院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内 藤 医 院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林 産 婦 人 科 五 位 堂	香芝市真美ヶ丘1丁目13-27 0745-71-5201

4. 産婦人科救急対応マニュアル(抜粋)

1. 一次救急編

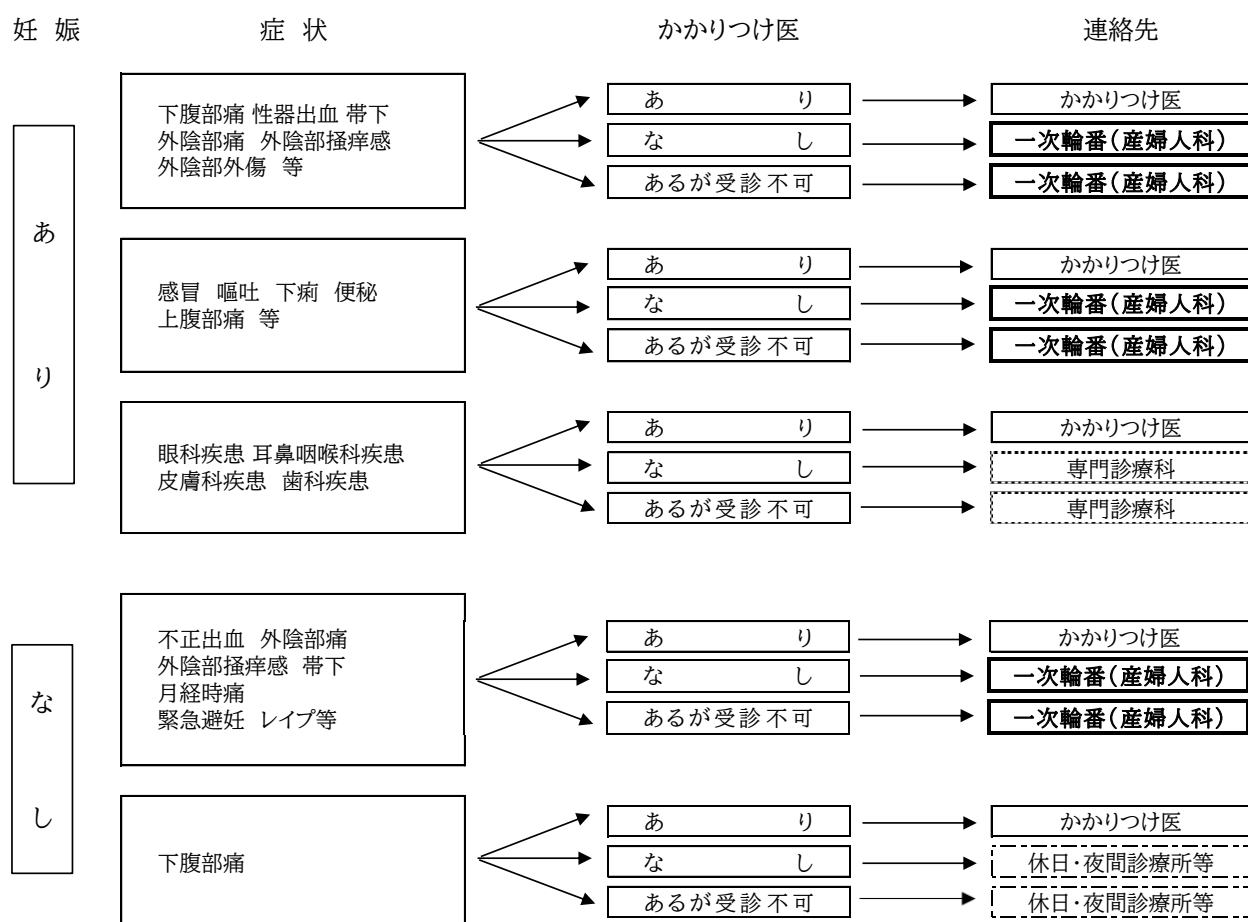
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいうまでもないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



5. 県内分娩取扱医療機関一覧

2025年10月現在

医療圏	医療機関名		住所	
奈良	1	奈良県総合医療センター	630-8581	奈良市七条西町2丁目897番5号
	2	市立奈良病院	630-8305	奈良市東紀寺町1-50-1
東和	3	高井病院	632-0006	天理市蔵之庄町470-8
	4	天理よろづ相談所病院	632-0015	天理市三島町200番地
	5	桜井病院	633-0091	桜井市桜井973
西和	6	大和郡山病院	639-1013	大和郡山市朝日町1-62
	7	生駒市立病院	630-0213	生駒市東生駒1-6-2
中和	8	奈良県立医科大学附属病院	634-0813	橿原市四条町840
	9	大和高田市立病院	635-0094	大和高田市磯野北町1番1号
病院 計		9		
奈良	10	富雄産婦人科	631-0074	奈良市三松4丁目878番1
	11	平野医院	631-0821	奈良市西大寺東町2-1-52
	12	岡村産婦人科	630-8325	奈良市西木辻町30番地
	13	中野産婦人科	630-8014	奈良市四条大路1丁目3-57
東和	14	赤崎クリニック	633-0053	桜井市大字谷111
西和	15	杉江産婦人科	630-0257	生駒市元町1丁目11-3
	16	林産婦人科登美ヶ丘	630-0115	生駒市鹿畑町55番1
	17	なんのレディースクリニック	636-0123	生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
中和	18	酒本産婦人科	634-0804	橿原市内膳町4-4-26
	19	さくらレディースクリニック	634-0803	橿原市上品寺町528
	20	林産婦人科五位堂	639-0223	香芝市真美ヶ丘1-13-27
診療所 計		11		
奈良	21	青柳助産院	630-8036	奈良市五条畑1丁目17番10-1号
	22	石井助産院	630-8107	奈良市奈保町5番21号
東和	23	芽愛助産院	632-0094	天理市前裁町274-1
	24	ふじ助産院	632-0063	天理市西長柄町388-2
西和	25	カヌシャガマ高杉助産院	630-0136	生駒市白庭台3丁目15番10
	26	助産院カンガルーホーム	636-0904	生駒郡平群町三里139-9
中和	27	心友助産院	635-0823	北葛城郡広陵町三吉赤部260-3
助産所 計		7		

(県地域医療連携課調べ)

6. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

2025年4月1日現在

区 分	役 職	氏 名
総合周産期 母子医療センター	公立大学法人奈良県立医科大学 産婦人科学教室教授	木村 文則
	公立大学法人奈良県立医科大学 総合周産期母子医療センター病院教授	内田 優美子
関 係 団 体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 産婦人科部長	佐道 俊幸
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 新生児集中治療室部長	扇谷 綾子
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 小児外科部長	米倉 竹夫
病 院	市立奈良病院 副院長・産婦人科部長	原田 直哉
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	住友 理浩
助産師会	奈良県助産師会	西川 佐稲子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良県広域消防組合警防部長)	狩森 季光
奈 良 県	福祉医療部医療政策局長	通山 雅司

7. 2024 年奈良県周産期医療年報編集会議委員名簿

2025年4月1日現在

所 属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	奈良県周産期医療年報編集委員長 産婦人科学講座講師	前川 亮
	産婦人科学講座助教	牧野 佑子
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門講師	釜本 智之
奈良県総合医療センター	周産期母子医療センター長 産婦人科部長	佐道 俊幸
	新生児集中治療部副部長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科診療講師	西岡 和弘
	小児科助教	永谷 奈央
天理よろづ相談所病院	産婦人科副部長	冨田 裕之
市立奈良病院	副院長・産婦人科部長	原田 直哉
大和郡山病院	産婦人科医長	水田 裕久
大和高田市立病院	産婦人科部長	堀江 清繁
高井病院	産婦人科部長	古川 直人
桜井病院	産婦人科副師長	森岡 由紀
生駒市立病院	総長	今村 正敏
診療所代表	奈良県産婦人科医会長 赤崎クリニック院長	赤崎 正佳
助産所代表	奈良県助産師会 心友助産院長	西川 佐稲子

8. 2024 年奈良県周産期医療年報編集ワーキンググループ委員名簿

2025年4月1日現在

所属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	奈良県周産期医療年報編集委員長 産婦人科学講座講師	前川 亮
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門講師	釜本 智之
奈良県総合医療センター	周産期母子医療センター長 産婦人科部長	佐道 俊幸
	新生児集中治療部副部長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科診療講師	西岡 和弘

9. 奈良県周産期医療協議会設置要綱

（目的）

第1条 奈良県における周産期医療の現状と課題を踏まえ、県民が安心して子どもを産み育てることのできる周産期医療の推進に向け、具体的な対応策を協議・検討するため、奈良県周産期医療協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議事項）

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 周産期医療体制に係る調査分析に関する事項
- (2) 周産期医療体制整備計画に関する事項
- (3) 母体及び新生児の搬送の受入れ（県域を越えた搬送及び受入れを含む。）に関する事項
- (4) 総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターに関する事項
- (5) 周産期医療情報センター（周産期救急情報システムを含む。）に関する事項
- (6) 搬送の調整に関する事項
- (7) 地域周産期医療関連施設等の周産期医療関係者に対する研修に関する事項
- (8) その他周産期医療体制の整備に関し必要な事項

（組織）

第3条 協議会の委員は、次に掲げる者の管理者その他関係者により組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 周産期医療機関
- (3) 周産期医療関係団体
- (4) 周産期医療関係行政機関
- (5) その他適当と認められる者

（会長）

第4条 協議会に、会長1人を置く。

- 2 会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理する。

（会議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 3 委員から特に申し出のあった場合は、代理出席を妨げない。
- 4 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

（事務局）

第6条 協議会の事務局は、奈良県福祉保険部医療政策局地域医療連携課に置く。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年 7月26日から施行する。
この要綱は、平成26年 4月 1日から施行する。
この要綱は、平成30年 4月 1日から施行する。
この要綱は、令和 7年 4月 1日から施行する。

2024 年（令和 6 年）
奈良県周産期医療年報
2025 年（令和 7 年）12 月

発行 奈良県周産期医療協議会